

防撓山形鋼ト縦肋骨トノ固著ニ付テハ第五百二十七條第三項ノ規定ニ依ル

第五百二十七條 船側横肋骨ニ設クル輕目穴ハ徑一五〇耗以下ト爲シ縦肋骨ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク外板ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第四節 横置梁

第五百二十八條 横置梁ハ船側横肋骨ニ接續シテ設ケ鋼板ノ下縁ニ面材ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ但シ膨脹「トランタ」内ノ上甲板横置梁ノ下端ハ面材ノ代リニ曲縁ト爲スコトヲ得

夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ヲ構成スル鋼板ノ深サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

- 一 Bガ一五米未満ナルトキ
- 2.66B(S-1.5)+230 (耗=テ)
- 二 Bガ一五米以上ナルトキ

5.5(B-8)(S-0.9)+210 (耗=テ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ鋼板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ左表ニ依リ定ムベシ

深	サ	(耗)
エ超ヲ下以	250—280	
	280—290	
	290—440	

厚	サ	(耗)
	9	
	9.5	
	10	

夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ截面積ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

- 一 Bガ一五米未満ナルトキ
- 0.665B+8 (平方釐=テ)
- 二 Bガ一五米以上ナルトキ

1.055B+2.15 (平方釐=テ)

膨脹「トランタ」内ノ上甲板横置梁ヲ構成スル鋼板ノ深サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ下端ヲ曲縁ト爲ストキハ其ノ幅ヲ一三〇耗ト爲スベシ但シB一

- 一 Bガ一五米未満ナルトキ
- 14.5(B-15)(5-S)+470 (耗=テ)
- 二 Bガ一二米以上ナルトキ

10B+44(S-2.5)+241 (耗=テ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ鋼板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ定ムベシ

爲スベシ

爲スベシ

- 一 Bガ一五米未満ナルトキ

1.8B+4.3 (平方釐=テ)

- 一 Bガ一五米以上ナルトキ

1.15B+14.0 (平方釐=テ)

第五百二十九條 横置梁ハ之ヲ構成スル鋼板ノ厚サト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ上甲板トハ一列銲固著、第二甲板トハ二列銲固著ト爲スベシ

横置梁ニ設クル輕目穴ハ其ノ徑ヲ一〇〇耗以下ト爲シ縦梁ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク甲板ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第五百四十條 横置梁ト縦梁トハ山形鋼ヲ以テ固著シ之ヲ横置梁ノ面材ノ縁迄延長シ横置梁ヲ防撓スベシ但シ膨脹「トランタ」内ノ上甲板横置梁ニ在リテハ交互ニ横置梁ノ下端迄及縦梁ノ下端ヨリ下方一五〇耗ノ箇所迄延長スベシ

前項ノ防撓山形鋼ノ厚サハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サニ等シクシ其ノ邊ノ幅ハ深サ六一〇耗ヲ超ユル第二甲板横置梁ニ在リテハ長防撓山形鋼、其ノ他ノ横置梁ニ在リテハ短防撓山形鋼ニ對スル第五百三十三條第二項ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムベシ

防撓山形鋼ト縦梁トノ固著ニ付テハ第五百二十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

深	サ	(耗)
エ超ヲ下以	250—340	
	340—360	
	360—520	

第二甲板横置梁ヲ構成スル鋼板ノ深サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

- 一 Bガ一五米未満ナルトキ
- 4.65(B+14)(S+0.3) (耗=テ)
- 二 Bガ一五米以上ナルトキ

32.3B+134S-442 (耗=テ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ鋼板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ定ムベシ

厚	深	サ	(耗)
	エ超ヲ下以	300—340	
		340—650	
		650—810	

第二甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ截面積ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト

第五百四十一條 夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ膨脹「トランク」ノ側壁ヨリ船側横肋骨ノ内縁迄達セシムベシ

夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ヲ膨脹「トランク」ノ側壁ニ固著スル肘板ハ其ノ厚サヲ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サト等シクシ甲板ヨリ測リタル深サ及側壁ヨリ測リタル幅ヲ横置梁ノ深サノ二倍ト爲スベシ

前項ノ肘板ハ横置梁ヲ構成スル鋼板ニ累接ニ列銲固著ト爲シ膨脹「トランク」ノ側壁ニ肘板ノ厚サト同一ノ厚サヲ有スル二重山形鋼ヲ以テ一列銲固著ト爲スベシ

第五百四十二條 膨脹「トランク」内ノ上甲板横置梁ト中心線

隔壁又ハ膨脹「トランク」ノ側壁ニ附スル堅桁トハ累接シ横置梁ヲ隔壁又ハ側壁迄達セシムルトキハ二列銲固著ト爲シ堅桁ヲ甲板迄達セシムルトキハ三列銲固著ト爲スベシ

中心線隔壁ノ堅桁ノ反對側ニ於テハ上甲板横置梁ト中心線隔壁トヲ肘板ヲ以テ固著スベシ

前項ノ肘板ノ厚サハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サト等シクシ甲板ヨリ測リタル深サハ横置梁ノ深サノ二倍、幅ハ横置梁ノ深サノ一・二倍ト爲スベシ

第五百四十四條 横置梁ノ端ニ於ケル肘板ヲ横置梁ノ上端迄延長スルトキハ之ト横置梁ヲ構成スル鋼板トハ三列銲固著ト爲スベシ

第五節 船底縦肋骨

第五百四十五條 船底縦肋骨ハ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$(S+n)^2(0.0016D^4+0.004D^2+27.7)$$

(註)三乗ニテ

Sハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔(米ニテ)

nハ一油槽内ニ設クル横肋骨ノ數一箇ナルトキハ零、二箇又ハ三箇ナルトキハ〇・六

L一二二米ヲ超ユル場合ニ於テハ横置隔壁ノ兩側ニ於テ隔壁ヨリ横肋骨ノ心距ノ四〇%ニ相當スル間船底縦肋骨ニ背面山形鋼ヲ附シ外板ニ一列銲ヲ以テ固著スベシ

第五百四十六條 船底縦肋骨ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ該隔壁ニ固著スベシ

前項ノ肘板ノ幅及深サハ縦肋骨ノ深サノ二倍ニ六五〇耗ヲ加ヘタルモノト爲シ其ノ厚サハ肘板ノ深サニ應ジ左表ニ依リ定ムベシ但シ縦肋骨ガ鋼板及面材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ肘板ノ幅ヲ深サヨリ二五〇耗減ジタルモノト爲スコトヲ得

第五百四十三條 第二甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ中心線隔壁ヨリ船側横肋骨ノ内縁迄達セシムベシ

膨脹「トランク」ノ部分ニ於テハ第二甲板横置梁ノ上縁ニ第五百三十八條第九項ニ依ル面材ヲ附シ中心線隔壁ヨリ膨脹「トランク」ノ外方ニ在ル最初ノ縦梁迄達セシムベシ

第二甲板横置梁ト中心線隔壁ノ堅桁トノ固著ニ付テハ該梁ト船側横肋骨トノ固著ニ關スル規定ヲ準用ス

中心線隔壁ノ堅桁ノ反對側ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依リ第二甲板横置梁ト中心線隔壁トヲ肘板ヲ以テ固著スベシ

一 肘板ノ寸法ハ前項ノ規定ニ依リ横置梁ト堅桁トヲ固著スル肘板ノ寸法ト等シクシ其ノ遊縁ヲ一三〇耗曲線スベシ

二 肘板ト隔壁板トノ固著ニ付テハ第五百二十五條第四項ノ規定ヲ準用ス

三 肘板ト隔壁板トヲ固著スル山形鋼ハ總テ横置梁ノ上縁ニ附スル面材迄延長スベシ

四 肘板ノ遊縁ノ長サ一・七米ヲ超ユルトキハ第五百二十五條第三項ニ定ムル寸法ノ山形鋼ヲ以テ該肘板ヲ防撓スベシ

膨脹「トランク」ノ部分ニ於ケル第二甲板横置梁ノ上縁ニ附スル面材ハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サニ一耗ヲ加ヘタル厚サヲ有スル水平扣板ヲ以テ中心線隔壁板ニ固著スベシ

肘板ノ厚サ(耗)	肘板ノ深サ(耗)
10	1150
10.5	1150—1250
11	1250—1350
11.5	1350

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁ニ固著スベシ

前項ノ山形鋼ハ横置隔壁ノ最下水平防撓材ヨリ三〇〇耗未滿ノ箇所迄延長スベシ

第五百四十七條 B一八・五米ヲ超ユルトキハ船ノ中心線ヨリBノ約四分ノ一ニ相當スル箇所ノ附近ニ船底横肋骨ト同一ノ深サヲ有スル斷切桁材ヲ縦肋骨ノ代リニ設クベシ

斷切板ノ厚サハ横肋骨板ノ厚サヨリ一耗ヲ減ジタルモノト爲シ其ノ上縁ニ斷切板ト同一ノ厚サヲ有シ各邊ノ幅九〇耗ナル二重山形鋼ヲ取附クベシ

斷切桁材ハ横肋骨ノ心距三米以下ナルトキハ中央ニ一箇、三米ヲ超ユルトキハ心距ノ三等分點ニ各一箇ノ堅山形鋼ヲ取附ケ之ヲ防撓スベシ

第五百四十八條 斷切桁板ハ横置隔壁又ハ船底横肋骨ニ單山形鋼ヲ以テ二列銲固著ト爲スベシ

斷切桁板ト隔壁トヲ固著スル山形鋼ハ桁材ノ上端ヨリ上方

一五〇耗以上ノ箇所迄延長スベシ
斷切桁板ノ面材ト横肋骨ノ面材トハ覆板ヲ以テ固著スベシ

第六節 船側縦肋骨

第五百四十九條 第二甲板下ノ船側縦肋骨ハ球形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ $L+0.4D$ ガ四・五米未満ナルトキハ四・五米トス

$$10(S+n)^2+20(h+0.4D-5)(S+2n-2)$$

(耗ノ三乗ニテ)

Sハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔(米ニテ)

hハ當該縦肋骨ヨリ船側ニ於ケル上甲板ニ至ル深サ(米ニテ)

nハ一油槽内ニ設クル横肋骨ノ數一箇ナルトキハ〇・一、二箇又ハ三箇ナルトキハ〇・四

第五百五十條 上甲板及第二甲板間ノ船側縦肋骨ノ數ハ甲板間ノ高さ二・五米ノトキ二箇ト爲シ縦肋骨ニ球形鋼ヲ用ヒタル場合其ノ截面抵抗率ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 一油槽内ニ横肋骨一箇ヲ設クルトキ
 $32\{1+0.01(D-2)^2\}(S-0.67)$ (耗ノ三乗ニテ)

第五百五十三條 上甲板ノ縦梁ハ球形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 一油槽内ニ横置梁一箇ヲ設クルトキ

(イ) L ガ一〇米未満ナル場合

$$0.39L+38(S-3)+57$$

(ロ) L ガ一一〇米以上ナル場合

$$0.62L\{1+0.5(S-3)\}+30$$

二 一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横置梁ヲ設クルトキ

$$0.57L+36(S-2.5)+33$$

Sハ横置梁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横置梁トノ間隔(米ニテ)

第二甲板ノ縦梁ハ球形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 一油槽内ニ横置梁一箇ヲ設クルトキ

$$50S+0.0027L^2-65$$

二 一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横置梁ヲ設クルトキ

$$50S+0.0025L^2-45$$

Sハ横置梁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横置梁トノ間隔(米ニテ)

第五百五十四條 縦梁ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ肘板ヲ

鋼船構造規程

二 一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横肋骨ヲ設クルトキ
 $32\{1+0.013(D-2)^2\}(S-0.60)$ (耗ノ三乗ニテ)
Sハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔(米ニテ)

第五百五十一條 船底彎曲部ニ於ケル縦肋骨ノ寸法ハ船底縦肋骨ト船側縦肋骨トノ間ニ於テ強力ニ急激ナル變化ナキ様之ヲ定ムベシ

第五百五十二條 船側縦肋骨ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ隔壁ニ固著スベシ
前項ノ肘板ノ幅及深サハ縦肋骨ノ深サノ三倍ニ二〇〇耗ヲ加ヘタルモノト爲シ其ノ厚サハ肘板ノ深サニ應ジ左表ニ依リ定ムベシ但シ甲板間ニ於ケル肘板ノ厚サハ一〇耗ヲ超ユルコトヲ要セズ

肘板ノ厚サ(耗)	肘板ノ深サ(耗)	
	下以	上起ヲ
10	850	—
10.5	850—1000	—
11	1000	—

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁ニ固著スベシ

第七節 縦梁

以テ隔壁ニ固著スベシ
前項ノ肘板ノ幅及深サハ縦梁ノ深サノ四倍ト爲シ其ノ厚サハ縦梁ノ深サニ應ジ左表ニ依リ定ムベシ

肘板ノ厚サ(耗)	縦梁ノ深サ(耗)	
	下以	上起ヲ
10	150	—
10.5	150—200	—
11	200	—

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ横置隔壁ニ一列鈹固著ト爲スベシ
肘板ノ各邊ニ於ケル鈹ノ數ガ十箇以上ナルトキハ肘板ノ遊縁ヲ曲線スベシ

第八節 外板

第五百五十五條 平板龍骨ノ幅ハ第五十三條ノ規定ニ依リ之ヲ定メ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ中央部Lノ五分ノ三間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚サヲ減ジ首尾兩端ニ於テハ算式ニ依ルモノノ七七%ト爲スコトヲ得

$$\left(12.2-0.55 \frac{L}{D}\right) \left(\frac{L}{100}\right)^2 - \left(1.37-0.33 \frac{L}{D}\right) \left(\frac{L}{100}\right) + \left(16.4-0.36 \frac{L}{D}\right) \quad (\text{耗ニテ})$$

第五百五十六條 中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船側外板ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$1.37 \left(\frac{L}{100} \right)^2 + \left(10.9 - 0.5 \frac{L}{D} \right) \left(\frac{L}{100} \right) + (4.37 + 0.2 \frac{L}{D}) \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

第五百五十七條 中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船底外板ノ厚サハ前條ニ依ル船側外板ノ厚サニ左表ニ掲グル厚サヲ加ヘタルモノ以上ト爲スベシ

L	以下
	135
0.5	—
1.0	135—150
1.5	150—160
2.0	160—175
2.5	175

第五百五十八條 縦肋骨ノ心距ガ七六〇耗ヲ超ユルトキハ超過一〇耗ニ付〇・一耗ノ割合ヲ以テ船側外板及船底外板ノ厚サヲ増スベシ

第五百五十九條 舷側厚板ノ幅ハ第十章第七條ノ規定ニ依リ之ヲ定メ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ中央部Lノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ減ジ首尾兩端ニ於テハ船側外板ノ首尾ノ厚サニ等シカラシムルコトヲ得

一 中央部Lノ二分ノ一間

$$6.9 + 0.4 \frac{L}{D} + \left(0.22 \frac{L}{D} - 0.87 \right) \left(\frac{L}{100} \right)^2 \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

二 首尾兩端

$$6.5 + 0.033L \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

第五百六十三條 中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル第二甲板ノ梁上側板ノ幅ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$0.013L^2 + 980 \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

第二甲板ノ梁上側板ノ厚サハ鋼甲板ノ厚サガ一一耗以下ナルトキハ之ニ〇・五耗ヲ加ヘタルモノト爲シ一一・五耗ヲ超ユルトキハ其ノ厚サニ等シク爲スベシ

第五百六十四條 鋼甲板ノ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル上甲板

$$7.1 + \left(0.41 \frac{L}{D} - 2.58 \right) \left(\frac{L}{100} \right)^2 \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

二 首尾ニ於ケル上甲板

$$0.663\sqrt{L+42.4} \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

三 第二甲板

$$0.94\sqrt{L-5.4} \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

縦梁ノ心距ガ七六〇耗ヲ超ユルトキハ超過五〇耗ニ付〇・

$$\frac{L}{80} \left(\frac{L}{D} - 3.8 \right) + 3.2 \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

第五百六十條 外板ノ横縁ハ油槽ノ部分ニ於テハ成ルベク之ヲ少クシ且其ノ位置ハ油密横置隔壁ト十分ニ避距スベシ

第五百六十一條 船橋樓ノ兩端及船尾樓ノ前後適當ノ間舷側厚板ノ厚サヲ中央部ニ於ケル規定ノ厚サヨリ二〇%増シ船樓外板ヲ適當ノ間船樓外ニ延長シ順次其ノ高サヲ減ジ船樓端ヨリ一・五米ヲ超エザル間隔ニ設ケタル鋼板製ノ堅桁ニテ支ヘ上下兩甲板ノ強力ノ連續ニ急激ナル變化ナカラシムベシ

船尾樓ノ前端ガ中央部Lノ二分ノ一間ニ在ルトキハ該端ノ補強ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三百二十九條ノ規定ニ依ル

第九節 甲板

第五百六十二條 上甲板ノ梁上側板ノ幅ハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ首尾兩端ニ於テハ其ノ七〇%以上ト爲スベシ

$$0.037L^2 + 870 \quad (\text{耗}=\text{チ})$$

上甲板ノ梁上側板ノ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

三 耗ノ割合ヲ以テ鋼甲板ノ厚サヲ前項ノ規定ニ依ルモノヨリ増スベシ

第五百六十五條 同一横截面ニ於ケル上甲板ノ開口ノ幅ノ和ガ二・五米ヲ超ユルトキハ上甲板ノ梁上側板及鋼甲板ノ厚サヲ増加シ其ノ面積ノ和ヲ開口ノ幅ノ和ガ二・五米ナル場合ニ於ケル規定ノ梁上側板及鋼甲板ノ面積ノ和以上ト爲スベシ

第五百六十六條 第二甲板ノ梁上側板及鋼甲板ノ厚サハ油槽及防油區畫ノ範圍ニ於テハ中央部ノ厚サヲ保持スルコトヲ要ス

上甲板ノ梁上側板及鋼甲板ハ中央部ニ於ケル厚サヲ船尾樓ノ前端ヨリ後方少クトモBノ三分ノ一ニ相當スル箇所迄持續スベシ

上甲板ノ梁上側板ノ厚サハ船橋樓ノ兩端及船尾樓ノ前端ニ於テ少クトモ六米ノ間中央部ニ於ケル規定ノ厚サヨリ二〇%増スベシ

船尾樓ノ前端ガ中央部Lノ二分ノ一間ニ在ルトキハ該端ノ補強ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ第三百二十九條ノ規定ニ依ル

第五百六十七條 油槽ノ部分ニ於ケル上甲板ノ舷縁山形鋼ノ厚サハ梁上側板ノ厚サニ等シクシ其ノ各邊ノ幅ハ舷側厚板ノ厚サニ應ジ左表ニ依リ定ムベシ

舷側厚板ノ厚サ(耗)	24 以下
各邊ノ幅(耗)	150
	180
	200
	24.5 — 29.0
	29.5 — 30.5

第二甲板ノ舷縁山形鋼ハ横置隔壁ヲ貫通セシメ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ各邊ノ幅ハL八〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ一三〇耗、L八〇米以上ノ船舶ニ在リテハ一五〇耗以上ト爲スベシ

$$0.75G \sqrt{L+89} \quad (\text{耗}=\text{テ})$$

舷縁山形鋼ノ各邊ハ二列鋲固著ト爲スベシ

第五百六十八條

鋼甲板及梁上側板ノ横縁ハ油槽ノ部分ニ於テハ成ルベク之ヲ少クシ且其ノ位置ハ油密横置隔壁ト十分ニ避距スベシ

甲板ニ設クル開口ノ四隅ニハ十分丸味ヲ附スベシ

上甲板ノ舷縁山形鋼ニ排水ノ爲切込ヲ設クルコトハ成ルベク之ヲ避クベシ

第十節 横置隔壁

第五百六十九條

本節ノ規定ハ油槽ノ隔壁、防油區畫及「ボンプ」室ノ隔壁ニ適用ス

第五百七十條

隔壁板ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シハ・五耗ヨリ小ナルコトヲ得ズ

堅桁ハ桁板ノ内縁ニ面材ヲ取付ケタル構造ト爲シ桁板ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$\text{深サ} \quad 31.5(S+0.48)/L+150 \quad (\text{耗}=\text{テ})$$

$$\text{厚サ} \quad 0.0033d_0+7.7 \quad (\text{耗}=\text{テ})$$

Sハ當該堅桁ヨリ之ニ隣接スル堅桁、中心線隔壁又ハ外板ニ至ル各區間ノ中心間ノ距離(米ニテ)但シ各舷ニ堅桁三箇ヲ設クルトキハ中央ノ堅桁ニ付テハ其ノ左右ノ堅桁ニ至ル區間ノ中心間ノ距離ノ代リニ其ノ一・一倍ヲ採ルモノトス

ハ船底縱肋骨ノ上縁ヨリ第二甲板迄測リタル堅桁ノ長さ(米ニテ)

d₀ハ桁板ノ深サ(耗ニテ)

面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ面積ヲ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

- 一 /ガ六米未滿ナルトキ
- 1.33P-1.4(G.79-h)+17.5 (平方耗=テ)
- 二 /ガ六米以上ナルトキ
- 0.96P+1.4(h-2.16)-7.94 (平方耗=テ)

ハ船底縱肋骨ノ上縁ヨリ第二甲板迄測リタル堅桁ノ長さ(米ニテ)

hハ堅桁ノ上端ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至ル高さ(米ニテ)

鋼船構造規程

$$7.88+0.42H \quad (\text{耗}=\text{テ})$$

Hハ各隔壁板ノ下縁ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板迄ノ距離(米ニテ)

水平防撓材ノ心距ガ七六〇耗ヲ超ユルトキハ超過一〇〇耗ニ付〇・五耗ノ割合ヲ以テ隔壁板ノ厚サヲ前項ノ規定ニ依ルモノヨリ増スベシ

隔壁ノ最下部ニ用フル板ノ厚サハ前二項ノ規定ニ依ル厚サニ一耗ヲ加ヘタルモノ以上ト爲シ其ノ幅ハ船底縱肋骨ニ付スル肘板及其ノ固著用山形鋼ノ上部ニ於テ縱縁固著ヲ爲スニ足ルモノト爲スコトヲ要ス

第五百七十一條

横置隔壁ト外板、甲板、中心線隔壁並ニ膨脹「トランク」ノ側壁及頂板トハ二重山形鋼ヲ以テ一列鋲固著ト爲スカ又ハ單山形鋼ヲ以テ二列鋲固著ト爲スベシ

前項ノ二重山形鋼ハ横置隔壁ノ深サハ・五米以下ナルトキハ各邊ノ幅ヲ七五耗、厚サヲ隔壁ノ最下部ノ板ノ厚サヨリ二耗減ジタルモノト爲シ横置隔壁ノ深サハ・五米ヲ超ユルトキハ各邊ノ幅ヲ九〇耗、厚サヲ最下部ノ板ノ厚サヨリ二・五耗減ジタルモノト爲スベシ

第一項ノ單山形鋼ノ各邊ノ幅ハ一五〇耗ト爲シ厚サハ隔壁ノ最下部ノ板ノ厚サト等シク爲スベシ

第五百七十二條

第二甲板下ノ横置隔壁ニハ第五百七十三條乃至第五百七十七條ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

第五百七十三條

堅桁ニ設クル輕目穴ハ其ノ徑ヲ一五〇耗以下ト爲シ水平防撓材ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク隔壁ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第五百七十四條

堅桁ノ面材ハ縱梁ノ下端ヨリ船底縱肋骨ノ上端迄達セシムベシ

第五百七十五條

堅桁ノ端ハ桁板ノ厚サニ一耗ヲ加ヘタル厚サヲ有シ遊縁ヲ一三〇耗曲線シタル肘板ヲ以テ縱梁及船底縱肋骨ニ固著スベシ

前項ノ肘板ノ深サハ縱梁ノ下縁又ハ船底縱肋骨ノ上縁ヨリ測リ堅桁ノ長さノ二〇%以上ト爲シ幅ハ桁板ノ遊縁ヨリ測リ七五〇耗以上ト爲スベシ

肘板ト堅桁ノ桁板、縱梁及船底縱肋骨トハ累接ニ列鋲固著ト爲スベシ又肘板ヲ隔壁板迄延長シ桁板ニ兼用スルトキハ之ト之ニ隣接スル桁板トハ累接ニ列鋲固著ト爲スベシ

第五百七十六條

堅桁ノ桁板ト水平防撓材トハ左ノ各號ノ規定ニ依リ固著スベシ

一 堅桁ノ長さノ略中央ニ於ケル水平防撓材ト桁板トハ其ノ面材ノ縁ニ達スル水平肘板ヲ以テ固著スベシ

二 其ノ他ノ水平防撓材ト桁板トハ山形鋼ヲ以テ固著シ之ヲ交互ニ堅桁ノ面材ノ縁迄及桁板ノ深サノ二分ノ一迄延長シ桁板ヲ防撓スベシ但シ桁板ノ深サノ二分ノ一ノ箇所ガ水平防撓材ノ遊縁ヨリ一五〇耗未滿ノ距離ニ在ルトキ

ハ遊縁ヨリ一五〇耗ノ箇所迄山形鋼ヲ延長スベシ
 前項第二號ノ防撓山形鋼ハ堅桁ノ深サ五〇〇耗以下ナルト
 キハ總テ面材ノ縁迄達セシムルコトヲ要シ又堅桁ノ下端ノ
 肘板ノ範圍ニ在ル水平防撓材ヲ固著スルモノニ在リテハ該
 肘板ノ遊縁迄達セシムルコトヲ要ス
 防撓山形鋼ノ寸法ハ其ノ長短ニ從ヒ桁板ノ深サニ應ジ第五
 百三十三條ノ表ヲ準用シテ之ヲ定ムベシ但シ堅桁ノ下半部
 ニ附スル防撓山形鋼ハ總テ長防撓山形鋼ノ寸法ニ依ルベ
 シ

防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固著ニ付テハ第五百二十七條
 第三項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十七條 堅桁ハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼
 ヲ以テ隔壁板ニ二列鉸固著ト爲スベシ但シD七米以下ナル
 トキハ一列鉸固著ト爲スコトヲ得

堅桁ト隔壁板トヲ固著スル鉸ノ徑ハD七・六米以下ナルト
 キハ一九耗、七・六米ヲ超ユルトキハ二二耗ト爲スベシ

第五百七十八條 膨脹「トランク」内ノ横置隔壁ニハ左ノ各號
 ノ規定ニ依ル堅桁ヲ設クベシ

一 堅桁ハ遊縁ヲ曲線ト爲シタル桁板ヲ單山形鋼ヲ以テ隔
 壁ニ固著シタル構造ト爲スベシ

二 桁板ノ深サ及厚サハ左表ニ依リ之ヲ定メ曲線ノ幅ハ一
 三〇耗ト爲スベシ

置隔壁ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ水平防撓材ヲ設クベシ
 一 水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ
 截面抵抗率ヲ支點間隔ノ種別ニ應ジ左ノ算式ニ依リ算定
 シタルモノノ以上ト爲スベシ此ノ場合一防撓材ニ付其ノ部
 分ニ依リ支點間隔ガ異ルトキハ最大ノ間隔ニ對シ算定シ
 タルモノノ以上ナルコトヲ要ス

支點間隔ノ種別	h	算式
堅桁間ノ間隔	三米以上	$5.15S^2h$ (種ノ三乘ニテ)
	三米未満	$5.15S^2h + 22.3(3-h)$ (種ノ三乘ニテ)
外板又ハ中心線隔壁ト堅桁トノ間隔	三米以上	$5.15(S-0.75)^2h + 30$ (種ノ三乘ニテ)
	三米未満	$5.15(S-0.75)^2h + 30 + 13.3(3-h)$ (種ノ三乘ニテ)

Sハ各場合ニ於ケル支點間隔(米ニテ)

hハ當該水平防撓材ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至ル深サ(米ニテ)

二 最下水平防撓材ハ船底縱肋骨ヲ隔壁ニ固著スル肘板ノ
 上端ヨリ七六〇耗以下ニシテ且該肘板ト隔壁板トヲ固著
 スル山形鋼ノ上端ヨリ二〇〇耗未満ノ箇所ニ取附クベ
 シ

三 水平防撓材ト中心線隔壁ノ水平防撓材及船側縱肋骨ト
 ハ第五百五十二條ノ規定ヲ準用シ肘板ヲ以テ固著スベシ

桁板ノ深サ及厚サ	甲板間ノ高さ		B
	3.0*	2.5*	
440×9	440×9.5	410×9	9
440×9.5	450×10	430×9	10
450×10	460×10.5	440×9.5	12
460×10.5	480×10.5	440×10	14
480×10.5	500×10.5	450×10.5	16
500×10.5	530×10.5	470×10.5	18
530×10.5	550×10.5	490×10.5	21
550×10.5		510×10.5	24

三 堅桁ノ端ハ肘板ヲ以テ二列鉸固著ト爲スベシ

肘板ノ幅及深サハ桁板、縦梁又ハ固著用山形鋼トノ累接
 ノ部分ヲ除キ桁板ノ深サ以上ト爲スベシ

四 甲板間ノ高さガ二・五米ヲ超ユルトキハ桁板ト隔壁板
 トヲ二列鉸固著ト爲スベシ

前項ノ堅桁ノ桁板ト水平防撓材トハ山形鋼ヲ以テ固著シ之
 ヲ堅桁ノ内端迄延長シ桁板ヲ防撓スベシ

前項ノ防撓山形鋼ノ厚サハ桁板ノ厚サニ等シクシ其ノ邊ノ
 幅ハ船側縱肋骨ノ短防撓山形鋼ニ對スル第五百三十三條ノ
 規定ニ依リ之ヲ定ムベシ

防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固著ニ付テハ第五百二十七條
 第三項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十九條 第二甲板下及膨脹「トランク」内ニ於ケル横

但シ中心線隔壁ノ水平防撓材ニ固著スル肘板ハ横置隔壁
 ノ水平防撓材ノ深サガ二五〇耗未満ナルトキハ其ノ遊縁
 ヲ曲線スルコトヲ要セズ

第五百八十條 横置隔壁ニハ第二甲板ノ位置ニ膨脹「トラン
 ク」ノ側壁ヨリ側壁ニ達スル横桁ヲ設クベシ但シ第二甲板
 ニ依リ該部分ノ横置隔壁ヲ支持スルトキハ此ノ限ニ在ラ
 ズ

横桁ノ幅ハ第二甲板下ノ堅桁ノ幅ノ一・五倍及七五〇耗ノ
 中大ナルモノノ以上、桁板ノ厚サハ堅桁ノ桁板ノ厚サ以上ト
 爲シ其ノ遊縁ニ一三〇耗ノ曲線ヲ設クベシ

横桁ト横置隔壁トハ山形鋼ヲ以テ一列鉸固著ト爲シ横桁ト
 中心線隔壁又ハ膨脹「トランク」側壁トハ單山形鋼ヲ以テ二
 列鉸固著ト爲スベシ

横桁ト第二甲板下ノ堅桁トハ桁板ノ厚サニ一耗ヲ加ヘタル
 厚サヲ有シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ固著スベシ

前項ノ肘板ノ深サハ堅桁ノ長サノ二〇%以上ト爲シ其ノ幅
 ハ横桁ノ内端ニ達スルモノト爲スベシ

横桁ト堅桁及肘板トハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル二重山形
 鋼ヲ以テ二列鉸固著ト爲スベシ

第五百八十一條 夏期油槽内ノ横置隔壁ニハ船側縱肋骨ノ位
 置ニ水平防撓材ヲ設クベシ

水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面

抵抗率ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$13(l-3)^2(h-0.75)^2+32l+20h-36$$

(欄ノ三乗ニテ)

ハ水平防撓材ノ長さ(米ニテ)

hハ當該水平防撓材ヨリ上甲板ニ至ル深サ(米ニテ)

前項ノ防撓材ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル堅防撓材ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

- 一 防撓材ニハ球山形鋼ヲ用ヒ其ノ寸法ハ甲板間ノ高さニ・五米ナルトキハ一五〇×七五×一〇(耗ニテ)、甲板間ノ高さ三米ナルトキハ一六五×七五×一〇(耗ニテ)ト爲スベシ
- 二 防撓材ノ下端ノ肘板ヲ第二甲板ニ固著スル銀ノ數ハ甲板間ノ高さニ・五米ナルトキハ四箇、三米ナルトキハ五箇ト爲スベシ

第五百八十二條

肘板ヲ隔壁板ニ固著スル山形鋼ハ肘板ノ端ヲ超エ少クトモ一五〇耗延長スベシ
肘板及山形鋼ハ周圍山形鋼ヨリ十分離シテ隔壁ニ取附ケ有
效ニ填隙シ得ル餘地ヲ存セシムベシ

第十一節 中心線隔壁

第五百八十三條

第五百七十條ノ規定ハ中心線隔壁ニ之ヲ準用ス
Dハ・五米ヲ超ユルトキハ隔壁ノ最上部ニ用フル板ハ其ノ

骨ノモノト等シク爲スベシ

二 桁板ノ厚サハ船側橫肋骨板ノ厚サヨリ一・五耗ヲ減ジタルモノト爲スベシ但シ九耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

三 船底橫肋骨ト堅桁トノ固著ニ付テハ該橫肋骨ト船側橫肋骨トノ固著ニ關スル規定ヲ準用シ第二甲板橫置梁ト堅桁トノ固著ニ付テハ該橫置梁ト船側橫肋骨トノ固著ニ關スル規定ヲ準用ス

四 水平防撓材ト堅桁ノ桁板トノ固著ニ付テハ第五百七十條ノ規定ヲ準用ス

五 堅桁ハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁板ニ二列銀固著ト爲スベシ

六 堅桁ト隔壁板トヲ固著スル銀ノ徑ハLト橫肋骨心距(米ニテ)トノ積ガ三七〇以下ナルトキハ一九耗、三七〇ヲ超ユルトキハ二二耗ト爲スベシ

第五百八十六條

膨脹「トランク」内ノ中心線隔壁ニハ前條ノ堅桁ノ位置ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

一 堅桁ハ遊縁ヲ一三〇耗曲線シタル桁板ヲ單山形鋼ヲ以テ隔壁板ニ固著シタル構造ト爲スベシ

二 桁板ノ厚サハ堅桁ノ長さガ三米以下ナルトキハ一〇耗、三米ヲ超ユルトキハ一〇・五耗ト爲スベシ

三 桁板ノ幅ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ其ノ下端ヨリ漸次減少シテ上端ニ於テハ左ノ算

幅ヲ一・五米以上、其ノ厚サヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ直下ノ板ノ厚サハ其ノ上下ニ隣接スル板ノ厚サノ平均以上ト爲スベシ

$$0.732D+3.3$$

(耗ニテ)

第五百八十四條 中心線隔壁ト平板龍骨及上甲板トハ二重山形鋼ヲ以テ一列銀固著ト爲スベシ

中心線隔壁ト平板龍骨トヲ固著スル山形鋼ハ各邊ノ幅ヲ一〇〇耗ト爲シ其ノ厚サヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

前項ノ山形鋼ノ厚サハ中央部Lノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次減少シテ首尾兩端ニ於テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノト爲スコトヲ得

$$0.0372L+9.5$$

(耗ニテ)

中心線隔壁ト上甲板トヲ固著スル山形鋼ノ各邊ノ幅ハL一〇〇米以下ナルトキハ七五耗、一二〇米ヲ超ユルトキハ九〇耗ト爲シ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$0.0284L+9.5$$

(耗ニテ)

第五百八十五條 第二甲板下ノ中心線隔壁ニハ船底橫肋骨ノ位置ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

一 堅桁ノ桁板ノ幅及面材ノ寸法ハ之ニ對應スル船側橫肋骨ニ依ルモノヨリ一五〇耗ヲ減ジタルモノト爲スコトヲ得

$$275\sqrt{18-5S}$$

(耗ニテ)

ハ堅桁ノ長さ(米ニテ)

Sハ堅桁ノ心距(米ニテ)

四 桁板上甲板及第二甲板ノ橫置梁ヲ構成スル鋼板トハ累接ニ二列銀固著ト爲スベシ但シ桁板上甲板迄延長シ該鋼板ニ兼用スルトキハ之ト橫置梁ヲ構成スル鋼板トハ累接三列銀固著ト爲スベシ

五 水平防撓材ト堅桁ノ桁板トハ山形鋼ヲ以テ固著シ之ヲ交互ニ桁板ノ内端迄及水平防撓材ノ遊縁ヨリ二〇〇耗ノ箇所迄延長シ桁板ヲ防撓スベシ

六 前號ノ防撓山形鋼ノ厚サハ桁板ノ厚サニ等シク其ノ邊ノ幅ハ船側橫肋骨ノ短防撓山形鋼ニ關スル第五百三十三條ノ規定ニ依リ之ヲ定ムベシ

七 防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固著ニ付テハ第五百二十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十七條

中心線隔壁ニハ橫置隔壁ノ水平防撓材ノ位置ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル水平防撓材ヲ設クベシ

一 水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距七六〇耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$10(S+n)^2+20(h-2)(S+2n-2)$

(蓋ノ山形鋼ニテ)

Sハ堅桁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト堅桁トノ間隔(米ニテ)
hハ當該水平防撓材ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至
ル深サ(米ニテ)但シ二米未滿ナルトキハ二米トス
nハ一油槽内ニ設クル堅桁ノ數一箇ナルトキハ〇・一、
二箇又ハ三箇ナルトキハ〇・三

二 水平防撓材ト横置隔壁ノ水平防撓材トハ第五百七十九
條第三號ノ規定ニ依リ肘板ヲ以テ固著スベシ

第五百八十八條 中心線隔壁ヲ横置隔壁ニ止ムルトキハ横置
隔壁ノ他面ニ大ナル肘板ヲ設ケ強力ノ急激ナル變化ヲ避ケ
ルコトヲ要ス

第五百八十九條 肘板ヲ隔壁板ニ固著スル山形鋼ハ肘板ノ端
ヲ超エ少クトモ一五〇耗延長スベシ
肘板及山形鋼ハ周圍山形鋼ヨリ十分離シテ隔壁ニ取附ケ有
效ニ填隙シ得ル餘地ヲ存セシムベシ

第十二節 膨脹「トランク」

第五百九十條 膨脹「トランク」ノ側壁板ノ厚サハ第二甲板ノ
厚サト等シク爲スベシ
膨脹「トランク」ノ側壁ハ内面ニ堅桁及水平防撓材ヲ設ケ之

第五百九十四條 船口縁材ノ厚サハ一〇耗以上ナルコトヲ要
ス

高サ七六〇耗ヲ超エ且長サ一・二五米ヲ超ユル側縁材又ハ
端縁材ニハ堅防撓材ヲ附シ且縁材ノ上端ヲ適當ニ防撓スベ
シ

第五百九十五條 船口蓋板ハ鋼製ト爲シ左ノ規定ニ依リ構造
スベシ

- 一 蓋板ノ厚サヲ一・五耗以上ト爲スベシ
- 二 船口ノ面積一平方米ヲ超エ二・五平方米以下ナルトキ
ハ六一〇耗以下ノ心距ニ於テ一〇〇×七五×一〇(耗ニ
テ)ノ山形鋼ヲ以テ蓋板ヲ防撓スベシ但シ蓋板ノ厚サ一
五耗以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 船口ノ面積二・五平方米ヲ超ユルトキハ六一〇耗以下
ノ心距ニ於テ一二五×七五×一〇(耗ニテ)ノ山形鋼ヲ以
テ蓋板ヲ防撓スベシ

船口縁材ニハ各隅ヨリ二三〇耗以内ノ箇所及該箇所ヨリ三
八〇耗以下ノ心距ニ配置シタル締具ヲ備ヘ蓋板ヲ油密ニ締
附ケ得ル構造ト爲スベシ

第五百九十六條 船口蓋板ニハ徑一五〇耗以上ノ開口ヲ設ケ
之ヲ螺栓又ハ覗キ蓋ニ依リ油密ニ閉鎖シ得ル構造ト爲スベ
シ

ヲ防撓スベシ

前項ノ堅桁及水平防撓材ノ寸法及固著ハ第五百八十六條及
第五百八十七條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムベシ

第五百九十一條 膨脹「トランク」ノ側壁板上甲板トハ第五
百七十一條第二項ノ規定ヲ準用シテ定メタル寸法ノ單山形
鋼ヲ以テ一列鋸固著ト爲シ側壁板ト第二甲板トハ第二甲板
ノ舷縁山形鋼ノ寸法ニ等シキ寸法ノ單山形鋼ヲ以テ二列鋸
固著ト爲スカ又ハ側壁板若ハ第二甲板ノ鋼甲板ヲ曲縁シ二
列鋸固著ト爲スベシ

第五百九十二條 膨脹「トランク」ノ側壁ハ後部ニ於テハ機關
室圍壁ニ連續セシメ前部ニ於テハ防油區畫外ニ於テ漸次其
ノ深サヲ減少シ強力ノ急激ナル變化ヲ避ケベシ

適當ナル補強ヲ爲ストキハ「ポンプ」室及防油區畫ノ内部ニ
於テハ膨脹「トランク」ノ側壁ニ通行口ヲ設クルコトヲ得

第十三節 船口

第五百九十三條 船口ノ大サ及數ハ油槽内ノ検査、清掃、通
風等ニ必要ナル程度ヲ超エテ増加スルコトヲ得ズ

二箇以上ノ船口ヲ同一横截面ニ配置スルコトハ成ルベク之
ヲ避ケベシ

船口ノ四隅ニハ十分丸味ヲ附スベシ

船口縁材ニハ瓦斯「コック」又ハ適當ナル排氣裝置ヲ設クベ
シ

第十四節 油槽外ノ構造配置

第五百九十七條 油槽、「ポンプ」室、防油區畫及燃料油庫ヲ
除ク船ノ前後部ノ構造ハ縱肋骨式、橫肋骨式又ハ其ノ併用
式ト爲スコトヲ得

第五百九十八條 縱肋骨式構造ヨリ橫肋骨式構造ニ移ル部分
ニ於テハ強力ノ連續ヲ保持スル様特ニ注意スベシ

油槽及防油區畫ノ範圍外ニ於テ第二甲板ヲ設ケザルトキハ
強力ノ急激ナル變化ヲ避クル様適當ナル構造ト爲スベシ

第五百九十九條 機關室、船首尾艙、脚荷水艙、船首船底ノ
構造竝ニ首尾防撓構造ニ付テハ橫肋骨式構造法ニ依ラザル
場合ト雖モ特ニ適當ナル補強ヲ爲スベシ

第十五節 鋸接合

第六百條 本節ノ規定ニ於ケル外板、鋼甲板及梁上側板ニハ
船樓ニ於ケルモノヲ包含セズ

第六百一條 板ノ横縁接合ニ於ケル鋸列ハ板ノ厚サニ應ジ左
表ニ依リ之ヲ定メ鋸列ガ二列以上ナル場合ノ鋸ノ配置ハ竝
列ト爲スベシ

一 〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	横 線 ノ 厚 サ (耗)	
										上以	下以
中心線隔壁ノ最下部ノ板ノ横線	膨脹「トランク」側壁板ノ横線	横置隔壁及中心線隔壁ノ隔壁板ノ横線 (第一〇欄ノ横線ヲ除ク)	首尾Lノ四分ノ一間ニ於ケル鋼甲板ノ横線	首尾Lノ四分ノ一間ニ於ケル上甲板ノ梁上側板ノ横線	首尾Lノ四分ノ一間ニ於ケル舷側厚板及其ノ直下ノ外板ノ横線	中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船側外板ノ横線	船底又ハ船側横肋ノ肋骨板及隔壁ニ付スル桁材ノ桁板ノ横線	中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル平板龍骨ノ横線	中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船底外板ノ横線	9.5	9.5
列三	列二	列二	列二	列二	列二	列二	列二	列三	列三	10.0—10.5	10.0—10.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	11.0—12.0	11.0—12.0
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	12.5—13.5	12.5—13.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	14.0—15.0	14.0—15.0
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	15.5—17.5	15.5—17.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	18.0—19.5	18.0—19.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	20.0—21.5	20.0—21.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	22.0—24.0	22.0—24.0
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	24.5—26.5	24.5—26.5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	27.0—32.5	27.0—32.5

備考
板ノ厚サ等シカラザルトキハ小ナル厚サニ依リ鉚列ヲ定ムベシ但シ厚サノ差大ナルトキハ鉚列ニ付適當ナル考量ヲ加フベシ

第六百二條 外板ノ縦線、鋼甲板及梁上側板ノ縦線、横置隔壁及中心線隔壁ノ隔壁板ノ縦線並ニ膨脹「トランク」側壁板ノ縦線ハ二列鉚以上ノ接合ト爲スベシ
L一二五米以上一四五米未滿ノ船舶ニ在リテハ船側外板ノ二縦線、L一四五米以上一六〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ三縦線、L一六〇米以上一七〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ四縦線ヲ前項ノ規定ニ拘ラズ船首隔壁ヨリ船尾隔壁ニ至ル迄三列鉚以上ノ接合ト爲スベシ
前二項ノ接合ニ於ケル鉚ノ配置ハ並列ト爲スベシ

第六百三條 板ノ横線接合ニ於ケル鉚ノ心距ハ左表ニ依ル

欄	種	類	心距ノ倍數
一	平板龍骨、外板及梁上側板ノ横線(第四欄及第七欄ノ横線ヲ除ク)	3倍	4
二	鋼甲板ノ横線(板ノ厚サ一二・五耗以下ナル場合)	3倍	4
三	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ横線(板ノ厚サ一二・五耗以下ナル場合)	3倍	4
四	四列鉚接合又ハ二重覆板三列鉚接合ト爲ス平板龍骨、外板及梁上側板ノ横線	3倍	4
五	鋼甲板ノ横線(板ノ厚サ一二・五耗ヲ超ユル場合)	3倍	4

第六百四條 板ノ縦線接合ニ於ケル鉚ノ心距ハ左表ニ依ル

欄	種	類	心距ノ倍數
一	外板、鋼甲板及梁上側板ノ縦線(板ノ厚サ一二・五耗以下ナル場合)	3倍	4
二	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ縦線(板ノ厚サ一二・五耗以下ナル場合)	3倍	4
三	外板、鋼甲板及梁上側板ノ縦線(板ノ厚サ一二・五耗ヲ超ユル場合)	3倍	4
四	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ縦線(板ノ厚サ一二・五耗ヲ超ユル場合)	3倍	4

前項ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル船側外板ノ縦線ノ接合ノ鉚ノ心距ハ船首隔壁ヨリ船尾隔壁ニ至ル間ニ於テハ鉚徑ノ三・五倍以下ト爲スベシ
一 L一四〇米ヲ超エ一四五米未滿ノ船舶ノ船側外板ノ縦線

二 L一五五米以上一七〇米未満ノ船舶ノ船側外板ノ縦線
ニシテ第六百二條第二項ノ規定ニ依リ三列鋸以上ノ接合
ト爲スモノ

第六百五條 肋骨、梁、桁材、防撓材、舷緣山形鋼及隔壁ノ
周圍山形鋼ニ於ケル鋸ノ心距ハ左表ニ依ル

欄	種	類	心 徑ノ 倍 距 (鋸 ニ テ)
一	船底又ハ船側横肋骨ト外板トノ固著(第二欄ノ固著ヲ除ク)	船底又ハ船側横肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 第五百二十六條又ハ第五百三十二條ニ依リ背面山形鋼ヲ増設スル場合若ハLトSトノ積ガ二八〇以下 ナル場合ニ於ケル船底又ハ船側横肋骨ト外板トノ固著	4½
二	肋骨板相互ノ固著	肋骨板相互ノ固著	5
三	肋骨板ト肘板トノ固著	肋骨板ト肘板トノ固著	5
四	肋骨板ト面材トノ固著	肋骨板ト面材トノ固著	6
五	横置梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固著	横置梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固著	6
六	梁ヲ構成スル鋼板相互ノ固著	梁ヲ構成スル鋼板相互ノ固著	5
七	梁ヲ構成スル鋼板ト肘板トノ固著	梁ヲ構成スル鋼板ト肘板トノ固著	6
八	梁ヲ構成スル鋼板ト面材トノ固著	梁ヲ構成スル鋼板ト面材トノ固著	6
九	LトSトノ積ガ二八〇ヲ超ユル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著 LトSトノ積ガ二八〇以下ナル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	LトSトノ積ガ二八〇ヲ超ユル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著 LトSトノ積ガ二八〇以下ナル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	3½
一〇	船首ヨリ最初ノ油槽内ニ於ケル船底縦肋骨ト外板トノ固著	船首ヨリ最初ノ油槽内ニ於ケル船底縦肋骨ト外板トノ固著	4½
一一	船底縦肋骨ト外板トノ固著(前三欄ノ固著ヲ除ク)	船底縦肋骨ト外板トノ固著(前三欄ノ固著ヲ除ク)	6
一二	船底縦肋骨ノ代リニ設ケル斷切桁材ト外板トノ固著	船底縦肋骨ノ代リニ設ケル斷切桁材ト外板トノ固著	6

欄	種	類	心 徑ノ 倍 距 (鋸 ニ テ)
一五	組合縦肋骨又ハ縦肋骨ノ代リニ設ケル斷切桁材ヲ構成スル各材相互間ノ固著	組合縦肋骨又ハ縦肋骨ノ代リニ設ケル斷切桁材ヲ構成スル各材相互間ノ固著	3½
一六	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離七・六米ヲ超ユル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接 スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離七・六米ヲ超ユル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接 スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	4½
一七	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離四・六米ヲ超ユル七・六米以下ナル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨 又ハ隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離四・六米ヲ超ユル七・六米以下ナル縦肋骨ト外板トノ固著ノ中横肋骨 又ハ隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	6
一八	船側縦肋骨ト外板トノ固著(前一欄ノ固著ヲ除ク)	船側縦肋骨ト外板トノ固著(前一欄ノ固著ヲ除ク)	6
一九	縦梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固著	縦梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固著	6
二〇	縦桁ト隔壁板トノ固著	縦桁ト隔壁板トノ固著	4½
二一	横桁ト隔壁板トノ固著	横桁ト隔壁板トノ固著	4½
二二	膨脹「トランク」ノ上端ニ至ル距離五・五米以上ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著	膨脹「トランク」ノ上端ニ至ル距離五・五米以上ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著	6
二三	縦桁ノ桁板相互ノ固著	縦桁ノ桁板相互ノ固著	5
二四	縦桁又ハ横桁ノ桁板ト肘板トノ固著	縦桁又ハ横桁ノ桁板ト肘板トノ固著	5
二五	周圍山形鋼ノ兩邊ノ固著	周圍山形鋼ノ兩邊ノ固著	6
二六	縦桁ノ桁板ト面材トノ固著	縦桁ノ桁板ト面材トノ固著	6
二七	膨脹「トランク」ノ上端ニ至ル距離五・五米未満ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著	膨脹「トランク」ノ上端ニ至ル距離五・五米未満ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著	6
二八	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離七・六米ヲ超ユル水平防撓材ト隔壁板トノ固著ノ中横肋骨又ハ横置 隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離七・六米ヲ超ユル水平防撓材ト隔壁板トノ固著ノ中横肋骨又ハ横置 隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	3½
二九	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離四・六米ヲ超ユル七・六米以下ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著ノ中横 肋骨又ハ横置隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	船側ニ於ケル上甲板ニ至ル距離四・六米ヲ超ユル七・六米以下ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固著ノ中横 肋骨又ハ横置隔壁ニ近接スル3.33×5ノ箇ノ鋸ニ依ル固著	4½
三〇	LトSトノ積ガ二八〇ヲ超ユル場合ニ於ケル縦桁ト隔壁板トノ固著	LトSトノ積ガ二八〇ヲ超ユル場合ニ於ケル縦桁ト隔壁板トノ固著	4½
三一	LトSトノ積ガ二八〇以下ナル場合ニ於ケル縦桁ト隔壁板トノ固著	LトSトノ積ガ二八〇以下ナル場合ニ於ケル縦桁ト隔壁板トノ固著	4½

三二	線	堅桁ノ桁板相互ノ固著	5
三三	線	堅桁ノ桁板ト肘板トノ固著	5
三四	線	周圍山形鋼ノ兩邊ノ固著	5
三五	壁	平板龍骨ト隔壁板トノ固著	5
三六	壁	堅桁ノ桁板ト面材トノ固著	6
三七	膜膨	水平防撓材ト隔壁板トノ固著(第二八欄及第二九欄ノ固著ヲ除ク)	6
三八	膜膨	LトSトノ積ガ二八〇ヲ超ユル場合ニ於ケル堅桁ト側壁板トノ固著	4½
三九	膜膨	LトSトノ積ガ二八〇以下ナル場合ニ於ケル堅桁ト側壁板トノ固著	4½
四〇	膜膨	側壁板ト上甲板又ハ第二甲板トノ固著	5
四一	膜膨	水平防撓材ト側壁板トノ固著	6
四二	膜膨	舷緣山形鋼ト外板又ハ梁上側板トノ固著	5

備考 Sハ横肋骨ノ心距(米ニテ)

第六百六條 船底縦肋骨、船側縦肋骨又ハ縦梁ヲ横置隔壁ニ固著スル肘板ノ各邊ニ於ケル鋸ノ徑ハ二二耗ト爲シ其ノ數

ハ左表ニ依リ定ムベシ

縦肋骨又ハ縦梁ノ種類及深サ(耗)	船底縦肋骨	船側縦肋骨	上甲板ノ縦梁	第二甲板ノ縦梁	一三〇	五	五	五
					一四〇	五	五	六

球山形鋼	一五〇 一六五 一八〇	一 一 一	九 〇 一	二 三 四 五	六 六 七	六 六 七	六 七 八 九 〇	
溝形鋼	二八〇 三〇〇 三二〇 三五〇 三八〇 四〇〇	一 一 一 一 一 一	一 二 三 四 四 五	一 一 一 一 一 一	一 一 一 一 一 一	一 一 一 一 一 一	一 一 一 一 一 一	一 一 一 一 一 一
組立肋骨	四四〇 四七〇 五〇〇 五三〇	一 一 一 一	五 六 七 八	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	

第六百七條 肋骨、梁、豎桁又ハ水平防撓材ガ板ノ縱横縁ト交叉スル箇所ニハ少クトモ縱横縁ノ固著銀ノ列數ト同數ノ銀ヲ配置スベシ

二列銀固著ヲ要スル山形鋼ノ銀ノ配置ハ竝列ト爲スベシ

第十六節 機關室口圍壁、常設歩路及舷牆

第六百八條 上甲板上下ノ機關室口圍壁ハ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル標準ノ高サ以上ノ高サノ蔽圍シタル船尾樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコトヲ要シ又該圍壁ノ開口ニハ鋼製ノ戸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ船樓又ハ甲板室ハ其ノ前端ニ於テ第三百二十三條ノ規定ニ依ル船橋樓前端隔壁ト同様ノ構造ノ隔壁ヲ備ヘ之ニ設クル出入口ニハ甲板上四五七耗以上ノ高サノ縁材ヲ設ケ且有效ナル閉鎖裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第六百九條 歩路ハ差支ナキ限り船ノ中心線ニ近キ箇所ニ設ケ之ニ厚サ六〇耗以上ノ木板又ハ適當ナル厚サノ縞鋼板ヲ張り其ノ兩側ニ兩邊ノ幅一〇〇耗、厚サ一〇耗以上ノ山形鋼ヲ縱通セシメ之ニ高サ一米以上ニシテ上端共三條以上ノ橫棒又ハ保護索ヲ取附ケタル欄干ヲ固著スベシ

第六百十條 歩路ニハ適當ノ箇所ニ膨脹接手ヲ設クベシ歩路ノ支柱ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルモノヲ標準ト爲スベシ但シ歩路ニ送油管等ヲ取附クルトキハ適當ニ其ノ強

カラ増スベシ

一 支柱ノ脚ノ左右ノ間隔ハ一・二五米ト爲シ各對ノ支柱ノ前後ノ間隔ハ二・五米ト爲スベシ
二 支柱ニハ兩邊ノ幅一〇〇耗、厚サ一〇耗以上ノ山形鋼ヲ用フベシ

三 左右ノ支柱ノ間ニハ七五×七五×七・五(耗ニテ)ノ山形鋼二條ヲ筋違ニ交叉セシメ相互ニ連結スベシ

四 支柱各對ノ間ニハ一間置ニ九〇×九〇×九(耗ニテ)ノ山形鋼二條ヲ各側ニ於テ筋違ニ交叉セシメ前後ノ支柱ヲ連結スベシ

第六百十一條 甲板ノ暴露部ニ於テハ該部分ノ二分ノ一以上ノ間ヲ開放欄干ト爲スカ又ハ閉塞舷牆ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル放水口ヲ備フベシ

一 放水口ノ全面積ハ舷牆ノ面積ノ四分ノ一以上ト爲スベシ
二 放水口ハ成ルベク低キ位置ニ設ケ細長キ形狀ノモノト爲スベシ

「トランク」ノ兩端ガ船樓ニ連續スル場合ニ於テハ該部分ニ於ケル上甲板ノ暴露部ノ全長ニ互リ開放欄干ヲ設クルコトヲ要ス

第十七節 「ポンプ」裝置

第六百十二條 貨物油ニ對シテハ適當ナル「ポンプ」裝置ヲ備

積載スル油槽船ノ電氣裝置ニ付テハ船舶設備規程ニ依ルノ外本節ノ規定ニ依ル

第六百十八條 供給電壓ハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

一 直流ナルトキ 一二〇ヴォルト

二 交流ナルトキ 一一〇ヴォルト

第六百十九條 直流ノ場合ニ於ケル主配線(配電盤ト分電盤トノ間)又ハ分電盤ト副分電盤トノ間)ハ各極ニ絶縁シタル別箇ノ導線ヲ有スル二線式ト爲シ其ノ何レノ部分ヲモ接地スルコトヲ得ズ

交流ハ三相式ト爲シ主配線ニハ多心電線ヲ用フベシ

第六百二十條 「ヒューズ」ハ包裝式ノモノヲ用フベシ

第六百二十一條 油槽又ハ防油區畫ニハ電燈、配線其ノ他一切ノ電氣設備ヲ設クルコトヲ得ズ

「ポンプ」室、甲板間ノ場所及油槽ニ隣接スル場所ニ於ケル電燈ハ之ヲ氣密器具内ニ、配線ハ氣密管内ニ收メ其ノ開閉器ハ兩極型ト爲シ該場所ノ外部ニ設クルコトヲ要ス

「ポンプ」室ハ堅固ナル硝子ヲ以テ内部ト氣密ニ隔離シ且配線ヲ總テ室外ニ設ケタル電燈ニ依リ照明スル裝置ト爲スコトヲ得

油槽、防油區畫又ハ「ポンプ」室ニ於テ使用スル携帯電燈ハ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

「ポンプ」ハ油密構造ニシテ機關室ト直接連絡ナキ「ポンプ」室ニ之ヲ設クベシ

油「ポンプ」裝置ト脚荷水用「ポンプ」裝置トハ相互ニ區別シ置クベシ

燃料油用諸管ト貨物油用諸管トハ相互ニ區別シ置クベシ

第六百十三條 脚荷水用諸管ハ油槽ヲ又油「ポンプ」裝置ニ屬スル管ハ水槽ヲ通過セシムルコトヲ得ズ

油槽ノ前方ニ脚荷水槽ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ箇所ニ該水槽ニ對スル別箇ノ脚荷水「ポンプ」ヲ設備スベシ

第六百十四條 油槽ノ直上ニ在ル甲板間ノ排水ノ爲有效ナル排水裝置ヲ設クベシ

防油區畫ニハ測深管ヲ設クベシ

第十八節 通風裝置

第六百十五條 油槽ヲ構造スル桁板其ノ他ノ材料ガ瓦斯ノ流通ヲ妨グル虞アルトキハ之ニ十分ナル丸形ノ通氣孔ヲ設クベシ

油槽ニハ有害瓦斯ヲ排除スル爲人工通風裝置又ハ蒸汽送入裝置ヲ設クベシ

第六百十六條 「ポンプ」室、防油區畫、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニハ有效ナル通風裝置ヲ設クベシ

第十九節 電氣裝置

第六百十七條 密閉試驗ニ依ル引火點攝氏六五度未滿ノ油ヲ

第二十節 油槽ノ水密試験

第六百二十二條 各油槽ハ別々ニ充水シテ其ノ水密ヲ試験スベシ

前項ノ水密試験ハ成ルベク管其ノ他ノ附屬品ヲ取附ケタル後之ヲ執行スベシ

第六百二十三條 水密試験ノ試験壓力ハ主油槽ニ對シテハ膨脹「トランク」ノ最高所以上二・四米、夏期油槽ニ對シテハ上甲板以上二・四米ニ相當スル水高壓力ト爲スベシ但シ油ノ到達スベキ最高所ニ相當スル水高壓力ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六百二十四條 防油區畫ハ之ニ充水シ船口ノ頂部迄ノ水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試験スベシ

第二十七章 對氷構造

第六百二十五條 氷中ヲ航行スル船舶ハ成ルベク本章ノ規定ニ依リ對氷ノ構造ヲ施スベシ

第六百二十六條 舵頭材ノ徑及舵腕ノ寸法ハ第四百十三條及第四百十六條ノ規定ニ依ルモノノ一・二倍ト爲スベシ

舵、操舵裝置及船尾骨材ニ於ケル舵ノ壺金ノ各部ノ寸法ハ前項ニ依リ増加シタル舵頭材ノ徑ニ應ジ之ヲ定ムベシ

第六百二十七條 前部Lノ五分ノ一間ニ於ケル肋骨ハ左ノ各號ノ一ニ依リ構造スベシ

一 肋骨ノ中間ニ於テ滿載吃水線上六〇〇耗以上ノ箇所ト

二 重底緣板ノ外側又ハ船底彎曲下部トノ間ニ船首艙ノ肋骨ノ截面抵抗率ノ七五%以上ノ截面抵抗率ヲ有スル中間肋骨ヲ附スルコト

二 肋骨心距ヲ五〇〇耗以下ト爲シ且前號ノ部分ニ於ケル肋骨ノ強力ヲ前號ニ依ル場合ト同等以上ト爲スコト

第六百二十八條 滿載吃水線上六〇〇耗以上ノ箇所ト輕吃水線下六〇〇耗以上ノ箇所トノ間ニ於ケル外板ノ厚サハ前部Lノ五分ノ一間ニ於テハ前條第一號ニ依リ肋骨ヲ構造シタルトキハ中央部ノ厚サノ一・四倍以上ト爲シ前條第二號ニ依リ肋骨ヲ構造シタルトキハ一・五倍以上ト爲スベシ但シ二五耗ヨリ大ト爲スコトヲ要セズ

前項ノ外板ノ厚サハ船首ヨリLノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ニ於テハ漸次之ヲ減シ船首ヨリLノ四分ノ一ニ相當スル箇所ニ於テ中央部ノ厚サニ一致セシムベシ

第六百二十九條 船首材ニ「ラベット」ヲ設クルカ其ノ他適當ナル方法ニ依リ船首端ニ於ケル外板ノ先緣ヲ保護スベシ

第六百三十條 船首隔壁ヨリ後方ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ依ル船側縱通材ヲ設ケ之ヲ船首ヨリLノ四分ノ一ニ相當スル箇所迄延長スベシ

第六百三十一條 滿載吃水線上六〇〇耗ノ箇所ヨリ下方ニ在ル外板ノ縱緣ハ前部Lノ四分ノ一間ニ於テハ少クトモ二列鋸固著ト爲スベシ

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第三節 水管汽罐及過熱器

第四節 汽罐附屬品

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第六節 給水裝置

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第八節 管

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第十節 燃油裝置

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第四節 氣槽

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第六節 水壓試驗

第七節 補汽罐

第五章 特殊施設

第六章 艙裝品及備品

附則

第六百三十二條 滿載吃水線下ニ於テ外板ニ取附クル海水弁、排出管等ハ氷又ハ寒氣ノ爲破損セラレザル樣裝置スベシ

循環水「ポンプ」ノ吸水口ハ之ニ蒸汽ヲ送込ミ得ル裝置ト爲スカ其ノ他適當ナル方法ニ依リ氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止シ得ル樣爲スベシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル鋼船ノ構造ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

船舶機關規程

(昭和九年二月 逕信省令第十號)
(改正 昭和十五年八月省令第四五號)

目次

第一章 總則
第二章 材料及材料試驗
第一節 試驗片
第二節 壓延鋼材
第三節 鍛鋼材
第四節 鑄鋼材
第五節 管
第六節 雜則

船舶機關規程

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ汽機又ハ發動機トハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ發動機ヲ謂フ

本令ニ於テ汽罐トハ補汽罐ヲモ包含ス
本令ニ於テ第一種螺旋軸トハ一體被金ヲ有スルカ又ハ之ト同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ其ノ他ノ螺旋軸ヲ謂フ

適當ナル船尾管内潤滑油裝置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第二條 船舶ノ推進機關ヲ分チテ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

乙種機關ハ第一級船又ハ第二級汽船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

丙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條 汽罐ニ付テハ第三章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス但シ該汽罐ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第四條 本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スベシ

本令ニ依ル材料試驗ニハ船用品試驗機取締規則ニ定ムル使用期間内ニ在ル材料試驗機ヲ用ウベシ

本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノ又ハ機關ノ用途ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

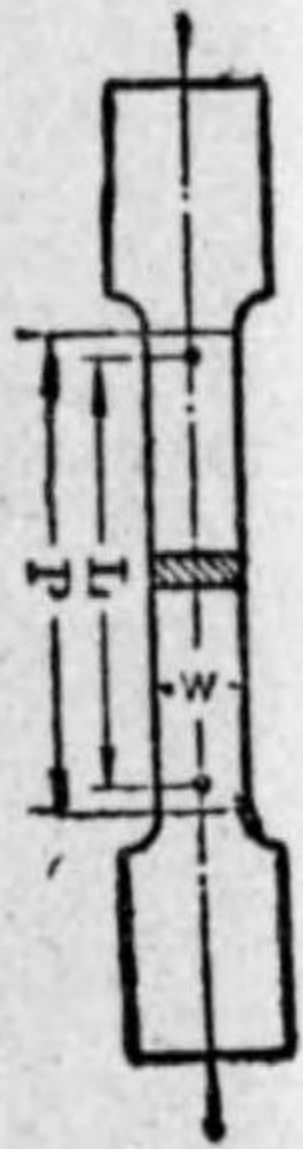
第七條 抗張試驗ニ用ウル標準試驗片ハ左ノ形狀及寸法ト爲スベシ但シ其ノ兩端ハ試驗機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

一 第一號試驗片 主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用ウルモノ

ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作成スルコトヲ得

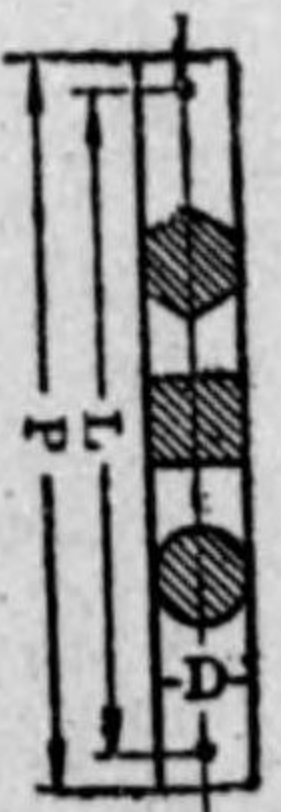
三 第三號試驗片 徑(又ハ對邊距離)二五耗ヲ超ユル棒鋼ニ對シテ用ウルモノ

標點距離 L 約二二〇耗
平行部ノ長サ P 幅 W 次表ニ依ル



試驗片ノ厚サ(耗)	試驗片ノ幅 W(耗)
二三ヲ超ユルモノ	四〇 以下
九以上二三以下	五〇 以下
九 未 滿	六〇 以下

二 第二號試驗片 主トシテ徑(又ハ對邊距離)二五耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用ウルモノ
標點距離 L 八徑(又ハ對邊距離)Dノ八倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サ P ハ Dノ約九倍、平行部



四 第四號試驗片 主トシテ鍛鋼材、鑄鋼材並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)棒ニ對シテ用ウルモノ

標點距離 L 五〇耗
平行部ノ長サ P 約六〇耗
徑 D 一四耗



材料ノ都合ニ依リ右ノ寸法ト爲シ得ザルトキハ左ノ算式ニ依リ標點距離ヲ定ムルコトヲ得

$$L = 4\sqrt{A}$$

Lハ標點距離(耗ニテ)

Aハ横截面積(平方耗ニテ)

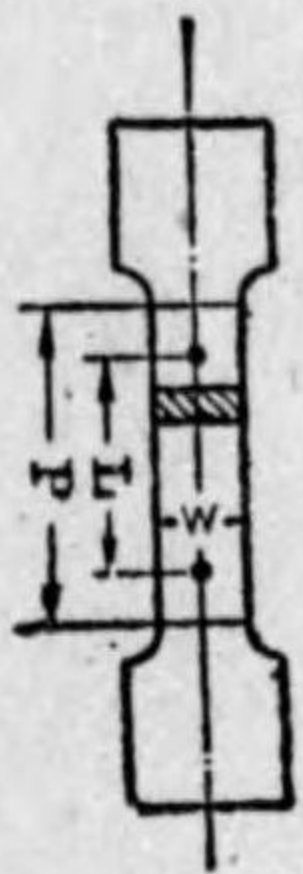
五 第五號試驗片 主トシテ管類並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)板ニ對シテ用ウルモノ

標點距離 L 五〇耗

平行部ノ長サ P 約七〇耗

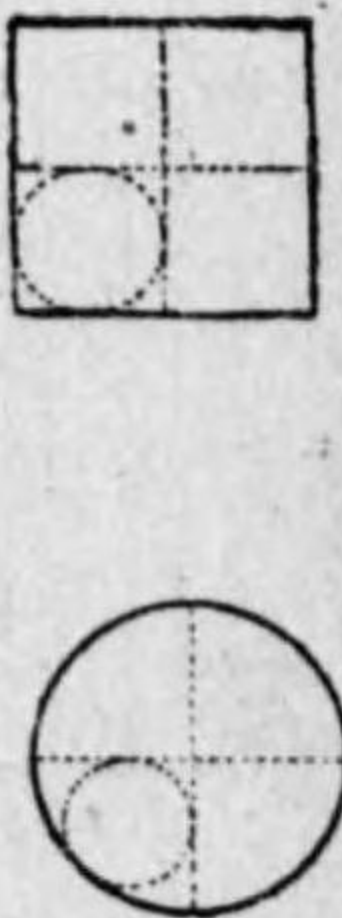
幅 W 二五耗

厚サ 原厚サノ儘トス



第八條 壓延鋼材ノ抗張試驗片ニハ成ルベク壓延肌ヲ殘スベシ

前項ノ規定ニ拘ラズ徑又ハ對邊距離六五耗以下ノ棒鋼ノ試驗片ニ付テハ適宜機械仕上ヲ爲シ又六五耗ヲ超ユル棒鋼ニ在リテハ右圖ニ於テ小圓ヲ以テ示ス位置ヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得



前項ニ依リ作成スル試驗片ノ徑ハ之ヲ一四耗以下ト爲スコトヲ得ズ

第九條 壓延鋼材ノ屈曲試驗片ノ幅、徑又ハ對邊距離ハ三五耗以上ナルコトヲ要ス但シ「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形

鋼ヨリ採取セル試驗片ノ幅ハ三五耗未滿ナルモ妨ナク又徑又ハ對邊距離三五耗未滿ノ棒鋼ニ對シテ用ウル試驗片ハ壓延セル儘ノ材料ヲ使用スベシ「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ニ在リテハ之ニ壓力ヲ加ヘ若ハ鎚打シテ扁平ト爲シタルモノヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得

壓延鋼材ノ屈曲試驗片ニハ左ノ加工以外ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ

一 剪斷ノ爲生ジタル稜角又ハ縁ノ不整ヲ鑿又ハ研磨機ニ依リ削除スルコト

二 厚サ二五耗以上ノモノニ付剪斷面ヲ機械仕上ト爲スコト

厚サ二二耗未滿ノ燒入屈曲試驗片ニハ前項各號ノ加工ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 鍛鋼材又ハ鑄鋼材ノ屈曲試驗片ハ幅二五耗厚サ一九

耗ノ截面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五耗ノ丸味ヲ附シタルモノトス

第十一條 抗張試驗片及屈曲試驗片ノ數ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ル

種類	抗張試驗片ノ數	屈曲試驗片ノ數
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ一箇但シ其ノ重量二・五耗ヲ超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ燒入屈曲試驗片一箇但シ其ノ重量二・五耗ヲ超ユルトキハ兩端ヨリ各一箇
其ノ他ノ鋼板	同 右	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ常溫屈曲試驗片一箇但シ其ノ重量二・五耗ヲ超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇
形鋼、棒鋼又ハ鋸材	同一鑄鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面寸法ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇ノ棒鋼若ハ鋸材ニ在リテハ上記ノ一五箇ヲ五〇耗未滿ノ棒鋼若ハ鋸材ニ在リテハ上記ノ一五箇ヲ五〇耗未滿ノ棒鋼若ハ鋸材ニ在リテ適當ト認ムル數	同一鑄鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面寸法ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ常溫及燒入屈曲試驗片各一箇
鍛鋼材	鍛鋼材一箇毎ニ一箇但シ一箇ノ重量五〇〇珣未滿ニシテ同一鋼塊ヨリ製造シタル多數ノ鍛鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數	抗張試驗片ノ數ニ同ジ
鑄鋼材	二鑄鋼以上ヲ使用シ一箇ノ鑄鋼材ヲ鑄造スル場合ニ於テハ該鑄鋼材一箇毎ニ四箇ノ鑄鋼材一箇毎ニ一箇但シ一鑄鋼ヲ使用シ鑄造スル場合ニ於テハ鑄鋼材一箇毎ニ一箇但シ一鑄鋼ヲ使用シ鑄造スル多數ノ同形鑄鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數	同上

第十二條 壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縦ノ方向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常溫ノ儘矯正スベシ

壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 鍛鋼材ノ試驗片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シ

タル後其ノ主體ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縦ニ切取ルモノトス但シ鍛鋼品ノ形狀又ハ用途ニ依リ横ニ切取ルモ妨ナシ

第十四條 鑄鋼材ノ試験片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

第二節 壓延鋼材

第十五條 機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條 前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ同一ノ汽罐又ハ氣槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縱支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ每平方耗七疋ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 抗張試験 抗張力及標點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

種類	抗張力 (每平方 耗疋)		標點間伸長百分率
	第一號	第二號	
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	四一以上 五〇以下	第一號	厚サ九耗以上 厚サ九耗未満 二〇以上 二〇以上
其ノ他ノ鋼板	四五以上 五五以下	第一號	厚サ九耗以上 厚サ九耗未満 二〇以上 一七以上

方向ニ壓縮スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

第十七條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ最初ニ試験片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験、屈曲試験又ハ縱壓試験ガ不合格ト爲リタルトキハ其ノ試験片一箇ニ付更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼材ハ第十六條ノ規定ニ合格シタル鋼材ヨリ製造シ左ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

打展試験 頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ縁ニ裂疵ヲ生ゼザルコト

前項ノ試験ニ用ウル鋼材ノ數ハ同一徑ノモノノ重量四分ノ一廻又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス

前條ノ規定ハ鋼ノ再試験ニ付之ヲ準用ス

第十九條 厚サ六耗未満ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試験及燒入屈曲試験ヲ省略スルコトヲ得

形	鋼	第一號	厚サ九耗以上 二二以上 一〇以下
汽罐ノ燃燒室又ハ火爐ノ支柱用棒鋼	鋼材	第一號	厚サ九耗以上 二二以上 一〇以下
其ノ他ノ棒鋼	鋼材	第二號	二五以上 三〇以上
		第三號	二八以上 二四以上

二 屈曲試験 燒入屈曲試験ニ於テハ試験片ヲ濃紅色(日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノニシテ約六五〇度)ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘試験片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鎚打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

種類	内側半徑
鋼板	試驗片ノ厚サノ一・五倍以上
形鋼	試驗片ノ厚サノ一・五倍以上
棒鋼	試驗片ノ徑又ハ對邊距離ノ一・五倍以上
鋼材	密著

三 縱壓試験 鋼材ニ在リテハ徑ノ二倍ニ等シキ長サヲ有スル試験片ヲ赤熱シタル儘原長ノ三分ノ一ニ至ル迄縱ノ

第三節 鍛鋼材

第二十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ鍛造シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第二十一條 主機ノ軸、「ピストン」桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他強力ヲ重要トスル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ用途ニ應ジ日本標準規格ニ規定スル第三種、第四種又ハ第五種ノモノ又ハ此等ニ相當スルモノヲ用ヒ其ノ主體ハ其ノ表面積ヲ原鋼塊ノ平均面積ノ四分ノ一以內ニ、主體以外ノ部分ハ其表面積ヲ原鋼塊ノ平均面積ノ三分ノ二以內ニ鍛鍊スベシ但シ一體型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ表面積ノ割合ハ二分ノ一以內トス

軸ノ鏢又ハ桿ノ鏢若ハ又端ハ之ヲ本體ト鍛合又ハ熔接スルコトヲ得ズ

前項ノ軸ノ鏢又ハ桿ノ鏢若ハ又端ガ組成型ナルトキハ十分ナル強力ヲ有スル鍛鋼製又ハ鑄鋼製ノモノト爲スベシ但シ乙種機關又ハ丙種機關ニ在リテハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ鍛鋼製又ハ鑄鋼製ニ非ザルモノト爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク

ク「軸」用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形状ニ依リ其ノ截面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十三條 第二十一條ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

- 一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四四瓦以上六〇瓦未満ナルコト、抗張力ガ每平方耗五五瓦未満ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上、抗張力ガ每平方耗五五瓦以上ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ九〇以上ナルコト
- 二 屈曲試験 常溫ノ儘左表ニ掲グル内側半徑ヲ以テ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

抗張力(每平方耗瓦)	内側半徑(耗)
四四以上五〇未満	六以下
五〇以上五五未満	一〇以下
五五以上六〇未満	一六以下

軸ノ計畫仕上徑二五〇耗以上ノ一體型「クランク」軸又ハ半

驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第四節 鑄鋼材

第二十六條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩堝爐ニ依リ鑄造シ其ノ品質均一ニシテ有害ナ

組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ五ニ直角ナル二方向ニ採取シタル試験片ニ付抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

試験片採取方向 (抗張力 耗瓦)	標點間伸長百分率		裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要スル屈曲角度
	軸ノ中心線ニ平行ナル方向	「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向	
四二以上 五三未満	百分率ト標點間伸長トノ和ガ九〇以上	百分率ト標點間伸長トノ和ガ八八以上	一八〇
五三以上 五八未満	百分率ト標點間伸長トノ和ガ九〇以上	百分率ト標點間伸長トノ和ガ八八以上	一五〇
五八以上 五三未満	百分率ト標點間伸長トノ和ガ八八以上	百分率ト標點間伸長トノ和ガ八七以上	一五〇

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試

ル疵、鑄集其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ
鑄鋼材ノ疵等ニシテ強力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣熔接又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ補修セシムルコトヲ得

前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ其ノ試験片ガ

左ノ第一號及第二號ノ試験ニ合格シ且該鑄鋼材ガ次ノ第三號及第四號ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス但シ強力ヲ重要トセザル部分ニ用ウル鑄鋼材ニ付テハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ第一號乃至第四號ノ試験ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四一瓦以上五五瓦以下ニシテ標點間伸長百分率ハ二〇以上ナルコト

二 屈曲試験 常溫ノ儘二五耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一二〇度以上屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

三 落下試験 鑄鋼材ヲ約三米ノ高サヨリ硬質ノ地面ニ落下シ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコト

四 錠打試験 前號ノ試験執行後鑄鋼材ヲ吊シ其ノ重量ニ應ジ三瓦乃至七瓦ノ錠ヲ以テ其ノ表面ヲ打ツモ有害ナル

裂疵、鑄巢、偏肉其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコト
 形狀特ニ複雜又ハ長大ニシテ落下試験ヲ執行スルトキハ變
 形ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ該鑄鋼材ノ成ルベク隔リ
 タル兩端ヨリ採取シタル各二箇ノ試験片ガ前項第一號及第
 二號ノ試験ニ合格スルトキハ落下試験ヲ省略スルコトヲ得
 此ノ場合ト雖モ鑄打試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

第二十八條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨ
 リ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験
 ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ
 試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場
 合ニ限り更ニ之ト同數ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコト
 ヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合
 格セザルモノアルトキハ其ノ試験片ニ依リ代表セラルル鑄
 鋼材ハ之ヲ不合格トス

鑄鋼材ニハ再試験用試験片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ
 得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試験
 ニ付テモ更ニ試験ヲ行フコトヲ要ス

第五節 管

第二十九條 機關ノ重要部分ニ用ウル銅管ハ良質ノ平爐鋼又

ハ電爐鋼ヲ用キ常溫引拔法又ハ高溫仕上法ニ依リ無接合ニ
 製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海
 官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ鍛接合管又ハ銲接合管
 ナルモ妨ナシ

水管汽罐ノ水管ニ用ウル銅管ニシテ外徑四〇耗未滿ノモノ
 又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル銅管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ常溫
 引拔法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳
 差支ナシト認ムルトキハ高溫仕上法ニ依リ製造シタルモノ
 ナルモ妨ナシ

常溫引拔無接合銅管及鍛接合銅管ハ製造後之ニ適當ナル熱
 處理ヲ爲スベシ

第三十條 機關ノ重要部分ニ用ウル銅管ハ常溫引拔法ニ依リ
 無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス
 但シ每平方糎五疋以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鐵附管ナル
 モ妨ナシ

每平方糎一二・五疋以上ノ壓力ヲ受クル外徑一三五耗以上
 ノ汽管ニハ銅管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節 雜則

第三十一條 管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材
 ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限り
 其ノ指示スル所ニ依リ材料試驗ヲ行フ

第三十二條 乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管

海官廳ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ
 一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試驗及制限汽壓每平方糎一〇疋
 ヲ超ユル汽罐若ハ高溫ノ受壓槽又ハ制限壓力每平方糎一四
 疋ヲ超ユル其ノ他ノ受壓槽ニ用ウル鋼板ノ屈曲試験ニ付テ
 ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其
 ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限り又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之
 ヲ使用セシムルコトヲ得

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機

第三十四條 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退
 カヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十五條 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算
 式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又
 ハ推力軸ノ徑

$d = K \sqrt[3]{APD \cdot Se}$
 d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
 D² ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽
 筒ノ數一箇ナルトキハ其ノ徑(耗ニテ)ノ二乗、二箇ナ
 ルトキハ各汽筒ノ徑(耗ニテ)ノ二乗ノ和
 P ハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎
 疋ニテ)復水器ヲ備フルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平
 方糎疋ニテ)ニ一ヲ加ヘタルモノ
 S ハ行長(耗ニテ)
 A ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力
 軸ノ場合ニ在リテハ「クランク」軸ノ每分計畫回轉數ト
 中間軸又ハ推力軸ノ每分計畫回轉數トノ比
 e ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力
 軸ノ場合ニシテ「クランク」軸トノ間ニ動力傳導裝置若
 ハ變速裝置アルトキハ其ノ總傳導率、動力傳導裝置若
 ハ變速裝置ナキトキハ一
 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

往復動汽機ノ種類	「クランク」ノ數	中間軸			
		甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
單式汽機	一	一・四九	一・四二	一・四二	一・三五
	二(「クランク」角九〇度ノモノ)	一・三八	一・三一	一・三一	一・二四

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	1.000	0.950	1.050	1.000

聯成汽機	腕ノ厚サ及幅	軸ナルトキ
一	二(クランク)角一八〇度ノモノ)	1.55
二	二(クランク)角九〇度ノモノ)	1.07
三	二(クランク)角一八〇度ノモノ)	1.20
四	三又ハ四	1.03
複二聯成汽機	四(クランク)角一八〇度ノモノ)	0.94
三聯成汽機	三又ハ四	0.88
廢汽「タービン」蒸氣壓縮機附三聯成汽機	三又ハ四	0.90
四聯成汽機	四	0.86

軸ノ種類	中間軸	推力軸
K	1.000	1.000

二 鋼製「クランク」腕ノ厚サ及幅

組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$\begin{cases} t = 0.625d \\ W = 0.438d \end{cases}$$

一體型「クランク」軸ナルトキ

$$dt = 0.417d^2$$

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)

w ハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)

d ハ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)

d ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

トヲ同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K^3 \sqrt{975,000 \times \frac{T}{R} + 0.73 \times d_s^3 \times \frac{1}{R}}$$

d_s ハ軸ノ徑(耗ニテ)

T ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力

R ハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數

d ハ第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

r ハ往復動汽機ノ計畫毎分回轉數

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	1.000	0.950	1.050	1.000

五 鍛鋼製螺旋軸ノ徑

$$d_s = d + \frac{P}{C}$$

d_s ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)

三 「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K^3 \sqrt{\frac{T}{R}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

T ハ計畫軸馬力

R ハ軸ノ計畫毎分回轉數

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸	推力軸
K	1.000	1.000

四 往復動汽機ト其ノ廢汽ニ依リ動作スル「タービン」汽機

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ

1.44

第二種螺旋軸ナルトキ

1.00

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ニ付テハ第一項第一號ノKノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

螺旋軸ハ前部軸鏝ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號、又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第三十六條 軸鏝ヲ連結スル螺釘ノ軸鏝連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^2}{Nd}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d₁ハ螺釘心圍ノ徑(耗ニテ)

Dハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)
前項ノ螺釘ガ中間軸ト回轉數ヲ異ニスル往復動汽機ノ「ク
ランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中Dハ前條
第一項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑
(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圍ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依
リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ
螺旋軸ノ螺釘心圍ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ル
ノ外汽機ノ種類ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸
ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半
徑ノ丸味ヲ附スベシ
軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様適
當ナル構造ト爲スベシ

第三十條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一項
第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコ
トヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當
ニ包被スベシ
螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管及軸支肘ノ「ブツシユ」ニ當ル
部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコ

トヲ得ズ

T = 0.08d + 7.5
Tハ被金ノ厚サ(耗ニテ)
d₁ハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル螺
旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノ
ノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十八條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニ
ハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ、「タービン」汽機ニ
ハ適當ノ箇所ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽
壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調整スベ
シ

第三十九條 汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

第四十條 多汽筒式「タービン」汽機一箇ノミヲ裝備シ遠洋ノ
航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ該「タービン」汽機ノ汽筒
中其ノ一箇ニ對シ蒸汽ヲ遮斷スルモ推進器ヲ回轉シ得ル様
適當ニ裝置スベシ

前項ノ「タービン」汽機ニ在リテハ少クモ二箇ノ汽筒ニ後退
翼車ヲ備フベシ

第四十一條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁匣等ハ之ヲ製造シ削仕
上ヲ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベ
シ但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ管海官廳ノ見

各膨脹階段ノ初壓力ノ一・五〇倍及毎平方糎二疋ノ中大
ナル壓力

六 高壓「タービン」汽機ノ配汽室

汽罐ノ制限汽壓ノ一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃出弁
ヲ備フルモノハ配汽室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

七 中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室

該室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八 收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋

其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條 復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一二〇倍
以上ナルトキハ一二〇倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設ク
ベシ

第四十三條 復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタル
トキ毎平方糎一・五疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベ
シ
復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力又ハ之ニ
相當スル壓力ヲ以テ漏否試験ヲ執行スベシ

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第四十四條 主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ別ニ定ム
ル所ニ依ルノ外熔接スル事ヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔接部ニ
覆板ヲ附シ適當ナル銲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ
小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ又管ノ縱接合ハ前項ノ規

込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 單式汽機ノ汽筒

汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎六疋以上ナルトキハ汽罐ノ制
限汽壓ニ毎平方糎六疋ヲ加ヘタル壓力

汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎六疋未滿ナルトキハ汽罐ノ制
限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 二聯成汽機

高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒ニ同ジ

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

三 三聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ毎平方糎六疋ヲ加ヘタル壓
力

中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乘ジタル壓力

四 四聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ毎平方糎六疋ヲ加ヘタル壓
力

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓
力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乘ジタル壓力

五 「タービン」汽機ノ汽筒

定ニ拘ラズ之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第四十五條 工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

二枚以上ノ鋼板ヲ銲接合スル場合ニ於テハ之ヲ銲縮スル以前ニ於テモ此等ノ鋼板ガ充分密著スル状態ト爲シ且銲孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ

鋼板ノ銲孔ハ鑽孔シタルモノト爲スベシ

第四十六條 胴板ニ設クル階圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ平行セシムベシ

胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ二・五倍ニ七〇耗ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル強率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

長徑一五〇耗ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルトキハ相當ノ強力ヲ有スル縁環又ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲縁ニ依リテ鏡板ヲ補強スベシ

$$h = \sqrt{t \times W}$$

h ハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲縁ノ深サ(耗ニテ)

t ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

W ハ孔ノ短徑(耗ニテ)

ノ孔徑ノ一五倍以上ナルコトヲ要ス

二列以上ノ銲接合ニ於ケル銲列間ノ距離ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合

$$V_1 = 0.33p + 0.67d$$

千鳥形銲接合ナルトキ $V_1 = 2d$

二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

$$V = 0.2p + 1.15d$$

$$V_1 = 0.165p + 0.67d$$

竝列銲接合ナルトキ

$$V = 0.33p + 0.67d$$

ノ中其ノ大ナルモノ

$$V = 2d$$

$$V_1 = 2d$$

V_1 ハ銲數同一ナル各銲列ノ距離(耗ニテ)

V ハ外列ト其ノ次ノ列トノ距離(耗ニテ)

P ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

第五十條 胴板ノ縱接合ニ於ケル銲ノ心距ハ左ノ算式ニ依リ

算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$P = C \times T + 40$$

P ハ銲ノ心距(耗ニテ)

第四十七條 人孔其ノ他ノ孔ニ用ウル押壓製ノ蓋ハ適當ナル熱處理ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス

孔蓋ト孔トノ間隙ハ孔ノ周ノ各點ニ於テ一・五耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十八條 胴板ノ縱接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合

$$\text{外覆板 } t_o = \frac{5}{8} \times T$$

$$\text{内覆板 } t_i = \frac{5}{8} \times T + 3$$

二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

$$\text{外覆板 } t_o = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)}$$

$$\text{内覆板 } t_i = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)} + 3$$

T ハ接合スベキ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

t_o ハ外覆板ノ厚サ(耗ニテ)

t_i ハ内覆板ノ厚サ(耗ニテ)

p ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

第四十九條 端列ニ於ケル銲孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ其

T ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

於ケル銲數	一	二	三	四	五
Pナル心距ニ於ケル銲數	一	二	三	四	五
果接合ナルトキ	一・三二	二・六二	三・四七	四・一四	
兩覆板銲接合ナルトキ	一・七五	三・五〇	四・六三	五・五二	六・〇〇

第五十一條 胴板ト鏡板トノ接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ハ二以上ト爲スベシ

筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六〇以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ二以上ト爲シ超ユルトキハ三以上ト爲シ

シ兩面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六二以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ一三耗ヲ超ユルトキハ二以上ト爲シ三〇耗ヲ超ユルトキハ三以上ト爲スベシ

直立汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ其ノ接合ガ全周ニ互ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ヲ二以上ト爲スベシ

第五十二條 胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{(T-a) \times S \times C \times I}{D}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎瓦ニテ)
- T ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)
- S ハ胴板ノ最小抗張力(每平方糎瓦ニテ)
- D ハ胴ノ最大内徑(耗ニテ)
- J ハ縦接合ノ強率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ
- a ハ胴板ノ厚サ四五糎未滿ナルトキハ一・五、四五糎以上ナルトキハ〇
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五糎未滿ナルトキ	五二・一
縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五糎以上ナルトキ	五〇・〇
縦接合ガ累接三列銀ナルトキ	五〇・五
縦接合ガ累接二列銀ナルトキ	四九・三
縦接合ガ累接一列銀ナルトキ	四三・三

縦接合ノ強率ハ左ノ各號ノ強率中最小ノモノトス
 一 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$J_1 = \frac{P-d}{P}$$

二 接合ニ於ケル銀ノ強率

$$J_2 = \frac{n \times 10^6 \times K}{P \times T}$$

三 外列ノ銀ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ銀ノ心距ノ二倍ナルト

b ハ各列ニ於ケル支柱心距(耗ニテ)
 W ハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ(耗ニテ)
 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固著セザル座金ヲ備フル場合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザルトキハ零

厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ徑ノ三・五倍以上ノ座金ヲ外面ニ備フルトキ	〇・一五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ座金ヲ銀ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・三五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍幅ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ條板ヲ銀ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・五五
厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍ナル二重張板ヲ銀ニテ板ニ固著シタルトキ	〇・八五

C₁ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

支點ノ種類	板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキ	板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ
支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ絞締シタルトキ	四二〇〇	三七一〇
支柱ヲ板ニ振込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	六三一〇	五五二〇

キノ銀及胴板ノ聯合強率

$$J_3 = \frac{P-2d}{P} + \frac{J_1}{n}$$

- T ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)
- p ハ外列ニ於ケル銀ノ心距(耗ニテ)
- d ハ銀孔ノ徑(耗ニテ)
- n ハpナル心距ニ於ケル銀數
- k ハ兩覆板ヲ有スル場合ニ於テハ一・二一、其ノ他ノ場合ニ於テハ〇・六四

第四十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ熔接シタル胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ管海官廳ノ定ムル所ニ依ル
 四箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心線ニ平行又ハ略平行ニ配置セラルル時ハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル胴板ノ強率ガ縦接合ノ強率ヨリ小ナラザル様之ヲ定ムベシ
 第五十三條 平板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス
 一 螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$P = C_1 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

P ハ制限汽壓(每平方糎瓦ニテ)
 T ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

a ハ支柱各列中心線ノ距離(耗ニテ)

支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	七〇〇〇	六一五〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ二重張板ヲ當テ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	七三六〇	六四五〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ	—	三八二〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	—	五二八〇

二 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢相互間又ハ焰管巢ト胴板トノ間ノ部分

$$P = C_2 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

- P 及 T ハ前號ニ同ジ
- a ハ管支柱ノ水平心距(耗ニテ)
- b ハ管支柱ノ縦心距(耗ニテ)
- w ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ(耗ニテ)
- k ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ〇・五五、之ヲ取附ケザルトキハ零
- C₂ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺締ト爲サザルトキ	三八二〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇置ニ母螺締ト爲シタルトキ	四六三〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ母螺締ト爲シタルトキ	五二八〇

三 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢ニ於ケル部分

$$P = C_3 \times \frac{(T-1)^2}{P_2}$$

P 及 T ハ第一號ニ同ジ

P ハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル

四邊形ノ四邊ノ平均ノ長サ (耗ニテ)

C₃ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリトキ	二八〇〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリトキ	三六〇〇
母螺締ト爲シタルトキ	三六〇〇

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種類ガ同一ナラザルトキハ定數 C₁、C₂、C₃ 及 K ハ各種類ノ支點ノ數ニ之ニ對スル定數ヲ乗ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數ニテ除シタルモノトス

前二項ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ル

一 曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲内半徑ガ板ノ厚サノ一・五倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板ノ厚サノ三・五倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス

二 少クトモ三支點ヲ通り内部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ徑ヲ d トシ第一項ノ算式中 $r_1 + r_2$ ノ代リニ r_1 ヲ用ウ

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力 (每平方糎ニテ)

D テハ洞ノ中心線ヨリ管板ノ縱端列ノ管嵌孔ノ中心迄ノ距離ノ二倍 (耗ニテ)

P ハ管ノ縱心距 (耗ニテ)

b ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑 (耗ニテ)

前項ノ管板ノ縱端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

第五十六條 筒形汽罐ノ後管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラス同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ最小ノモノトス

$$P = \frac{2100(D-d)T}{W \times D}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ焰管ノ水平心距 (耗ニテ)

b ハ普通焰管ニ對スル管孔ノ徑 (耗ニテ)

W ハ燃燒室上部ノ奥行 (耗ニテ)

第五十七條 燃燒室ノ頂板ヲ支フル鋼製支梁ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times D^2 \times T \times S}{(L-d) \times D \times L}$$

三 曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル場合ノ定數 C₁ ハ板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキハ八〇六〇、板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキハ七〇四〇トス

第五十四條 支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ鉸縮スル場合ニ於ケル板ノ厚サハ支柱ノ螺糸底ニ於ケル徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背板ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ前條第一項第一號ノ算式ニ用キ算定シタル a ヲヨリ大ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半徑ガ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ第五十七條ノ算式ニ用キ算定シタル支梁ノ心距 D ノ二分ノ一ヨリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハ D ヲヨリ大ナルコトヲ得ズ又右ノ彎曲外半徑ガ D ノ二分ノ一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハ D ノ二分ノ一ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第五十五條 焰管巢ヲ形式スル焰管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラス同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ最小ノモノトス

$$P = \frac{49.2 \times (T-1.5) \times S \times (p-d)}{D \times p}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

b ハ支梁中央部ノ深サ (耗ニテ)

T ハ支梁ノ厚サ但シ二枚合セ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和 (耗ニテ)

L ハ燃燒室上部ノ内側ニ於テ測リタル奥行 (耗ニテ)

p ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距 (耗ニテ)

D ハ支梁ノ心距 (耗ニテ)

S ハ支梁ニ用ウル鋼材ノ最小抗張力 (每平方糎ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

各支梁ノ支フル支柱ノ數 n ガ奇數ナルトキ	$\frac{n}{n+1} \times 25.5$
各支梁ノ支フル支柱ノ數 n ガ偶數ナルトキ	$\frac{n+1}{n+2} \times 25.5$

第五十八條 燃燒室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザル部分ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ最小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1) - L]}{D}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ燃燒室底部ノ鋼板ノ厚サ (耗ニテ)

Dハ燃燒室底部ノ外徑(耗ニテ)
 Lハ燃燒室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト銲接合スル銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ(耗ニテ)
 C及C₁ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縱接合ノ種類	C	C ₁
銲	合	合
銲	九六、〇〇〇	三・五二
銲	三・一六	

第五十九條 筒形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1) - L]}{D}$$

P、C及C₁ハ前條ニ同ジ
 Tハ火爐鋼板ノ厚サ(耗ニテ)
 Dハ火爐ノ外徑(耗ニテ)
 Lハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲縁ト爲シ板、補強環等ト接合スル場合ニ於テハ曲縁ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲縁ト銲接合スル場合ニ於テハ銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ(耗ニテ)

中小ナルモノトス

Dハ火爐板ト頂板トノ接合銲ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均(耗ニテ)

Lハ火爐板ト頂板トノ接合銲ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所迄ノ距離(耗ニテ)

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ絞縮シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ一四倍ヲ、母螺縮ト爲シタルモノニ在リテハ一六倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺絲上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ一・二五倍以上ナルトキハ前項ノLハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

第六十三條 直立汽罐ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オジ」環ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{10,300(T-1)^2}{D \times (D-d)}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
 Tハ「オジ」環ノ厚サ(耗ニテ)
 Dハ胴ノ内徑(耗ニテ)
 dハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジ」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ(耗ニテ)

第六十條 皺形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C(T-1)}{D}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
 Tハ火爐ノ皺形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ(耗ニテ)
 Dハ火爐ノ皺形部ニ於ケル最小外徑(耗ニテ)
 Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

火 爐	ノ	種 類	C
「モリソン」式、「デイトン」式又ハ之ニ類スルモノ			一〇九〇
「リーズ、フオージ、バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ			一一六〇

第六十一條 支柱又ハ其ノ他ニ依リ補強セラレザル半球狀火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{627(T-1)}{R}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
 Tハ火爐鋼板ノ厚サ(耗ニテ)
 Rハ火爐ノ球面外半徑(耗ニテ)

第六十二條 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ記號ヲ用キ第五十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ

第六十四條 火爐板ノ厚サハ二一耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六十五條 胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{21.6 \times S \times (T-1)}{R}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
 Tハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
 Rハ鏡板ノ球面内半徑(耗ニテ)
 Sハ鏡板ノ抗張力(每平方糎ニテ)

前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲縁部ニ於ケル曲縁ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未満ナルコトヲ得ズ

第六十六條 二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1.5) \times S \times J}{R}$$

Pハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
 Tハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)
 Sハ鏡板ノ最小抗張力(每平方糎ニテ)

J 第五十二條第二項ノ規定ヲ準用シ算定シタル鏡板相互ノ接合強率

R ハ鏡板ノ球面内半径 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

鏡板相互ノ接合ガ一列鋸ナルトキ	四三・三
鏡板相互ノ接合ガ二列鋸ナルトキ	四九・三
鏡板相互ノ接合ガ三列鋸ナルトキ	五〇・三

第六十七條 螺旋支柱又ハ縱支柱ノ螺絲底又ハ其ノ他ノ部分ニ於ケル最小ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C_1 / \sqrt{PA} + 3$$

d ハ螺旋支柱又ハ縱支柱ノ最小ノ徑 (耗ニテ)

P ハ制限汽壓 (每平方糎疋ニテ)

A ハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積 (平方糎ニテ)

C₁ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ	〇・四四
縱支柱ナルトキ	〇・四〇

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノCノ代リニ次ノC'ヲ用ウベシ

第六十九條 前二條ノ支柱ノ螺絲ハ成ルベク左表ニ依ルベシ

支柱ノ種類	螺	距	(耗)
螺旋支柱	二〇以上	三〇以下	
縱支柱	四〇以上	六・五以下	
管支柱	二・五以上	三・五以下	

第七十條 焰管ノ厚サハ成ルベク左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

$$T = \frac{PD}{700} + 2$$

T ハ焰管ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ焰管ノ外徑 (耗ニテ)

P ハ制限汽壓 (每平方糎疋ニテ)

第三節 水管汽罐及過熱器

第七十一條 水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ外前節ノ規定ニ依ルベシ

第七十二條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縱接合ハ胴ノ縱接合部ニ於ケル内徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ一〇〇倍未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ橫截内面ヲ圓形ナラシムベシ

第七十三條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ強

$$C = C' \times \sqrt{\frac{L}{H}}$$

C ハ前項ニ同ジ

L ハ斜向支柱ノ長サ (耗ニテ)

H ハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離 (耗ニテ)

燃燒室ノ内側ニ於ケル螺旋支柱ノ母螺ノ高サハ該螺旋支柱ノ螺絲部ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六十八條 管板ヲ支持スベキ管支柱ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{527.2a}{A}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎疋ニテ)

a ハ管支柱ノ最小橫截實面積 (平方糎ニテ)

A ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積 (平方糎ニテ)

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管巢ノ外周列ニ在ルモノナルトキハ六・〇糎以上、其ノ他ノモノナルトキハ四・五糎以上ナルコトヲ要ス

管支柱ハ兩管板ニ振込ミタル上之ヲ適當ニ擴張シ緊著スベシ

管支柱ノ燃燒室端ニハ母螺ヲ附スベカラズ

力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{47.2 \times S \times (T - 3)}{D} \times \frac{P - d}{P}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎疋ニテ)

D ハ胴ノ内徑 (耗ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力 (每平方糎疋ニテ)

p ハ胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距 (耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑 (耗ニテ)

管板ノ厚サハ胴板又ハ鏡板ト接合スル部分ニ於テハ第五十二條ノ規定ニ依ル胴板ノ強力ニ相當スル厚サ迄之ヲ減ズルコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ厚サノ急激ナル變化ヲ避ケ且其ノ部分ヲ機械仕上ト爲スベシ

第七十四條 水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

管孔ヲ其ノ中心線ガ管板ニ垂直ナル様穿ツトキハ孔ノ管座ノ深サヲ一〇糎以上ト爲シ斜ニ穿ツトキハ孔ノ管座ノ直圓筒部ノ深サヲ一三糎以上ト爲スベシ

第七十五條 水管汽罐ノ水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{1,400(T-a)}{D} - 28$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ水管ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ水管ノ外徑 (耗ニテ)

a ハ定數ニシテ左表ニ依ル

火焔若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直面スル管集端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ	二〇
其ノ他ノ管ナルトキ	一・五

水管ノ厚サハ八耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

水管ハ總テ擴張其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ緊密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ六耗以上突出セシムベシ

水管ハ脱出セザル様其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部ヲ喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$D = 1.031 + 1.5$$

D ハ水管端部ノ外徑 (耗ニテ)

d ハ水管ノ外徑 (耗ニテ)

第七十六條 管寄其ノ他之ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル平面部ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

視孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ安全ヲ害スル虞ナキコトヲ要シ蓋ヲ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テモ危険ナキモノト爲スベシ

第四節 汽罐附屬品

第七十七條 汽罐ニ接續スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ接近シ易キ箇所ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第七十八條 汽罐ニハ徑四〇耗以上ノ發條式安全弁二箇以上ヲ備ヘ汽罐ノ制限汽壓每平方糎二〇耗以下ナルトキハ其ノ合計面積ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ但シ安全弁ハ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ガ一九・五平方糎未滿ナルキハ徑五〇耗以上ノモノ一箇、一二・五平方糎未滿ナルトキハ徑四〇耗以上ノモノ一箇ト爲スコトヲ得

$$A = K \times \frac{H}{P+1}$$

A ハ安全弁ノ合計面積 (平方糎ニテ)

H ハ汽罐ノ受熱面積 (平方米ニテ) ニシテ一面ガ火焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ハ之ヲ除外シ且焔管ハ外徑ヲ基トシテ算定シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴

$$P = C \times \left(\frac{T-2.5}{B} \right)^2$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

B ハ内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

鍛鋼ナルトキ	五八三〇
鑄鋼ナルトキ	四六〇〇

管寄ノ管ヲ取附クル平面部ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.47 \sqrt{P} + 6.5$$

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑 (耗ニテ)

過熱器ノ管寄其ノ他火焔ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝擊ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸汽ノミヲ有スル管寄ノ厚サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ一・一二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

管寄ノ視孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル様機械仕上ト爲スベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ一・五耗ヲ減ズルコトヲ得但シ八耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

ハ之ヲ除外スルモノトス

P ハ汽罐ノ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

筒形汽罐又ハ直立汽罐	六・一
機關室密閉式強壓通風ヲ使用セズシテ石炭ノミヲ手焚スルモノ	七・三
其ノ他ノモノ	五・三
自然通風ニ依リ石炭ノミヲ手焚スルモノ	六・一
水管汽罐	六・一

先驅弁ヲ有スル安全弁又ハ高揚程型安全弁ニシテ管海官廳適當ト認ムルモノニ付テハ其ノ合計面積ヲ前項ノ規定ニ依リ算定シタルモノノ二分ノ一迄減ズルコトヲ得

汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ前二項ノ規定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ニ於テ安全弁ガ第八十條第二項ノ規定ニ適合スルモノナルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第七十九條 安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ

安全弁ノ弁匣ノ蒸汽進入路ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ二分ノ一以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ一・一倍以上ト爲スベシ

廢汽路ニハ適當ナル排水裝置ヲ設ケ之ヲ溢水溜其ノ他適當

ナル箇所ニ導クベシ
 安全弁ニハ弁ヲ同時ニ開キ得ル揚弁装置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ近寄り易キ安全ナル位置ニ導クベシ
 安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルトキ其ノ長サガ弁徑ノ四分ノ一以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルコトヲ要ス
 第八十條 安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ一・〇三倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル様調整スベシ

安全弁ハ塞汽弁ヲ閉テ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間・其ノ他ノ汽罐ニ在リテハ一五分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ十分ノ一ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ汽罐ニ適當ナル水準ヲ維持セシムルニ必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ
 第八十一條 蒸汽過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル装置アルトキハ蒸汽過熱器ニ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縦シ得ル揚弁装置ヲ設クベシ
 第八十二條 汽罐ニハ左表ニ依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知り得ベキ装置ヲ五ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐ニハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

汽罐ノ種類	裝置ノ種類及數	摘	要
直立汽罐	硝子示面計一箇及驗面「コック」一組		

第八十五條 汽罐ニハ適當ノ位置ニ檢査弁又ハ檢査「コック」ヲ備フベシ但シ湖沼ノミヲ航行スル船舶ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ備ヘザルコトヲ得
 第八十六條 汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑二〇糎以上ナルコトヲ要ス
 二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶ニ在リテ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接続セシムル場合ニ於テハ換締不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置ト爲スベシ

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第八十七條 汽罐ハ移動セザル様之ヲ船體ニ据附クベシ
 第八十八條 汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ
 第八十九條 汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ
 一 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力
 二 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎三・五疋ヲ加ヘタル壓力
 第九十條 蒸汽過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ
 第九十一條 汽罐ニ取附ケタル弁、「コック」、第八十二條末項ノ導管又ハ筒ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍

筒形片面汽罐	硝子示面計二箇	徑五米未満ノ汽罐ニ在リテハ一中一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得
筒形兩面汽罐	硝子示面計二箇及驗面「コック」二組	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附ケルベシ
水管汽罐	硝子示面計二箇	長サ四米ヲ超ユル船體ニ對シ横ニ配置シタル場合ニ於テハ兩端ニ近ク取附クベシ

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑二・五米未満ノ筒形汽罐又ハ高サ二・五米未満ノ直立汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得
 硝子示面計及驗面「コック」ハ成ルベク之ヲ汽罐ニ直接取附ケ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ適當ナル内徑及強力ヲ有スル筒ニ取附クベシ
 前項ノ筒ハ成ルベク汽罐ニ近接シテ固定スルコトヲ要シ筒ヲ導管ニ依リ汽罐ニ連絡セシムル場合ニ於テハ筒ノ位置ガ不慮ニ變動セザル様取附ケ汽側ノ導管ハ凝結水ノ滯溜セザルモノト爲スベシ

第八十三條 汽罐ニハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口ガ汽罐ノ兩面ニ在ル場合ニ於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ
 第八十四條 汽罐ニハ正副二組ノ給水制限弁ヲ備フベシ

第六節 給水裝置

第九十二條 主汽罐ノ給水裝置ハ正給水裝置及副給水裝置ヨリ成リ各裝置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第九十三條 正給水裝置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラレルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃出弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ五〇米未満ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水裝置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得
 二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ温水溜ヨリ吸水シ得ル様裝置スベシ
 正給水裝置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ之ニ自動調整裝置ヲ備フベシ
 長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ前項ノ「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第九十四條ノ副給水裝置ノ「ポンプ」ニ自動調整裝置ヲ備フベシ
 第九十四條 副給水裝置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノニシテ温水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積二〇平方米未満ノ汽罐ノ副給

水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得
 給水「ポンプ」ノ吸水管中醸汽ノ際汽罐内ノ水ヲ循環セシ
 ムル爲汽罐ノ底部ヨリ吸水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇
 ノモノト爲スベシ

第九十五條 補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水装置ヲ備フ
 ベシ但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ補汽罐ノ副給水装置ハ
 之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ
 關スル装置

第九十六條 排水装置ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモ
 ノノ外木船ニ在リテハ木船構造規程第二十二章、鋼船ニ在
 リテハ鋼船構造規程第二十三章、國際航海ニ從事スル旅客
 船ニ在リテハ船舶區畫規程第十二章ノ規定ニ依ル

第九十七條 滄水「ポンプ」ハ船ノ長サニ應ジ左表ニ依リ之
 ヲ備フベシ

船ノ長サ (米)	主機ニ依リ動 作セラルル 「ポンプ」ノ數	獨立ノ動力ニヨ リ動作セラルル 「ポンプ」ノ數	手動「ポンプ」 ノ數	摘要
二五未滿	一	一	一	管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限り旅客船ニ非ザル長サ二五米未滿ノ 船ニ在リテハ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ヲ省略シ又長サ一〇 米未滿ノ船ニ在リテハ滄水及桶一箇ヲ以テ「ポンプ」ニ代フルコトヲ得
二五以上 五〇未滿	一	一	一	管海官廳長サ三〇米未滿ノ船ニ付獨立動力「ポンプ」ノ備附ガ實際上 困難ナリト認ムルトキハ他ノ「ポンプ」ノ能力其ノ他ヲ考慮シ其ノ備附 ヲ省略セシムルコトヲ得
五〇以上 一〇〇未滿	二	一	一	
一〇〇以上	二	二	一	

前項ノ滄水「ポンプ」ハ夫々動力「ポンプ」ヲ以テ手動「ポ
 ンプ」ニ、獨立動力「ポンプ」一箇ヲ以テ主機ニ依リ動作
 セラルル「ポンプ」二箇ニ代フルコトヲ得
 雜用「ポンプ」、脚荷水「ポンプ」、衛生「ポンプ」等ニ
 シテ滄水排出ノ目的ニ對シ適當ニ裝置セラレタルモノナル

トキハ之ヲ第一項ノ滄水「ポンプ」ト看做スコトヲ得
 獨立動力滄水「ポンプ」中一箇ハ呼水ヲ要セズシテ即時使
 用シ得ルモノト爲スベシ

第九十八條 滄水吸引主管ノ内徑ハ船ノ長サニ應ジ左ノ各號
 ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但

シ第三號ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スルモノニ在リテハ

ナルコトヲ要ス

- 六〇 耗未滿ト爲スコトヲ得ズ
 - 一 長サ二五米未滿ノ船舶
 $d = 1.29(L - 10) + 10$
 - 二 長サ二五米以上三五米未滿ノ船舶
 $d = 2.67(L - 20) + 15$
 - 三 長サ三五米以上ノ船舶
 $d = 1.67\sqrt{LB + D} + 25$
 - d 滄水主管ノ内徑 (耗ニテ)
 - L、B、D 夫々船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ長サ、
 幅及深サ (米ニテ)
- 前項第三號ノ船舶ニ在リテハ各水密區畫ニ對スル滄水吸引
 支管ノ内徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ
 之ヲ定ムベシ但シ一〇〇耗ヲ超ユルコトヲ要セズ又國際航
 海ニ從事スル船舶ニ在リテハ五〇耗未滿ト爲スコトヲ得
 ズ

- d' 滄水支管ノ内徑 (耗ニテ)
- 1 八當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ (米ニテ)
- B、D 夫々船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ幅及深サ
 (米ニテ)

第九十九條 滄水排水装置ハ次ノ各號ノ規定ニ適合スルモノ

- 一 各動力滄水「ポンプ」ハ實際上手動「ポンプ」ニテ差
 支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ吸水シ得
 ル配置ト爲スコト
- 二 第九十七條第一項ノ規定ニ依リ備フベキ各獨立動力滄
 水「ポンプ」ハ滄水主管内ノ水ノ流速ガ通常ノ操作状態
 ニ於テ毎分一二二米以上トナル吸水能力ヲ有スルモノナ
 ルコト但シ第九十七條第一項ノ規定ニ依ル「ポンプ」ノ
 外向其ノ他ニ獨立動力滄水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其
 ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依ル獨立動力滄水
 「ポンプ」一箇毎ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト
- 三 獨立動力滄水「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ滄水
 「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ排水中ト雖モ直接機關室
 ヲリ排水シ得ル装置ト爲スコト
- 四 機關室ニ於ケル滄水吸引管ハ之ヲ泥芥箱ニ接続シ泥芥
 箱ハ滄水溜ニ通ズル眞直ナル尾管及急速ニ開閉シ得ル構
 造ノ蓋ヲ有シ且成ルベク機關室床上ヨリ容易ニ掃除シ得
 ル場所ニ之ヲ設置スルコト但シ管海官廳ニ於テ船體ノ構
 造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ
 限り吸引管端ニ附シタル芥除箱ヲ以テ泥芥箱ニ代フルコ
 トヲ得ルコト
- 五 各艙、軸路及石炭庫ニ於ケル滄水吸引管端ニハ吸引管

ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ芥除箱ヲ備フルコト

前項第四號及第五號ノ芥除箱ノ吸水孔ノ各孔ノ徑ハ一〇耗以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ横截面積ノ三倍以上ト爲スベシ

第百條 循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最底部ヨリ直接海水ヲ吸引シ得ル装置ト爲シ其ノ吸引管ノ内徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ内徑ノ三分ノ二以上ト爲スベシ

前項ノ不還弁ニハ成ルベク適當ナル揚弁装置ヲ備フベシ
燃料ニ石炭ヲ使用シ又ハ使用スルコトアルベキ汽罐ト汽機トノ間ニ水密隔壁ナキ長サ一〇米以上ノ船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ旅客船ニ非ザル近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ少クトモ一箇ノ循環水「ポンプ」ヨリ復水器管ヲ經ズシテ直接船外ニ排水シ得ル様装置スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノ又ハ裝置スルコト甚シク困難ナリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百一條 長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ獨立動力「ポンプ」中一箇ハ海水ヲ吸引シテ甲板上ニ送水シ且船體ノ前後部ニ同時ニ配水シ得ル装置ト爲スベシ

第百五條 船外ヨリ吸水スル管ハ海水弁又ハ海水「コック」ニ連絡シ海水弁又ハ海水「コック」ハ之ヲ直接外板ニ取附クルカ又ハ外板ニ取附ケタル堅牢ナル脚筒ニ取附ケ機關室床板上ニ於テ容易ニ操作シ得ルモノト爲スベシ
鋼船ノ外板ニ弁、「コック」又ハ前項ノ脚筒ヲ取附クル螺釘ハ之ヲ外板ニ振込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

第百六條 第八十六條ノ放水管ハ近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ニ連結スベシ
前項ノ弁又ハ「コック」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ鋼船ニ在リテハ其ノ取附部ニ於ケル外板ノ腐蝕ヲ防止スル爲外板ニ適當ナル装置ヲ爲スベシ

第一項ノ「コック」ハ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ開閉把手ヲ取放チ得ザル装置ト爲スベシ
第一項ノ放水管ヲ罐水循環ノ爲使用スル船舶ニ在リテハ同項ノ弁又ハ「コック」ト罐水循環路トヲ遮斷シ得ル様適當ニ裝置スベシ

第百七條 排水管ハ成ルベク近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コック」ニ連結スベシ但シ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線以上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限リ管海官廳ノ見込ニ依リ弁又ハ「コック」ヲ備ヘザルコトヲ得

第百八條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル汽機機關規程

第百二條 海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ニ接續スル海水管ニハ海水又ハ水槽ト海水トニ同時ニ開通シ得ザル「コック」又ハ不還弁ヲ備ヘ海水、脚荷水又ハ水槽ノ水ガ貨物艙、機關室若ハ軸路ニ流入シ又ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スベシ

海水配流箱ニ於ケル弁ハ不還弁ト爲スベシ
貨物艙、機關室又ハ軸路ヨリ排水スベキ「ポンプ」、吸引管ハ二重底又ハ水槽ノ充水管又ハ排水管トハ別箇ノモノト爲スベシ

海水吸引管ヲ連絡スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ備フベシ
海水管ガ鋼管ナルトキハ成ルベク亞鉛鍍ト爲スベシ
石炭庫其ノ他損傷ヲ受ケ易キ場所ニ於ケル海水吸引管ハ之ニ適當ナル保護裝置ヲ備フベシ

第百三條 二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ二重底又ハ水槽ノ水ヲ獨立ノ動力「ポンプ」ニ依リ排出シ得ル適當ナル装置ヲ備フベシ

第百四條 長サ三五米以上ノ船舶ハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ冷却水ヲ復水器ニ送り得ル装置ヲ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ二様ト爲サザルコトヲ得
前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スコトヲ得

第八節 管

第百九條 汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P = \frac{(T-a)}{D} \times K$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

D ハ管ノ内徑 (耗ニテ)

T ハ管ノ厚サ (耗ニテ)

a 及 K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

汽管ノ種類	a	K
引拔銅管	一〇	四四〇
鐵附銅管	一〇	三三〇

管	管	
	鍛合鋼管	高溫仕上無接合鋼管
常溫引拔鋼管	二・五	八四四
給引拔鋼管	三・〇	八四四
水引拔鋼管	三・〇	六三三
常溫引拔鋼管	一・〇	三五五
給引拔鋼管	一・〇	二六六
水引拔鋼管	二・〇	七〇三

第八十二條末項ノ導管中汽側ノモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ水側ノモノ及第八十六條ノ放水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第一百十六條 給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁、「コック」給水加熱器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受タル部分ハ之ヲ製造シ仕上グルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百十七條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

第一百十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百十九條 主汽管ハ鑿ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百二十條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

第一百二十一條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十二條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十三條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十四條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十五條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十六條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十七條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十九條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十一條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十二條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十三條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十四條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十五條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十六條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十七條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十九條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百四十條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出口ヲ備フベシ

第一百十三條 汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クとも二箇ノ汽罐ヨリ汽笛、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

第一百十四條 二二〇度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第一百十五條 管ハ振動ヲ防止スル爲メ帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第一百十六條 給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁、「コック」給水加熱器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受タル部分ハ之ヲ製造シ仕上グルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百十七條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

第一百十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百十九條 主汽管ハ鑿ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百二十條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

第一百二十一條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十二條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十三條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十四條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十五條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十六條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十七條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百二十九條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十一條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十二條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十三條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十四條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十五條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十六條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十七條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十八條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百三十九條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百四十條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百四十一條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百四十二條 汽管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

燃油裝置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接続スルカ又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ
噴油器・噴油「ポンプ」、加熱器及油濾器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第二百二十七條 噴油「ポンプ」及之ニ接続スル管系ハ給水「ポンプ」、海水「ポンプ」又ハ脚荷水「ポンプ」及此等ニ接続スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ
油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ

第二百二十八條 噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管鏝ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用ウル場合ニ於テハ高溫ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用ウベシ
前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ
油管ハ機關室ニ於テハ検査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第二百二十九條 噴油「ポンプ」ノ動力裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縦シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百三十條 油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ但シ自動閉塞式ノ弁又ハ「コック」及適當ノ保護裝置ヲ備フル厚硝子板製ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
前二項ノ規定ハ小型油槽ニ付管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百三十四條 澄油槽及常用油槽ノ充油管ニハ前條第一項ノ裝置ヲ有スル弁若ハ「コック」又ハ不還弁ヲ槽ニ接続スル箇所ニ備フベシ但シ充油管ガ槽ノ頂部ニ接続セラルルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ成ルベク燃料油ヲ澄油槽及常用油槽ヨリ二重底ニ放出スル管ヲ設ケ槽ニ接続スル箇所ニ於テ之ニ前條第一項ノ裝置ヲ有スル弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百三十五條 機關室内ノ油管ニ附スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

第二百三十六條 機關室内ノ油槽ニ附スル沈澱水ノ排出管ニハ自動閉塞式又ハ封鎖裝置附ノ弁若ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百三十七條 蒸汽ニ依リ燃料油ヲ加熱スル場合ニ於テハ加熱用蒸汽管ノ末端ハ凝汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ検査シ得ル様之ヲ驗水槽ニ導クベシ
燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ之ヲ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ

第二百三十八條 機關室又ハ燃料油槽、澄油槽若ハ燃料油「ポンプ」ヲ備フル室ニ於ケル海水吸引管ハ鉛管ト爲スコトヲ得ズ

第三百三十一條 燃料油槽ト脚荷水槽トニ兼用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚荷水「ポンプ」ニテ他室ノ排水ヲ爲シ得ル裝置ト爲スベシ但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル澄油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
深水槽ヲ貨物艙、脚荷水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚荷水及燃料油ノ注入管竝ニ吸出管ニ、該槽ヲ燃料油槽又ハ脚荷水槽トシテ使用スル場合海水吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル裝置ト爲スベシ

第三百三十二條 移油管ニハ機關室又ハ「ポンプ」室隔壁ノ内側ニ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル様其ノ吸油側ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第三百三十三條 二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ次ノ場所ヨリ開閉シ得ル裝置ト爲スベシ
燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ裝置ヲ有スル弁又ハ「コック」ハ之ヲ該艙ノ内側ニ附スベシ但シ機關室ガ船尾艙ニ隣接スル船舶ニ在リテハ該弁又ハ「コック」ハ之ヲ船尾隔壁ノ機關室側ニ附スルコトヲ得

第三百三十九條 油槽ハ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ノモノト爲スベシ

第四百十條 燃油裝置ノ各部分ハ左ノ壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

- 一 噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力
- 二 噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管、燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ二倍ト每平方糎二八疋トノ中大ナル壓力
- 三 前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ每平方糎二二疋
- 四 燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力

前項第一號ニ掲グルモノノ試験ハ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ試験ハ船内取附後之ヲ執行スベシ

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

第四百十一條 發動機ハ容易且確實ニ推進器ヲ反轉セシメ又船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス
軸馬力三〇〇ヲ超ユル發動機ハ成ルベク自己反轉式ノモノ

ト爲スベシ

軸馬力六〇ヲ超ユル發動機ニシテ「クラツチ」ヲ用キ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

第四百十二條 徑二五〇耗以上ノ氣筒ニシテ最大壓力每平方糎三五疋以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ最大壓力ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様調整スベシ

第四百十三條 輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎一八疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ

小ナルコトヲ得ズ

$$d = C \sqrt[3]{D \cdot S}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

「克蘭ク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「克蘭ク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

發動機ノ種類	二 衝 程 發 動 機						四 衝 程 發 動 機							
	氣筒數		軸力推		軸「クランク」		軸力推		軸「クランク」		軸力推		軸「クランク」	
	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機	甲種機 又ハ乙種機	丙種機
一	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
二	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
三	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
四	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
五	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
六	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
一	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
二	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
三	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
四	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
五	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
六	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
七	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373
八	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373	0.373

軸間	第一種		第二種		軸旋螺
	甲種機 又ハ乙種機		甲種機 又ハ乙種機		
	丙種機	丙種機	丙種機	丙種機	
0.100	0.110	0.110	0.110	0.110	
0.110	0.120	0.120	0.120	0.120	
0.120	0.130	0.130	0.130	0.130	
0.130	0.140	0.140	0.140	0.140	
0.140	0.150	0.150	0.150	0.150	
0.150	0.160	0.160	0.160	0.160	
0.160	0.170	0.170	0.170	0.170	
0.170	0.180	0.180	0.180	0.180	
0.180	0.190	0.190	0.190	0.190	
0.190	0.200	0.200	0.200	0.200	
0.200	0.210	0.210	0.210	0.210	
0.210	0.220	0.220	0.220	0.220	
0.220	0.230	0.230	0.230	0.230	
0.230	0.240	0.240	0.240	0.240	
0.240	0.250	0.250	0.250	0.250	
0.250	0.260	0.260	0.260	0.260	
0.260	0.270	0.270	0.270	0.270	
0.270	0.280	0.280	0.280	0.280	
0.280	0.290	0.290	0.290	0.290	
0.290	0.300	0.300	0.300	0.300	
0.300	0.310	0.310	0.310	0.310	
0.310	0.320	0.320	0.320	0.320	
0.320	0.330	0.330	0.330	0.330	
0.330	0.340	0.340	0.340	0.340	
0.340	0.350	0.350	0.350	0.350	
0.350	0.360	0.360	0.360	0.360	
0.360	0.370	0.370	0.370	0.370	
0.370	0.380	0.380	0.380	0.380	
0.380	0.390	0.390	0.390	0.390	
0.390	0.400	0.400	0.400	0.400	
0.400	0.410	0.410	0.410	0.410	
0.410	0.420	0.420	0.420	0.420	
0.420	0.430	0.430	0.430	0.430	
0.430	0.440	0.440	0.440	0.440	
0.440	0.450	0.450	0.450	0.450	
0.450	0.460	0.460	0.460	0.460	
0.460	0.470	0.470	0.470	0.470	
0.470	0.480	0.480	0.480	0.480	
0.480	0.490	0.490	0.490	0.490	
0.490	0.500	0.500	0.500	0.500	

ナルコトヲ得ズ

一 「クランク」軸ノ徑

$$d_c = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (AS + BL)}{100}}$$

d_c ハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(耗ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第四百十四條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎一八疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt{\frac{P}{18}}$$

P, ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎ニテ)

第四百十五條 重油ヲ燃料トスル燒球式二衝程單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎二五疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ寸法ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小

氣筒數	「クランク」ノ配置						甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
	一	二	三	四	五	六	A	B	A	B
一	一	二	二	二	二	二	二・七五	二・六九	二・六六	二・六〇
二	二	二	二	二	二	二	二・七五	二・六九	二・六六	二・六〇
三	三	三	三	三	三	三	三・〇三	二・六六	二・六〇	二・五三
四	四	四	四	四	四	四	三・四六	二・六二	二・五七	二・五〇
五	五	五	五	五	五	五	三・八八	二・五〇	二・四三	二・三六
六	六	六	六	六	六	六	四・二九	二・四三	二・三六	二・二九
	六	六	六	六	六	六	五・〇八	二・三二	二・二五	二・一八
	六	六	六	六	六	六	六・八三	二・二二	二・一五	二・〇八

一 一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ

$$b^2 = 0.417d^2$$

d_cハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

bハ腕ノ幅(耗ニテ)

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテd_cノ〇・六〇倍

以上ナルコト

三 推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑

$$D = \sqrt[3]{\frac{C^3}{S}}$$

dハ軸ノ徑(耗ニテ)

Dハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

Sハ行長(耗ニテ)

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置						推 力 軸		中 間 軸		第一種螺旋軸		第二種螺旋軸	
	一	二	三	四	五	六	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
一	一	二	二	二	二	二	〇・二二六	〇・二五三	〇・二二〇	〇・二三八	〇・二二五	〇・二八一	〇・二二九	〇・二六三
二	二	二	二	二	二	二	〇・二七三	〇・二五三	〇・二二九	〇・二四〇	〇・二六〇	〇・二五五	〇・二九六	〇・二六一
三	三	三	三	三	三	三	〇・二八六	〇・二七一	〇・二七二	〇・二八〇	〇・二六六	〇・二七一	〇・三〇三	〇・二八八
四	四	四	四	四	四	四	〇・三〇二	〇・二七三	〇・二八九	〇・二七四	〇・二九九	〇・二八〇	〇・三二八	〇・三〇三
五	五	五	五	五	五	五	〇・三一九	〇・二八〇	〇・二八〇	〇・二八八	〇・三〇五	〇・二九一	〇・三三九	〇・三二四
六	六	六	六	六	六	六	〇・三三三	〇・二八五	〇・二九〇	〇・二八九	〇・三二五	〇・三〇〇	〇・三五七	〇・三三二
	六	六	六	六	六	六	〇・三三八	〇・二九〇	〇・二九〇	〇・二九八	〇・三二五	〇・三〇〇	〇・三五七	〇・三三二
	六	六	六	六	六	六	〇・四一八	〇・二九〇	〇・二九〇	〇・二九八	〇・三二五	〇・三〇〇	〇・三五七	〇・三三二

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル
 「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ
 勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力
 軸ノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取付クルトキハ該
 部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル
 モノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百六條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方
 糎二五疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依
 リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナル
 コトヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{0.02P + 0.5}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎疋ニテ)

前項ノ發動機ノ鍛鋼製ノ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ
 厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗
 ニテ)ヲdcニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用キ算定シタルモノ
 ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百七條 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」
 軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ
 得ズ

$$d_c = \sqrt[3]{\frac{D \cdot x (ASP + BLP)}{1,000}}$$

dcハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

Dハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

Sハ行長(耗ニテ)

Lハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離
 (耗ニテ)

Pハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎疋ニテ)

Pハ氣筒内平均有效圖示壓力(每平方糎疋ニテ)

A及Bハ定數ニシテ左表ニ依ル

一 二衝程單働式ナルトキ

氣筒數 配置	甲種機關又 ハ乙種機關		丙種機關	
	A	B	A	B
一	10.66	1.00	9.33	1.07
二	10.66	1.00	9.33	1.07
三	13.83	1.04	11.86	1.07
四	13.83	1.03	11.86	1.05

一二	配置	甲種機關又 ハ乙種機關	丙種機關
二	✱	11.9	1.07
二	✱	11.9	1.07

二 四衝程單働式ナルトキ

五	六	七	八	九	一〇	一一
✱	✱	✱	✱	✱	✱	✱
14.5	15.11	15.60	16.33	17.00	17.63	18.24
1.05	1.04	1.03	1.02	1.01	1.00	1.00
11.10	10.00	11.10	12.50	14.00	15.60	17.24
1.05	1.03	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00
1.05	1.03	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00
1.05	1.03	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00

氣筒數 配置	甲種機關又 ハ乙種機關		丙種機關	
	A	B	A	B
一	10.66	1.00	9.33	1.07
二	10.66	1.00	9.33	1.07
三	10.66	1.00	9.33	1.07
四	10.66	1.00	9.33	1.07
五	12.60	1.05	10.80	1.00
六	12.60	1.05	10.80	1.00
七	13.83	1.04	11.86	1.07
八	13.83	1.04	11.86	1.07

九	一〇	一一	一二
※	※	※	※
四・五二	一四・五二	一五・二二	一五・三三
一・四五	一・四五	一・四四	一・四三
二・四五	二・四五	二・四七	二・九七
一・二四	一・二四	一・二三	一・二三

三 二衝程複働式ナルトキ

五	四	三	二	一
※	※	+	人	┌
三・二〇	一八・四六	三三・〇〇	一四・三三	二〇・八六
二・二三	一・二〇	一・一四	一・三三	一・六〇
一八・八八	一五・八二	一九・〇四	二〇・九九	九・三三
〇・九六	一・〇三	〇・九	一・二三	一・三七

六	七	八	九	一〇	一一	一二
※	※	※	※	※	※	※
二〇・六六	三三・五〇	二六・八三	二七・九三	三三・四三	三六・八三	四八・二〇
一・一五	一・一三	一・〇七	一・〇三	一・〇三	一・〇二	〇・九七
一七・七三	二〇・一六	一九・一七	二二・九七	二六・九七	二九・七六	四一・三九
〇・九九	〇・九五	〇・九六	〇・八八	〇・八八	〇・八七	〇・八三

四 四衝程複働式ナルトキ

八	七	六	五	四	三	二	一
※	※	※	※	+	人	—	—
一八・七〇	一八・三九	一九・七〇	一四・五〇	一三・五一	一四・八八	二二・八一	一〇・八六
一・三二	一・三三	一・一九	一・三〇	一・三九	一・三〇	一・四二	一・六〇
一六・〇四	一五・七七	一六・〇六	一二・四四	一一・五〇	一二・四一	一〇・九九	九・三三
一・〇四	一・〇五	一・〇二	一・一一	一・一九	一・一一	一・三三	一・三七

九	一〇	一一	一二
※	※	※	※
三三・三三	二〇・〇三	三三・七三	二六・五〇
一・一六	一・一八	一・一六	一・〇九
一八・二六	一七・一〇	一八・六三	一七・七三
一・〇〇	一・〇一	一・〇〇	〇・九四

備考 ※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ
 勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸トノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取付クルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項ノ算式ニ依リテ算定シタルモ

ノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百四十八條 「デイーゼル」式發動機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$w = 0.438d_c$$

$$t = 0.625d_c$$

d_cハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

wハ「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)

二 一體型「クランク」軸ナルトキ

$$bt^2 = 0.417d_c^3$$

d_cハ前號ニ同ジ

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテd_cノ〇・五六倍以上ナルコト

bハ「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)

前項ノ規定ハ高速機關又ハ管海官廳差支ナシト認ムル機關ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第四百四十九條 「デイーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑

九	八	七	六	五	四	三	二
✳	✳	✳	✳	✳		+	—
0.4	0.2	0.4	0.5	0.0	0.2	0.5	1.6
0.0111	0.106	0.014	0.019	0.059	0.106	0.100	0.335
0.121	0.111	0.111	0.111	0.19	0.123	0.26	0.156
0.335	0.110	0.111	0.100	0.18	0.123	0.120	0.335

ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = \sqrt[3]{n(1+M)D \cdot S \cdot p \cdot r \cdot x \cdot e \cdot R}$$

dハ中間軸ノ徑(耗ニテ)

Dハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

Sハ行長(耗ニテ)

Eハ氣筒内平均有效圖示壓力(毎平方糎ニテ)

nハ「クランク」軸系ヲ異ニシテ同一推進軸系ニ聯動スル發動機ノ數

rハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數

Rハ中間軸ノ毎分計畫回轉數

eハ「クランク」軸ト中間軸トノ間ニ裝置セラレタル動力傳導裝置又ハ變速裝置ノ總傳導率

Mハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル數ト次表ニ掲グルZトノ中小ナルモノ

Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

一 二衝程單働式ナルトキ

氣筒數ノ配置	K	Z	甲種機械又ハ乙種機械	C
1	1	0.5	0.11	0.11
2	2	0.5	0.11	0.11
3	3	0.5	0.11	0.11
4	4	0.5	0.11	0.11

氣筒數ノ配置	K	Z	甲種機械又ハ乙種機械	C
1	1	0.6	0.07	0.09
2	2	0.6	0.12	0.11
3	3	0.6	0.15	0.12
4	4	0.6	0.18	0.13

二 四衝程單働式ナルトキ

氣筒數ノ配置	K	Z	甲種機械又ハ乙種機械	C
1	1	0.6	0.07	0.09
2	2	0.6	0.12	0.11
3	3	0.6	0.15	0.12
4	4	0.6	0.18	0.13

$$M = K \frac{10000D^3}{(6.24wb^2 + Wf^2)R^2}$$

- D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)
- S ハ行長(耗ニテ)
- w ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重量(疋ニテ)
- b ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重心點ヨリ「クランク」軸ノ中心線ニ至ル距離(耗ニテ)
- W ハ勢車ノ重量(疋ニテ)
- F ハ勢車ノ外徑(耗ニテ)
- R ハ軸ノ毎分回轉數
- K ハ定數ニシテ前項ノ表ニ依ル

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ノ場合ニ在リテハ第一項ノZ及前項ノMノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

第二百五十條 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二百五十一條 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d_s = d + \frac{P}{C}$$

六條、第四百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得
鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸鏝ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條、第四百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第二百五十五條 抗張力ガ不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條又ハ第五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル鍛鋼製第一種螺旋軸ノ徑ノ一・〇五倍以上ト爲スベシ

第二百五十六條 軸鏝ヲ連結スル螺釘ノ軸鏝連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{N \cdot L}}$$

- d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)
- N ハ螺釘ノ數
- d₁ ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)
- D ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條又ハ第四百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ノ回轉數ト異ル回轉數ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中ノDハ第四百四十三條

- d_s ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)
- d ハ第四百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)
- P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

第二百五十二條 船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發動機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ寸法ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十八條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二百五十三條 鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ發動機及軸ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十七條、第四百四十九條乃至第五百一十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ内徑ガ外徑ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K = \frac{3}{1 - R}$$

R ハ中空軸ノ内徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第二百五十四條 鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ其ノ徑ガ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百十

乃至第四百四十七條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乗ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條又ハ第四百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様適當ナル構造ト爲スベシ

第二百五十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第四百四十三條乃至第四百四十六條、第五百一十一條又ハ第五百十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管又ハ軸支肘ノ「ブッシュ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

$$T = 0.03d_s + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

d₅ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百三十三條乃至第四百四十六條又ハ第五百一十一條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第五百十八條 發動機ノ電氣點火裝置ノ導線ハ完全ニ絶緣シタルモノニシテ損傷ヲ受クル處ナク且油管、油槽又ハ油ト接觸セザル様之ヲ敷設スベシ

整流子ハ之ヲ蔽圍スベシ
點火裝置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル處アル場所ニ之ヲ備フルコトヲ得ズ

燃料油ノ點火又ハ氣化ノ爲燈ヲ使用スルトキハ之ヲ適當ナル臺ニ取附ケ且其ノ火焰ヲ蔽圍スベシ

第五百十九條 發動機ノ氣化器ハ發動機ノ停止シタル場合自働的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル裝置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出スル處アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有スル油受ヲ設ケ之ニ排油裝置ヲ備フベシ

氣筒ト氣化器トノ間又ハ氣化器ノ空氣吸入口ニハ成ルベク金網ノ隔膜ヲ備フベシ
第六十條 第四百二十二條及前二條ノ規定ハ補機動作ノ發動機ニ之ヲ準用ス

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第六十七條 燃料油槽ノ注油管ハ專用ノモノトシ成ルベク甲板上ニ達セシメ其ノ開口部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉シ得ルモノト爲スベシ

揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ適當ナル逃出口ヲ備ヘ之ニ排氣管ヲ設ケ其ノ他ノ燃料油槽ニハ適當ナル空氣管ヲ設クベシ

前項ノ排氣管及空氣管ハ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル危険ナキ場所ニ導キ且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ侵入スル處ナキモノト爲スベシ

第六十八條 油槽ノ開口部ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナル金網膜ヲ裝置スベシ

第六十九條 船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝置ヲ設ケ且内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油裝置ヲ設クベシ
第七十條 前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七十一條 強壓ヲ受クル燃料油槽ノ強力ハ氣槽ノ強力ニ準ジ之ヲ算定スベシ

第七十二條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油

第六十一條 油槽、油管及此等ニ附屬スル弁竝ニ「コック」ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第三章第十節ノ規定ヲ準用ス

第六十二條 發動機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油ヲ供給シ得ル裝置ヲ設クベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ノ「デーゼル」式發動機ノ燃料油管ニハ燃料油濾器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第六十三條 重油管ニ非ザル燃料油ノ管ニハ適當ニ熱處理ヲ爲シタル引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第六十四條 燃料重油管ニハ成ルベク引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ

噴油「ポンプ」ト氣筒トヲ連絡スル重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第六十五條 燃料油管ハ容易ニ検査スルコトヲ得且外部ヨリ損傷ヲ受クル處ナキ様敷設スベシ

第六十六條 燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢氣管、消音器其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コック」等ハ外部ヨリ損傷ヲ受クル處ナキ安全ナル場所ニ取附クベシ

「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室密閉式發動機ニハ「クランク」室内ノ油ヲ隨時排出シ得ル裝置ヲ備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤セザル様裝置スベシ

前項ノ發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又ハ濾器ヲ備フベシ

潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ様適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第七十三條 機關室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通風良好ナルモノト爲スベシ

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第七十四條 廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却スルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ

消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ

二箇以上ノ發動機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停止

セル發動機ノ氣筒内ニ廢氣ノ侵入セザル様装置スベシ
廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ
侵入セザル様装置スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第七十五條 長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單働掃除空氣
「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」
一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上ノ能力
ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但シ獨立掃
除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於
テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二分ノ一以上ノ能力
ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラル
ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其
ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓
縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上ノ能力
ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ
始動ニ壓縮空氣ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ始
動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充填スル正副二様ノ裝置ヲ備ヘ少ク
トモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルモノト
爲スベシ但シ副裝置ハ發動機ガ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進
器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノナルトキハ
管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ手動空氣壓縮機

Vハ始動用氣槽ノ容量(立方米ニテ)

nハ始動ノ際必要ナル始動弁ヲ備フル氣筒ノ數

Dハ氣筒ノ徑(米ニテ)

Sハ行長(米ニテ)

Pハ始動用氣槽内ノ壓縮瓦斯ノ最大使用壓力(每平方糎
疋ニテ)

Pハ定數ニシテ「デイーゼル」式發動機ニ對シテハ一〇、

燒球式發動機ニ對シテハ四

Cハ定數ニシテ「デイーゼル」式發動機ニ對シテハ六〇、

燒球式發動機ニ對シテハ一一但シ壓縮空氣ニ依ラズシ

テ推進器ヲ反轉セシメ得ル發動機ニ付テハ之ヲ夫々其

ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

發動機二箇以上ヲ備フル船舶ノ發動機ノ始動用氣槽ノ容量

ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ一・五倍ヨリ小ナル

コトヲ得ズ

第七十九條 空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴

油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモ發動機ノ

運轉ニ支障ナキ裝置ト爲スベシ但シ始動用氣槽ノ強力ガ噴

油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動用氣槽ヲ

以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部ト爲スコトヲ得

第八十條 氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除

クノ外第三章第二節ノ規定ヲ準用ス

ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空氣

ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルモノナルトキ

ハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモノナ

ルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ始

動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動ニ用

ウル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮機ヲ備

フベシ

手動空氣壓縮機ハ構造堅牢且容量充分ナルモノトシ使用上

便宜ナル適當ノ場所ニ之ヲ備フベシ

第七十七條 空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃出弁ヲ

備ヘ各壓縮筒内ノ最大壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃

氣スル様之ヲ調整スベシ

壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ検査及掃除ヲ爲シ得ル

構造ト爲スベシ

第四節 氣 槽

第七十八條 發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ左ノ算式ニ依リ

算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$V = C \frac{PDS}{P - P_1}$$

第八十一條 氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定並ニ第八十五

條乃至第八十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部ノ強

力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第八十二條 無接合筒形氣槽ノ胴板ノ第一號試驗片ニ依ル

抗張試驗ニ於ケル標點間伸長百分率ハ第十六條第一號ノ表

中其ノ他ノ鋼板ニ對スルモノヨリ二ヲ減ジタルモノト爲ス

コトヲ得

第八十三條 氣槽ハ内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構

造ト爲スベシ

氣槽ニハ制限壓力及水壓試驗壓力ヲ適當ニ表示スベシ

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨリ

小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ制限

壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様之ヲ調整スベ

シ

氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ

氣槽ニハ其ノ下部ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ備ヘ且成ル

ベク之ヲ二重ニ設クベシ

氣槽ニ接続スル管ニハ槽ニ接続スル部分ニ於テ弁又ハ「コ

ック」ヲ備フベシ

第八十四條 氣槽ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ各部ヲ瓦

斯熔接又ハ電氣熔接ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制限壓

力毎平方糎一四疋以下ニシテ鋼板ノ厚サ六耗以上ノモノニ

付管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ熔接スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縱接合ヲ熔接シタルトキハ鏡板取附前檢査ヲ受クベシ
 無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯熔接シタル氣槽ハ附屬具取附ノ爲ノ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコトヲ要ス電氣熔接シタル氣槽ニ付管海官廳ニ於テ必要ト認メタル場合亦同ジ

第八十五條 無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ熔接シタル筒形氣槽ノ胴ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (T-1.5)}{D}$$

- P ハ制限壓力(每平方糎ニテ)
- S ハ鏡板ノ抗張力(每平方糎ニテ)
- D ハ胴ノ内徑(糎ニテ)
- T ハ鏡板ノ厚サ(糎ニテ)
- C ハ無接合氣槽ニ在リテハ五二、鍛合又ハ熔接シタル氣槽ニ在リテハ三六

第八十六條 筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{20T \times (T-1.5)^2}{D^2}$$

- P ハ制限壓力(每平方糎ニテ)
 - S ハ鏡板ノ抗張力(每平方糎ニテ)
 - T ハ鏡板ノ厚サ(糎ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三糎ヲ減ジタルモノ
 - R ハ鏡板球面ノ内半徑(糎ニテ)
 - C ハ鏡板ガ氣槽ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ二五・七、内方ニ突入スルモノナルトキハ二〇・五
- 前項ノ鏡板ト胴トヲ接合スル爲曲線シタル部分ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第八十九條 排水及冷却水ニ關スル裝置ニ付テハ第百條、第百四條及第百八條ノ規定並ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除ク外第三章第七節及第百三十八條ノ規定ヲ準用ス

第九十條 發動機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル芥除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該發動機ヲ停止スルコトヲ要セザル裝置ト爲スベシ

冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管内ノ流動狀況ヲ見得ル裝置ヲ設クベシ

冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ他ノ動力「ポンプ」ニ依リ遲滞ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ

P ハ制限壓力(每平方糎ニテ)
 D ハ鏡又ハ螺釘ヲ以テ鏡板ヲ胴ニ固著シタル場合ニハ鏡又ハ螺釘心圓ノ徑(糎ニテ)、平板ヲ胴ニ熔接シタル場合ニハ胴ノ内徑(糎ニテ)
 T ハ鏡板ノ厚サ(糎ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三糎ヲ減ジタルモノ
 S ハ鏡板ノ抗張力(每平方糎ニテ)

$$P = \frac{20S \times (T-1.5)^2}{D^2}$$

第八十七條 筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル皿形鏡板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

P ハ制限壓力(每平方糎ニテ)
 S ハ鏡板ノ抗張力(每平方糎ニテ)
 T ハ鏡板ノ厚サ(糎ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三糎ヲ減ジタルモノ
 d ハ鏡板ノ曲線ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲線ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ七倍ヲ控除シタルモノ(糎ニテ)

第八十八條 筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

得ル樣裝置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル發動機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル裝置ヲ設クベシ

氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水裝置ヲ備フベシ

前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨリ之ヲ排出セシムベシ

第九十一條 脚筒水「ポンプ」ハ機關室ノ溢水ヲ直接吸引シ得ル樣裝置スベシ

第六節 水壓試驗

第九十二條 「ディーゼル」式發動機ノ氣筒、内筒、氣筒蓋、鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ附屬スル諸弁匣又ハ鑄造噴油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ下表ニ依リ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ内面ヲ仕上ゲ且外面ヲ適當ニ旋削シテ十分ニ檢査ヲ爲シ重大ナル缺點ナキモノト認メタル内筒ノ水壓試驗及内外兩面ヲ適當ニ削仕上ゲタル「ピストン」ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ之ヲ省略シ又内筒ヲ有セザル氣筒若ハ氣筒蓋等ノ高壓高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ其ノ冷却部ヲ每平方糎一〇糎以上ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

水壓試驗執行部分	試驗壓力
氣筒又ハ内筒ノ高温高壓部ニシテ行長ノ三分ノ一ニ相當スル間	氣筒内ノ最大壓力ノ一・五倍ノ壓力
氣筒蓋ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同右
「ピストン」ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同右
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同右
「ピストン」ノ冷却部	每平方糎四疋
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	每平方糎四疋
噴油「ポンプ」	常用最大壓力ガ每平方糎四〇〇疋未滿ナルトキハ其ノ一・五倍ノ壓力、每平方糎四〇〇疋以上ナルトキハ常用最大壓力ニ每平方糎二〇〇疋ヲ加ヘタルモノ

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「ディーゼル」式發動機ニ之ヲ準用ス但シ小形「ディーゼル」式發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十三條 「ディーゼル」式發動機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ一・五倍水部ハ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル壓力ノ二倍トス

第九十七條 機關室内ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除クノ外船内取附後每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ但シ短小ナル燃料油管系ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第九十八條 燃料油加熱用蒸汽管ハ船内取附後常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十九條 第二百一十一條及第二百二十二條ノ規定ハ發動機ヲ備フル船舶ニ付テハ適用ス但シ小形船舶ノ發動機ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七節 補 汽 罐

第二百條 補汽罐ノ構造、附屬品、給水装置其ノ他ニ付テハ蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ發動機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第七十八條第一項ノ算式中定數kハ三・三ト爲スベシ

第五章 特殊施設

第二百一十一條 寒冷ノ地域ニ碇泊スルコトアルベキ船舶ノ發動機ハ碇泊中其ノ冷却水ヲ排出スル装置及出火ノ虞ナキ適當ナル始動促進装置ヲ備ヘ且潤滑油ノ凝固ヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

結氷セル水域又ハ浮氷多キ水域ヲ主トシテ航行スル船舶ノ

ル空氣ノ最大壓力ノ一・五倍水部ハ該部ニ於ケル冷却水ノ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十四條 潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

油冷却器又ハ清水冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

前二項ノ規定ハ小形發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十五條 氣槽ハ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一 銲接合又ハ無接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ一・五倍ノ壓力

二 鍛合又ハ熔接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ二・〇倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コック」、氣槽ニ連絡スル空氣管又ハ之ニ附屬スル弁若ハ「コック」ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ制限壓力ノ一・五倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ空氣管ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十六條 燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上二・五米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ試驗スベシ但シ強壓油槽ノ試驗壓力ハ油槽ノ常

螺旋軸ノ徑ハ成ルベク第三十五條、第四百十三條乃至第四百四十六條、第五百一十一條、第五百五十三條又ハ第五百五十五條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ一・〇五ヲ乗ジタルモノト爲スベシ

前項ノ船舶ノ螺旋推進器ノ翼ノ材料ハ成ルベク通常ノ鑄鐵ニ非ザル他ノ強靱ナルモノト爲スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ取附ケタル弁、「コック」又ハ脚筒等ハ氷又ハ寒氣ノ爲損傷セザル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ於ケル循環水又ハ冷却水ノ吸入口ハ氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

第二百二條 汽機、發動機若ハ他ノ機械ノ回轉部若ハ往復動部、機關ノ高熱部又ハ強電氣ノ帶電部ハ之ヲ監視シ若ハ操作スル者又ハ之ニ近接スル者適當ナル注意ヲ怠リタル場合ノ外傷害ヲ受ケザル様適當ニ施設スベシ

第二百三條 機關室其ノ他通風良好ナラザル場所ハ油瓦斯、「アンモニア」瓦斯其ノ他取扱者ノ健康ニ障害ヲ及ボシ易キ瓦斯ノ漏洩停滯ヲ防止スル様適當ニ施設スベシ

第六章 機裝品及備品

第二百四條 蒸汽溜其ノ他ノ高温ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試驗ニ付テハ第三章第二節乃至第五節ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試験ニ付テハ第四章第四節及同章第六節ノ規定ヲ準用ス

第二百五條 艤裝品ハ前條ニ規定セザルモノト雖モ其ノ用途ニ應ジ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

管海官應必要アリト認ムルトキハ前項ノ艤裝品ニ付適當ノ試験ヲ執行スルコトアルベシ

第二百六條 機關備品ハ左ノ各號ニ應ジ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ但シ管海官應必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 蒸汽機關ニヨリ推進セラルル船舶
- 二 發動機ニ依リ推進セラルル船舶

別表 甲

名稱	航行區域				摘要
	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	
「ピストン」環	各一組	同	同	同	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得
「ピストン」發條	各一組	同	同	同	
「ピストン」抑環螺釘及母螺	六箇	同	上	三箇	
滑弁桿	各形一箇				
偏心器桿	各形一箇				
連接桿上下ノ栓受金	一桿	同	上		

三 前號ノ船舶ニシテ補汽罐ヲ備フルモノ

四 船舶推進ニ必要ナル主發電裝置又ハ正空氣壓縮裝置ノ原動機トシテ補發動機ヲ備フルモノ

別表 甲

別表 乙

別表乙及別表甲中汽罐ニ關スルモノ

前各號ニ依ルノ外別表乙中「ピストン」環乃至滑潤油「ポンプ」弁及發條ニ付近海區域以上ヲ航行スル船舶ハ沿海區域ニ對スル規定ニ依リ沿海區域ヲ航行スル船舶ハ平水區域ニ對スル規定ニ依ル

連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿	一分	同	上	同	上	
「クランク」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	上			廢汽「タービン」用ノモノハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
「ローター」軸受金	各形一組	同	同	上			同右
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	上			同右
減速裝置軸受金	各形一組	同	同	上			同右
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	同	上			同右
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	同	上			同右
「ローター」軸汽密裝置	各填座毎ニ半組	同	同	上			同右
接軸鈎螺釘及母螺	各種一組	同	同	上			同右
單環式推力軸推力受及調整片	片面一分	同	同	上			
復水器管	總數ノ四(分ノ一)但シ最少一〇本	同	同	上			
復水器管填筒	總數ノ三〇(分ノ一)但シ最少三〇箇	同	同	上			
抽氣「ポンプ」桿	一	箇	同	上			扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
抽氣「ポンプ」弁	一	臺	同	上			扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
循環水「ポンプ」桿	一	箇	同	上			多弁式ノモノニ在リテハ半臺分ニ止ムルコトヲ得
循環水「ポンプ」弁	一	臺	同	上			
給水「ポンプ」弁	一	臺	同	上			同右

管塞器	汽罐ニ付四箇但シ最少八箇	各罐ニ付二箇但シ最少六箇	四	二	筒	分ニ止ムルコトヲ得
管擴器	各形一箇	同	同	同	同	同
示面計硝子管	汽罐ニ付四箇但シ最少六箇	同	六	三	筒	特殊ノ構造ノモノハ各罐ニ付一箇ナルモ差支ナシ
自動給炭機部分品	汽罐ニ付又ハ其ノ端數每ニ一組	同	同	同	同	同
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	一組	同	同	同	同	同
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各罐ニ付一箇	同	同	同	同	同
燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇	同	同	同	同	同
火床棧	總數ノ五分ノ一	同	一但シ最少四分ノ一	同	同	汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
安全弁發條	各罐ニ付一箇	同	一	同	筒	汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一罐分増備スベシ
移油「ポンプ」弁及發條	一臺	同	同	同	上	同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得
噴油「ポンプ」弁及發條	一臺	同	同	同	上	同右
給水制限弁	一罐	同	同	同	上	汽罐ニ燃油裝置ヲ備フルモノニ限ル
潤滑油「ポンプ」弁及發條	各種一箇	同	同	同	上	同
逃出生發條	一臺	同	同	同	上	同
給水「ポンプ」弁	一臺	同	同	同	上	同

滑車及綱	二組	同	同	同	同	同
螺旋切道具	一組	同	同	同	同	同
鑽孔器	一組	同	同	同	同	同
輪	一箇	同	同	同	同	同
金數	一箇	同	同	同	同	同
据附萬力	一箇	同	同	同	同	同
鋼板	各種若干	同	同	同	同	同
鋼棒	各種若干	同	同	同	同	同
螺釘及母螺	各種若干	同	同	同	同	同
機關室小道具	一揃	同	同	同	同	同
驗油器	二箇	同	同	同	同	湖沼ノミヲ航行スル船舶ニハ之ヲ備フルヲ要セズ
溫度計	二箇	同	同	同	同	同

備考 汽機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノニ箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出生發條ハ之ヲ汽機又ハ該「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

別表乙

名	航 行 區 域	航 行 區 域				摘 要
		遠 洋 區 域	近 海 區 域	沿 海 區 域	平 水 區 域	
氣筒蓋	弁其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ	各形一組	同	上	同	長サ五〇米以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル

電池	常用ト同數	同	上	常用ノ半數	同	上
電線	若千	同	上	常用ノ外一箇	同	上
始動用燈	常用ノ外二箇	同	上			
滑車及綱	二組	一	組			近海區域ヲ航行スル小形帆船ニ在リテハ省略スルコトヲ得
螺旋切道具	一組	同	上			
鑽孔器	一組	同	上			
輪	一箇	同	上			
金敷	一箇	同	上			
据附高力	一箇	同	上			
鋼板	各種若干	同	上			
鋼棒	各種若干	同	上			
螺釘及母螺	各種若干	同	上			
機關室小道具	一揃	同	上			
溫度計	二箇	同	上			

備考 發動機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋力至點火栓ハ之ヲ該發動機又ハ該「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得第二十六條ノ補發動機ニ付亦同ジ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

漁船特殊規則

昭和九年二月
逕信省令
農林省令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル漁船ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

- 一 總噸數二百噸未満ノ捕鯨船
- 二 専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル總噸數二百噸未満ノ漁船
- 三 總噸數千六百噸未満ノ推進機關ヲ有セザル漁船

第二條 漁船ノ從業制限ハ第一種、第二種及第三種ノ三種トス

- 第三條 第四條各號ニ掲グル業務ヲ除クノ外左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス
 - 一 一本釣漁業
 - 二 延繩漁業
 - 三 流網漁業
 - 四 刺網漁業
 - 五 旋網漁業
 - 六 棒受網漁業
 - 七 投鉆漁業
 - 八 曳繩漁業
 - 九 機船底曳網漁業及其ノ他底曳網漁業（汽船「トロール」

漁船特殊規則

漁業ヲ除ク

十 前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

條四條 左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス

- 一 鯉竿釣漁業
 - 二 鮎竿釣漁業
 - 三 鮎一本釣漁業
 - 四 鮎延繩漁業
 - 五 旗魚延繩漁業
 - 六 鮫延繩漁業
 - 七 鱈延繩漁業
 - 八 大鱈延繩漁業
 - 九 機船底曳網漁業（手繰網又ハ打瀬網ヲ使用スルモノ）
 - 十 前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務
- 第五條 母船式漁業ニ從事スル母船及左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第三種トス
- 一 汽船「トロール」漁業
 - 二 汽船捕鯨業
 - 三 専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務
 - 四 漁業ニ關スル試験、調査、指導、練習又ハ取締業務

漁船特殊規則

第六條 第二種ノ從業制限ヲ有スル漁船ハ第三條各號ニ掲グル業務ニ従事スルコトヲ得

第七條 管海官廳漁船ノ從業制限ヲ定ムルニ當リ必要アリト認ムルトキハ漁船ノ種類、大小、構造又ハ設備ニ應ジ業務ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第八條 漁船検査證書ノ有効期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

一 已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ漁船ヲ其ノ從業制限以外ノ從業制限ニ該當スル業務ニ従事セシムルトキ

(第六條ニ該當スル場合ヲ除ク)
二 第一種ノ從業制限ヲ有スル漁船又ハ第二種若ハ第三種ノ從業制限ヲ有スル長サ二十五メートル未満ノ漁船ヲ漁業ニ使用セズシテ船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ヲ爲サシムルトキ

第九條 漁船検査證書ノ有効期間内ニ於テ漁船ノ從業制限ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊從業制限ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十條 漁船ニ在リテハ船舶安全法施行規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長サ七十メートル以上ノモノニ限り専ラ漁獲又ハ漁獲物ノ保藏若ハ製造ニ従事スル者ノ室ト其ノ他ノ者ノ室

トハ常ニ區別シ置クベシ

第十一條 汽罐ヲ有セザル長サ二十五メートル未満ノ漁船ニ付テハ漁船検査證書ノ有効期間ハ三年以内トス
前項ノ漁船ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ

第十二條 長サ七十メートル以上ノ漁船ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スル母船(特殊漁船)ガ母船式漁業ニ従事スル爲其ノ仕立港ヲ發航セントスルトキハ特殊船検査ヲ行フ但シ特殊船検査證書ノ有効期間内ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船特殊規程

昭和九年二月
逕 信 省 令
農 林 省 令

目 次

- 第一章 總 則
- 第二章 船 體
- 第一節 通 則
- 第二節 木製漁船
- 第三節 鋼製漁船
- 第三章 設 備
- 第四章 機 關

附 則
漁船特殊規程

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ動力漁船トハ推進機關ヲ有スル漁船ヲ謂ヒ第一種漁船、第二種漁船又ハ第三種漁船トハ各從業制限第一種、第二種又ハ第三種ヲ從業制限トスル漁船ヲ謂ヒ運搬漁船トハ漁船特殊規則第五條第三號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船ヲ謂フ

第二條 本令ニ該當セザル漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一效力ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ之ヲ合格ト爲スベシ

第三條 漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ニ付テハ管海官廳當該漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ適當ニ斟酌シテ之ヲ合格ト成スコトヲ得

第四條 發動機ニ依リ推進スル長サ二メートル以上ノ漁船ニシテ鯉若ハ鮪ノ竿釣漁業又ハ鮪、旗魚、鮫若ハ大鰯ノ延縄漁業ニ従事スルモノニハ左ノ算式ニ依リ算定シタル分量ノ主機關用燃油ヲ容ルルニ足ル燃油庫ヲ設備スベシ

- DNCJ ンナ
- D ハ發動機ノ氣筒ノ徑(種ニテ)
- N ハ發動機ノ氣筒ノ數
- C ハ常數ニシテ左表ニ依ル

漁船特殊規程

船舶ノ長サ(米)	「デイーゼル」式單 二衝式發動機ナルトキ		「デイーゼル」 式以外ノ單 二衝式發動 機ナルトキ
	二衝式	四衝式	
二一以上二三未満	七・五二	五・二六	四・九九
二三〃 二五〃	九・四〇	六・五八	六・二四
二五〃 三〇〃	一〇・八一	七・五七	七・一八
三〇〃 三三〃	一一・七五	八・二三	七・八〇
三三〃 三六〃	一二・六九	八・八八	八・四二
三六〃 四〇〃	一四・一〇	九・八七	九・三六
四〇〃 四五〃	一六・四五	一一・五二	一〇・九二
四五〃 五〇〃	一八・八〇	一三・一六	一二・四八
五〇〃 五五〃	二一・一五	一四・八一	一四・〇四
五五〃	二三・五〇	一六・四五	一五・六〇

第二章 船 體

第一節 通 則

第五條 主機關用燃油槽ヲ上甲板以上ノ場所ニ設クルトキハ其ノ容量ハ全燃油庫ノ容量ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條 甲板上ニ設クル燃油槽又ハ活魚槽ハ甲板ニ特ニ堅固ニ取附クベシ

第七條 運搬漁船及特殊漁船ヲ除クノ外漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ズ

第八條 動力漁船ニ非ザル漁船ニハ起倒シ得ベキ櫓ヲ用ウルコトヲ得ズ

第九條 舷牆ノ高サハ一一〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ各舷柱又ハ防撓材ノ間ニ於テ舷牆上部ニ十分ナル面積ノ無蓋開口ヲ設クルトキハ適當ニ舷牆ノ高サヲ増加スルコトヲ得

第十條 漁船ノ舷側ニ設クル釣臺又ハ張出甲板ハ十分ニ排水シ得ル構造ト爲スベシ

第十一條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁其ノ他船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ金屬板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃焼ノ豫防ヲ爲スベシ

第十二條 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窗、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニ付テハ緣材ノ甲板上ノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ但シ直接波浪ヲ受ケザル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高サヲ減ジ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

流 船	種 別	緣材ノ甲板(上ノ高サ)
第一種 漁船 又ハ捕鯨船		一五

前項ニ掲グル漁船ノ甲板口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ノ高サ竝ニ機關室口圍壁ノ高サニ付テハ當該船舶ヲ第二級船ト看做シ木船構造規程又ハ造船規程及船舶滿載吃水線規程ノ規定ヲ適用ス

第二節 木製漁船

第十七條 第一種漁船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ内龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ規定ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得

第十八條 龍骨ノ截面積ガ船ノ首尾兩端ニ於ケルモノヲ除クノ外龍骨及内龍骨ノ規定ノ截面積ノ合計以上ナルトキハ内龍骨ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ三倍迄減ズルコトヲ得

第二十條 舵心材頂部ノ舵柄取附部ヲ角形ト爲ス場合ニ於テモ其ノ截面積ハ特ニ之ヲ増加セザルモ妨ナシ

第二十一條 二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十二條 船ノ中央部ニ於ケル單材肋骨ノ肋根材ノ長サハ船ノ幅ノ二分ノ一迄、其ノ他ノ肋材ノ長サハ船ノ幅ノ四分ノ一迄減ズルコトヲ得但シ衝接又ハ嵌接ノ數ハ五箇以上ト爲スコトヲ得ズ
相隣接スル單材肋骨ノ衝接又ハ嵌接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分

流 船	種 別	圍壁ノ甲板(上ノ高サ)
第二種漁船又ハ第三種漁船(捕鯨船ヲ除ク)		二三
		三〇

第十三條 艙口ニハ堅牢ナル蓋板又ハ覆蓋ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ベキ様覆布及適當ノ縮具ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第十四條 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル機關室口ニ付テハ圍壁ノ甲板上面ヨリノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ

流 船	種 別	圍壁ノ甲板(上ノ高サ)
第一種 漁船 又ハ捕鯨船		四五
第二種漁船又ハ第三種漁船(捕鯨船ヲ除ク)		六〇
		九〇

第十五條 暴露甲板ノ機關室口圍壁、天窗、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ蓋蓋又ハ蓋板及覆布竝ニ適當ノ縮具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ爲スベシ但シ管海官廳ニ於テ水密ト爲スベキ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 前四條ノ規定ハ特殊漁船及總噸數百五十噸以上ノ運搬漁船ニハ之ヲ適用セズ

ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十三條 船底ノ形狀鋭尖ナル漁船ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スベシ此ノ場合ニ於テハ内龍骨及側内厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條 活漁船ニ縦通隔壁ヲ設ケ該隔壁ノ下部ニ縦通材ヲ取附ケ之ヲ活漁船ノ前後ニ二肋骨間延長シ活漁船兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ増シ且該部外板ノ厚サヲ増ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅ヲ増加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且内龍骨、側内厚板及内張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條 彎曲部縦通材ノ船ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十六條 彎曲部角形ナル漁船ニ在リテハ其ノ部ニ外部彎曲部縦通材ヲ設ケ其ノ截面積ヲ六五平方センチメートル以上ト爲スベシ

第二十七條 梁壓材ノ截面積ハ木船構造規程ニ定ムルモノノ五分ノ四迄減ズルコトヲ得

第二十八條 甲板梁ノ心距ガ規定ノ心距ヨリ小ナルトキハ其ノ割合ニ應ジ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得
梁柱ノ數ヲ増ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得
縦通隔壁アル場合ニ於テハ梁柱ハ其ノ取附ヲ適當ニ省略ス

ルコトヲ得

第二十九條 幅五メートル未満ノ漁船ニ於テハ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ木船構造規程第七十八條ノ規定ニ拘ラズ半梁一本置ニ梁曲材ノ取附ヲ省略シ其ノ他ノ半梁ハ堅曲材ヲ以テ船側ニ固著シ其ノ他端ハ橫梁曲材ヲ以テ縱梁ニ固著セシムルコトヲ得

第三十條 幅五メートル未満ノ漁船ニ於テ梁下縱通材ヲ設クルトキハ梁柱ハ甲板梁二本置ニ設クルニ止ムルコトヲ得但シ甲板室、斜橋、揚錨機、揚貨機其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 第二數七〇〇未満ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十二條 第二數二五〇未満ノ漁船ニ於テハ外板ノ厚サヲ増シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ増ストキハ内張板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十三條 木船構造規程第百十三條第一項ノ規定ハ長サ四メートル未満ノ機關室口ニハ之ヲ適用セズ

第三十四條 第二數三〇〇未満ノ漁船ノ側内厚板ハ木船構造規程第百二十八條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘及打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十五條 彎曲部縱通材ノ各材ノ幅一三センチメートル未

料試験ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 第一種漁船、捕鯨船又ハ長サ二五メートル未満ノ漁船ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ左ノ各號ノ限度迄之ヲ輕減スルコトヲ得

一 正肋材ノ横邊、副肋材ノ兩邊及肋骨ノ深サヲ規定ノ寸法ヨリ一三ミリメートル減少スルコト

二 船底ノ傾斜急ナル漁船ニ在リテハ肋板ノ高サヲ増加スルトキハ造船規程別表ニ掲グル翼内龍骨用山形材二箇ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成シ且副肋材ヲ彎曲部ニ達セシムルニ止ムルコト又船側縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ又ハ船側縱通材ヲ二重山形材ト爲ストキハ翼内龍骨ニ斷切板ヲ附セザルコト

三 梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シクシ梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ右ニ準ジ相當ニ輕減スルコト又梁ノ肘板ノ幅及深サハ梁ノ深サノ三倍トシ厚サハ梁ノ厚サニ等シクスルコト

四 梁上側板、梁上帶板及翼内龍骨用山形材ノ截面積ヲ各四分ノ一減少スルコト

五 外板ノ厚サヲ造船規程別表ニ掲グルモノヨリ〇・五ミリメートル減少スルコト

第四十四條 第二種漁船又ハ第三種漁船ノ活魚艙ハ其ノ周壁ヲ鋼製ト爲スコトヲ要シ其ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ造

漁船特殊規程

滿ナルトキハ木船構造規程第百三十條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十六條 梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ之ヲ五箇迄減ズルコトヲ得

第三十七條 第二數三五〇未満ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ之ヲ外板迄貫通セシムルコトヲ要セズ

第三十八條 外板ノ固著釘ノ數ハ外板ノ幅二二センチメートル未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇迄ニ、幅二七センチメートル未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇迄ニ減ズルコトヲ得

第三十九條 外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第四十條 動力漁船ニ在リテハ「ジブブーム」、「フライイングジブブーム」及「ブーム」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一八ミリメートル迄ニ、「スクリーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一六ミリメートル迄ニ減ズルコトヲ得

第三節 鋼製漁船

第四十一條 鋼製漁船ノ構造及材料ノ寸法ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外造船規程中重構船ノ規定ニ依ル

第四十二條 第一種漁船及長サ二五メートル未満ノ漁船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材

船規程第一編第百四十二條乃至第百四十四條、第百四十八條、第百四十九條及第百六十一條ヲ準用ス

第四十五條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ活魚艙、冷藏艙及氷艙ノ頂部ノ甲板ハ水密構造ノ鋼甲板ト爲スベシ

第四十六條 第一種漁船、捕鯨船及運搬漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ付テハ造船規程第一編第百二十九條但書ノ規定ヲ適用セズ

第三章 設備

第四十七條 特殊漁船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ要スル端艇及ビ之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ他ノ揚卸裝置ヲ以テ端艇鈎ニ代フルコトヲ得

第四十八條 前條ノ漁船ヲ除クノ外長サ二〇メートル以上二五メートル未満ノ漁船ニハ容積二立方メートル以上ノ端艇ヲ、長サ二五メートル以上ノ漁船ニハ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ヲ備フベシ但シ端艇ノ容積ハ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ニ止ムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ備フベキ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ニ付テハ適當ノ揚卸裝置ヲ備フルコトヲ要ス
長サ二五メートル未満ノ漁船ニ在リテハ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ端艇ニ代用スルコトヲ得

長サ二五メートル以上三〇メートル未満ノ漁船ニ在リテハ端艇ノ容積ノ一部ヲ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ救命筏又ハ救命浮器ハ其ノ定員一人ヲ以テ、救命浮環ハ一箇ヲ以テ端艇ノ容積〇・二八三立方メートルニ相當スルモノトス

第四十九條 第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ輕竿釣又ハ輕竿釣漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ四分ノ一迄、第五十五條第二項ニ掲グル漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ二分ノ一迄救命胴衣ノ數ヲ減ズルコトヲ得

第五十條 漁船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

漁船ノ種類	救命浮環	救命焰
第一種漁船	二	二
第二種及第三種漁船	四	二

第五十一條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ船舶設備規程第三十三條ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ漁船ノ普通艇ニハ船舶設備規程第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 「アムモニア」式冷却機ノ設備アル漁船ニハ「ア

トヲ得

漁業ニ關スル試験、調査、指導又ハ練習ニ從事スル漁船ノ輕竿釣又ハ輕竿釣ヲ行フ場合ニ於ケル最大搭載人員ノ算定ニ付テハ第二項ノ表中輕竿釣又ハ輕竿釣漁船ノ率ニ依ルコトヲ得

第五十六條 特殊漁船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ適當ナル病室ヲ設クベシ

第五十七條 特殊漁船ニハ第一號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第五十八條 特殊漁船ニハ其ノ搭載セル人員ニ對シ出漁期間ニ應ジ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ但シ仲積船ニ依リ操業ノ場所ニ於テ食料又ハ飲用水ノ補給ヲ受クルコトヲ得ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ備フベキ食料又ハ飲用水ノ量ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十九條 艦裝數ノ算定ニ付テハ鋼製動力漁船ハ之ヲ鋼製汽船ト看做ス

第六十條 漁船ニハ其ノ艦裝數ニ應ジ動力漁船ハ船舶設備規程第四號表ニ、動力漁船ニ非ザル漁船ハ同規程第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第六十一條 第一種漁船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇

ムモニア」防毒「マスク」二箇以上ヲ備フベシ

第五十三條 漁船ノ居室ニハ船舶設備規程第八十條乃至第八十五條及第八十七條第二項ハ之ヲ準用セズ

第五十四條 居室ノ高サ一・六メートル以上アル場合ヲ除クノ外居席ヲ二層ト爲スコトヲ得ズ

第五十五條 漁船ノ最大搭載人員ハ各居室ノ定員ノ和トス各居室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一 居室ノ容積ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數
二 寢臺ヲ備フル室ニ付テハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ場所ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ和
三 寢臺ヲ備ヘザル室ニ付テハ居室ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數

漁船ノ種類	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)
第一種漁船	〇・四五	一
第二種漁船	〇・三〇	〇・六〇
第三種漁船	〇・八五	〇・五五

長サ二五メートル未満ノ漁船又ハ長サ五〇メートル未満ノ母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ前項ノ單位面積又ハ單位容積ヲ適當ニ輕減スルコ

ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第六十二條 長サ二五メートル未満ノ漁船ハ大錨ノ總錨量ガ規定ニ依ル量ヲ下ラザルトキハ其ノ錨數ヲ増シ單量ヲ減ズルコトヲ得但シ一箇ノ錨量ハ表ニ掲グル大錨ノ單量ノ二分ノ一ヲ下ルベカラズ

第六十三條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ備フル錨(錨錘ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク)、錨鎖及鋼索ハ船舶設備規程第二百二十八條ニ依リ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 長サ二五メートル未満ノ漁船ニハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル漁船ニ在リテハ錨量ハ船舶設備規程第六號表ニ定ムルモノノ十分ノ九以上ト爲シ錨索ハ同表ニ定ムルモノヲ備フベシ

大錨ヲ除キ其ノ他ノ日本形錨ニ對スル錨索ノ長サハ船舶設備規程第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ錨量ニ應ジ船舶設備規程第七號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第六十五條 長サ六〇メートルヲ超ユル動力漁船ニハ動力ニ依リ操舵裝置ヲ備フベシ

第六十六條 漁船ニ備フべき航海用具其ノ他ノ屬具ハ第三號表ニ定ムル所ニ依ル

電氣船燈ヲ常用スル漁船ニ在リテハ第三號表ニ定ムル所ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シテ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第六十七條 油船燈ヲ備フル漁船ニ於テハ船燈一種ニ付第一種漁船又ハ長サ二メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ三箇以上、其ノ他ノ漁船ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

第一種漁船ヲ除クノ外長サ二メートル以上ノ漁船ニ在リテハ緑及紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ緑、紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

第六十八條 第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ其ノ從業場所ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノ又ハ管海官廳ニ於テ適當ト認メタルモノヲ使用スベシ

第六十九條 帆檣ヲ有スル漁船ニハ檣ニ相當スル帆一揃及左ノ豫備帆ヲ備フベシ

豫備帆ノ種類	數	備	考
「フオール、ステイスル」	一	「カツター」「ケツチ」又ハ「スルー」ノ帆裝ヲ有スルモノ	
		ハ「フオール、ステイスル」一	
		枚ノミ又「ラツガー」ノ帆裝ヲ	

タルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七十三條 備品ハ機關ノ種類ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル所ニ依リ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ

附則

第七十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ大小、業務ノ種類等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年以後ニ於テ漁船ニ新ニ備付クル機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十七條 本令施行前製造シタル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ従事スルモノニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認メタルトキハ本令施行後二年以内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

「フ オ ー ス ル」 「有スルモノハ「フオースル」一 枚ノミト爲スコトヲ得

第四章 機關

第七十條 船舶機關規程ニ定ムル乙種機關ハ左ノ各號ニ掲グル漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

- 一 「トローラ」汽船
- 二 捕鯨船
- 三 母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
- 四 長サ三〇メートル以上ノ母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有セザルモノ
- 五 長サ三〇メートル以上ノ第二種漁船
- 六 長サ三〇メートル以上ノ運搬漁船
- 七 漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船ニシテ長サ三〇メートル以上ノモノ

第七十一條 船舶機關規程ニ定ムル丙種機關ハ長サ三〇メートル未滿ノ第一種漁船ノ外漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七十二條 發動機ヲ備フル木製漁船ノ推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑ハ船舶機關規程ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ同規程第四百三條乃至第四百六條ノ發動機ニ付テハ一・〇七ヲ、「ディーゼル」式發動機ニ付テハ一・〇五ヲ乘ジ

第七十三條 本令施行ノ際現ニ存スル居室ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十九條 本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第一號表 特殊漁船ニ對スル醫藥及衛生用品表

(一) 内用藥

藥	名	數	量
ア	スビリン錠	五〇〇	箇
鹽	酸キニール	五〇〇	箇
重	曹	五〇〇	グラム
複	方健胃錠 (B)	五〇〇	箇
チ	アスタールゼ錠	三〇〇	〃
バル	ルビターール錠	一〇〇	〃
ミ	グレンニール錠	二〇〇	〃
ラ	キサトール錠	一五〇	〃
ヒ	キマシール油	五〇〇	グラム
タン	ナールビール錠	二〇〇	箇
阿	片吐根錠 (ドーフル散)	二〇〇	〃
カル	モチン錠 (プロムワレル尿素錠)	三〇〇	〃

洗挿水	挿水	水	懐水	指	ガ	昇	脱	卷	三	吸	リ	亞	片	副	カ	藥
眼	込	込	サ	汞	脂	軸	角	入	仁	麻	ブ	コ	ツ	便	尿	ツ
器	器	器	枕	爐	タ	ゼ	ゼ	綿	帶	巾	器	ト	紙	帶	木	ル
九米	四〇〇グラム	四裂	大型	〇・三グラ	外	用	入	三〇〇枚	三〇〇枚	三〇〇枚	三〇〇枚	一〇〇筒	一〇〇筒	一二本	一〇〇筒	一〇〇筒

ア	グ	オ	過	ク	ロ	ア	稀	ヨ	硼
ル	リ	レ	酸	レ	ン	ヨ	ド	酸	酸
コ	セ	フ	水	ソ	ト	モ	ド	ホ	酸
ル	ン	油	水	丸	藥	水	キ	散	錠
一、〇〇〇	一〇〇	一〇〇	五〇〇	五〇〇	二〇立方	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

(二) 外用藥

磷	サ	オ	サ	サ	硫
酸	ン	リ	ン	ン	酸
コ	ト	ザ	タ	タ	グ
デ	ニ	ニ	ル	ル	ネ
イ	ン	ン	ル	ル	シ
ン	ン	ン	ル	ル	ヤ
錠	錠	錠	球	油	ヤ
五〇	二五〇	一、五〇〇	五〇〇	一〇〇	二五〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

第二號表

特殊漁船ニ對スル食料及飲用水表

骨	骨	七	品
附	附	分	名
魚	獸	搗	米
肉	肉	米	量
一六〇	一六〇	八〇〇	額
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇

備考

一 管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本表ニ掲グル錠劑ハ同一效力ノ粉末劑又ハ液體劑ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得
 二 最大搭載人員四百人未滿又ハ出漁期間百五十日未滿ノ場合ニ於テハ本表ニ掲グル藥品ノ量ハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減セシムルコトヲ得

藥	膏	點	液	漏	藥	藥
用	藥	眼	量	包	紙	包
筆	筒	瓶	器	斗	匙	紙
一	一	五〇	二〇〇	二〇〇	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

(三) 醫療器械類

完	檢	ス	消	小	品
腸	溫	ボ	毒	科	器
器	器	ト	盤	械	名
一	三	一	一	一	數
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

海	船名録	國際通信書	國際信號旗	國旗	火箭又ハ榴彈	霧中號角	黑球	漁業燈	碇泊燈	船尾燈	豫備
	一	一	一組	二	六	一	二	一揃	二	一	一對
	一	一	一組	一	二	一	二	一揃	一	一	
	一	一	一組	一	二	一	二	一揃	一	一	
	一	一	NC二旗	一	二	一	二	一揃	一	一	
	一	一	NC二旗	一	二	一	二	一揃	一	一	
	一	一	NC二旗	一	二	一	二	一揃	一	一	

燈ヲ備フベシ但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得
 豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
 總噸數四十噸未滿ノ漁船ニ於テハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得
 碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス長サ四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ
 本表備考表ニ依ルベシ
 總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ黑球ヲ備フルコトヲ要セズ
 黒球ハ直徑六〇ミリメートルニシテ布其ノ他ノ保存ニ耐フベキ材料ヲ用キタルモノナルコトヲ要ス
 榴彈ヲ備フルトキハ打上臺一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クベシ
 口徑八九ミリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミリメートル以上ノ白砲、附屬具及十二發以上ノ發射設備ヲ備フル漁船ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ
 總噸數千噸未滿ノ運搬漁船ハ二箇ト爲スモ妨ナシ
 總噸數百噸未滿ノ漁船ニハNC二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シNC旗ノミヲ備フル漁船ト雖モ信號符ヲ點符アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ
 總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナク又無線電信裝置ノナキ漁船ニハ國際通信書中電信簿ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 總噸數二百噸以上ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

信 號 燈 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

備考
 漁業燈ヲ備フベキ漁船ノ種別及備フベキ漁業燈ノ種類並ニ數ハ左ノ各號ニ依ル但シ各號ノ白燈ハ之ト同種以上ノ白燈ヲ碇泊燈トシテ備フルトキハ碇泊燈ヲ以テ兼用スルコトヲ得
 (一) 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ従事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートル以内ナルモノ
 甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈一箇
 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ従事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートルヲ超ユルモノ
 甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈二箇
 甲板ヲ張詰メタル漁船ニシテ夜間漁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ従事スルモノ
 甲種白燈二箇
 (四) 夜間打瀬網、桁網其ノ他海底ニ曳ク漁具ヲ用キテ漁業ニ従事スルモノ
 甲種又ハ乙種白燈一箇
 (五) 前號ノ漁船中夜間機關ヲ以テ推進シ漁具ヲ海底ニ曳クモノ
 前號ノ白燈ノ外三色燈一箇

第四號表

蒸汽機關ヲ備フル漁船ノ機關備品表

名 稱	漁船ノ種別	汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船	其ノ他ノ漁船	摘 要
「ピストン」環	第二種漁船、「トロール」	各一組		

「ピストン」發條	各一組		同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得
「ピストン」抑環螺釘及母螺	六箇	三箇	
連接桿上下ノ栓受金	一桿分		
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同上	
「クランク」軸受螺釘及母螺	各種一組		
「ローター」軸受金	各形一組		廢汽「タービン」用ナルトキハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組		同右
減速裝置軸受金	各形一組		同右
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組		同右
「ローター」推力受	各「タービン」ニ付一組		同右
「ローター」軸ノ汽密環及發條	各填座毎ニ半組		同右
接軸鈎螺釘及母螺	各種一組		同右
單環式推力軸推力受	片面分		
復水器	總數ノ四十分ノ一但シ最少十本		
復水器管填筒	總數ノ三十分ノ一但シ最少三十箇		扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
抽氣「ポンプ」桿	一箇		
抽氣「ポンプ」弁	一組	同上	

循環水「ポンプ」桿	一箇		扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ
給水「ポンプ」弁	一組	同上	
給水「ポンプ」弁	一組	同上	
塗水「ポンプ」弁	一組	同上	
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一組	同上	
逃弁發條	各種一箇		
給水制限弁	一組	同上	汽罐四箇以上ナルトキハ更ニ一組増備スベシ
安全弁發條	各罐ニ付一箇	同上	同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三箇ニ止ムルコトヲ得
火床棧	總數ノ五分ノ一	但シ最少四分ノ一	汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
燃油裝置用噴油器	各罐ニ付一箇	同上	
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各罐ニ付一箇	同上	
微粉炭燃燒裝置用碎炭具	一組		
示面計硝子管	各罐ニ付但シ最少六箇	六箇	
管擴器	一箇	同上	
管塞器	二箇	四箇	中半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管塞栓ヲ上記ノ倍數備フベシ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
滑車及網	一組		
螺旋切道具	一組		

大阪府 大阪市
 神奈川縣 横濱市
 兵庫縣 三浦郡浦賀町
 長崎縣 長崎市
 新潟縣 新潟市
 千葉縣 銚子市
 茨城縣 館山市
 三重縣 四日市市
 度會郡神社町
 度會郡南海村
 志摩郡の矢村
 南牟婁郡南輪内村
 堺市
 横須賀市
 三浦郡三崎町
 明石市
 城崎郡港村
 津名郡都志町
 佐世保市
 東彼杵郡江上村
 北松浦郡平戸町
 中頸城郡直江津町
 東葛飾郡南行徳村
 鹿取郡佐原町
 那珂郡湊町
 鹿島郡波崎町
 宇治山田市
 度會郡大湊町
 志摩郡鳥羽町
 北牟婁郡尾鷲町
 南牟婁郡荒坂村
 川崎市
 足柄下郡真鶴町
 飾磨郡家島町
 津名郡岩屋町
 三原郡福良町
 西彼杵郡香焼村
 島原市
 南松浦郡玉ノ浦村
 岩船郡大川谷村
 夷隅郡勝浦町
 久慈郡久慈町
 多賀郡大津町
 桑名市
 度會郡二見町
 志摩郡濱島町
 北牟婁郡引本町
 南牟婁郡鶴殿村

愛知縣 名古屋市
 幡豆郡幡豆町
 寶飯郡西浦村
 沼津市
 加茂郡下田町
 田方郡伊東町
 駿東郡靜浦村
 志太郡小川村
 滋賀縣 大津市
 宮城縣 石巻市
 牡鹿郡女川町
 本吉郡鹿折村
 石城郡小名濱町
 岩手縣 上閉伊郡釜石町
 青森縣 青森市
 山形縣 酒田市
 秋田縣 山本郡能代港町
 福井縣 敦賀市
 石川縣 石川郡金石町
 富山縣 富山市
 鳥取縣 鳥取市
 半田市
 寶飯郡三谷町
 渥美郡福江町
 清水市
 加茂郡松崎町
 田方郡宇佐美村
 庵原郡袖師村
 名取郡閑上町
 本吉郡氣仙沼町
 桃生郡雄勝町
 石城郡江名町
 宮古市
 八戸市
 由利郡金浦町
 坂井郡三國町
 羽咋郡福浦村
 高岡市
 西伯郡境町
 知多郡師崎町
 寶飯郡形原町
 加茂郡稻取町
 加茂郡田子村
 田方郡戸田村
 志太郡焼津町
 鹽竈市
 本吉郡唐桑村
 同十六年五月告示
 第一一九二號改正
 氣仙郡大船渡町
 南秋田郡船川港町
 七尾市

船舶検査執行地指定ノ件

- 島根縣 松江市
- 周吉郡西郷町
- 岡山縣 玉野市(昭十五年九月選信省)
告示第二五三一號追加)
- 小田郡笠岡町
- 廣島縣 廣島市
- 三原市(昭十一年十二月選信省)
告示第三三二〇號改正)
- 佐伯郡大柿町
- 豐田郡木ノ江町
- 豐田郡中野村
- 豐田郡東生口村
- 御調郡土生町
- 御調郡向島西村
- 沼隈郡千年村
- 山口縣 下關市
- 德山市(昭十二年四月選信省)
告示第八一六號追加)
- 大島郡久賀町
- 大島郡和田村
- 大島郡蒲野村
- 熊毛郡麻里府村
- 都濃郡下松町
- 吉敷郡井關村
- 豐田郡長府町
- 濱田市(昭十六年四月選信省)
告示第九〇五號追加)
- 邑久郡牛窓町
- 小田郡金浦町
- 吳市
- 安藝郡音戸町
- 豐田郡幸崎町
- 豐田郡大崎南村
- 豐田郡東野村
- 豐田郡名荷村
- 御調郡三庄町
- 御調郡田熊村
- 宇部市
- 防府市(昭十二年十一月選信省)
告示第三八〇七號改正)
- 大島郡小松町
- 大島郡森野村
- 大島郡沖浦村
- 熊毛郡室津村(昭十五年十月選信省)
告示第二七七一號追加)
- 都濃郡末武南村
- 吉敷郡東岐波村
- 八束郡森山村
- 淺口郡玉島町
- 尾ノ道市
- 安藝郡倉橋島村
- 豐田郡御手洗町
- 豐田郡西野村
- 豐田郡南生口村
- 豐田郡北生口村
- 御調郡向島東村
- 沼隈郡浦崎村
- 萩市
- 大島郡安下庄町
- 大島郡油田村
- 大島郡日良居村
- 熊毛郡上關村
- 熊毛郡麻郷村(昭十五年十二月選信省)
告示第三四四四號追加)
- 都濃郡大華村
- 厚狹郡小野田町

- 和歌山縣 海草郡湊村
- 西牟婁郡田邊町
- 新宮市
- 德島縣 德島市
- 那賀郡橋町
- 海部郡牟岐町
- 板野郡撫養町
- 香川縣 高松市
- 小豆郡苗羽村
- 愛媛縣 松山市(昭十五年九月選信省)
告示第二五三一號追加)
- 溫泉郡新濱村
- 越智郡波方村
- 喜多郡長濱町
- 高知縣 高知市
- 安藝郡室戸岬町
- 吾川郡長濱町
- 幡多郡清水町(昭十一年十一月選信省)
告示第三〇九九號追加)
- 福岡縣 福岡市
- 大牟田市
- 三潞郡大川町
- 北海郡郡白杵町
- 南海郡郡佐伯町
- 日高郡松原村
- 西牟婁郡串本町
- 東牟婁郡勝浦町
- 勝浦郡小松島町(昭十年十月選信省)
告示第二七一號追加)
- 那賀郡見能林村
- 海部郡三岐田町
- 小豆郡池田町
- 今治市
- 溫泉郡興居島村
- 越智郡東伯方村
- 新居濱市(昭十一年十一月選信省)
告示第三〇九九號追加)
- 安藝郡室戸町
- 安藝郡吉良川村(昭十三年十一月選信省)
告示第三六九〇號追加)
- 高岡郡須崎町
- 門司市
- 八幡市
- 北海郡津久見町
- 日高郡白崎村(昭十三年十一月選信省)
告示第三六九〇號追加)
- 西牟婁郡下芳養村
- 那賀郡富岡町
- 那賀郡椿村
- 海部郡日和佐町(昭十二年六月選信省)
告示第一五四〇號追加)
- 小豆郡西村
- 宇和島市
- 越智郡波止濱町
- 越智郡西伯方村
- 安藝郡甲浦町
- 長岡郡三里村
- 幡多郡下田町
- 若松市
- 戸畑市
- 北海郡保戸島村

休暇日船舶検査執行地ノ件 漁船特殊規則第三條第十號及第四條第十號ノ業務指定ノ件

五〇六

- 佐賀縣 唐津市 西松浦郡伊萬里町
- 熊本縣 宇土郡三角町 八代市
- 宮崎縣 天草郡御領村 天草郡鬼池村
- 延岡市(昭十二年三月逡信省) 南那珂郡油津町
- 東臼杵郡富島町(昭十四年七月逡信省) 川邊郡知覽町(昭十二年十月逡信省)
- 鹿兒島縣 鹿兒島市 川邊郡枕崎町(昭十二年三月逡信省)
- 日置郡申木野町(昭十二年七月逡信省) 大島郡名瀬町
- 日置郡三ノ丸町(昭十二年九月逡信省) 大島郡古仁屋町(昭十二年三月逡信省)
- 揖宿郡山川町(昭十七年九月逡信省) 大島郡古仁屋町(昭十二年三月逡信省)
- 那覇市 那覇市

休暇日船舶検査執行地ノ件

(昭九年二月逡信省) (昭九年四月九號)

船舶安全法施行規則第七十五號ノ規定ニ依リ休暇日船舶検査執行地別表ノ通定メ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正八年五月逡信省告示第六百四十二號ハ昭和九年二月二十八日限り之ヲ廢止ス

- 横濱市 大 阪市
- 神戸市 廣島縣御調郡土生町
- 廣島縣御調郡三庄町 長崎市

漁船特殊規則第三條第十號及第四條第十號ノ業務指定ノ件

(昭九年二月逡信省) (追加昭和十六年六月逡信省) (農林兩省告示第一號) (農林兩省告示第一號)

- 漁船ノ業務認定ニ關スル件
- 第一條 左ニ掲クル業務ハ第三條第十號ノ業務トス
- 一 一定置 漁業
- 二 敷網 漁業
- 三 追込網 漁業

- 四 飼付 漁業
- 五 蛸壺 漁業
- 六 潛水 漁業
- 七 縫切網 漁業
- 八 待網 漁業
- 九 罾漬 漁業
- 十 浮曳網 漁業
- 十一 其ノ他ノ雜種漁業
- 第二條 左ニ掲グル業務ハ第四條第十號ノ業務トス
- 一 鮭鱒、蟹漁業(母船ニ附屬スル漁船ニ依リテ爲スモノニ限ル)
- 二 鮪流網 漁業
- 三 珊瑚 漁業
- 四 蝶貝、高瀬貝及千歲貝漁業
- 五 臘虎、臘納獸、海驢海豹獵業

登録稅法 (抄錄) (明治二十九年三月)

改正(明治三十二年三月 大正三年三月 昭和二年三月) 法律第八三號 法律第二一號 法律第六號

- 第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
- 第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

登録稅法

- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三十五
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十三
- 四 委付 船舶價格 千分ノ三
- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 貸借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記 船舶價格 千分ノ三
- 九 競賣ノ申立 船舶價格 千分ノ一
- 十 假差押、假處分 債權金額 千分ノ五・五
- 十一 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ四
- 十二 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ四
- 十三 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記 船舶每一箇 金一圓
- 十四 抹消シタル登記ノ回復 船舶每一箇 金四十錢

五〇七

- 十五 假登記 船舶每一箇 金四十錢
- 十六 附記登記 船舶每一箇 金二十錢
- 十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金二十錢

前項第一項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 信託財産タル不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託不動産 千分ノ四
- 二 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ處分ヲ目的トスルモノノ不動産 千分ノ四十五
- 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五
- 船舶 船舶價格 千分ノ三十五

三 委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託不動産 千分ノ四十五

ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産タル不動産又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付テハ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ登録税ヲ納ムヘシ

不動産價格 千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶價格 千分ノ三十五
受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動産又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登録税ヲ課セス

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 每十噸 金五十錢
 - 二 轉籍 每十噸 金十錢
 - 三 除籍 每十噸 金五錢
 - 四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢
- 船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數百石ヲ十

ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託不動産 千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

第三條ノ三 前條第一項各號ニ該當セサル信託（委託者ガ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ管理ヲ目的トスルモノノ及委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託）ニ因リ不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス但信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登録税ヲ納ムヘシ

船舶價格 千分ノ三十五
前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項第二號又ハ第三號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス

第三條ノ四 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託不動産 千分ノ四十五

噸トシテ計算ス

第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登録税ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少ナキトキハ其ノ稅額ニ依ル

不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ三
第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條 左ニ掲クルモノハ登録税ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
 - 二、三 省略
 - 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
 - 五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- (以外各號省略)

第十九條ノ二 信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ依リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録

録

二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登録但シ
不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル
三 信託ノ信託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得
ノ登記又ハ登録

前項第一號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者（歸屬權利者
ヲ含ム）變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セ
ス此ノ場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ信託財産ハ其
ノ變更ノ登記又ハ登録ノトキニ於テ受託者ニ移轉シタルモ
ノト看做シ登録税ヲ課ス

第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該
官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ
登録ニ付テハ登録税ヲ課セス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料ニシ
テ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨ
リ之ヲ廢止ス

附 則 （昭和二年三月法律第六號）

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ
改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル

受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録税ヲ課セラレ
タル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

登録税法施行規則

（抄録） 明治三十二年五月
勅令第二百五號
改正（明治三十八年三月）
勅令第七七號

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入
印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金
ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五條ノ四 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ
登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅
告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ

船舶登記規則

明治三十二年六月
勅令第二百七十號

改正
明治三十八年三月 大正八年六月
勅令第七九號 勅令第二八九號 昭和七年六月
大正二年五月 大正十一年十二月
勅令第九三號 勅令第五二〇號 昭和八年五月
大正三年九月 大正十四年十二月
勅令第二〇四號 勅令第三二八號

第一章 總則

第二章 登記所

第三章 登記簿

第四章 登記手續

第一節 通則

第二節 所有權ニ關スル登記手續

第三節 抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

附則

船舶登記規則

第一章 總則

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九
條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第
三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第
七十八條、第一百一條、第一百二條、第一百四條ノ二乃至第百四
條ノ十五、第百八條、第百十七條、第百十九條、第百二十
條、第百二十二條乃至第百二十七條ノ二、第百四十一條、
第百四十二條、第百四十三條ノ二乃至第百四十八條、第百
四十九條ノ二乃至第百四十九條ノ五及ヒ第百五十條乃至第
百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章 登記所

第二條 此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船籍港ヲ管轄ス
ル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

船籍港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ司法大臣管
轄登記所ヲ指定ス

第三條 登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第三十條ノ規定

船舶登記規則

ニ依ル抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ船籍港
ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スルコトヲ要ス

第三章 登記簿

第四條 登記簿ハ船籍港毎ニ別冊ト爲ス

第五條 登記簿ハ一艘ノ船舶ニ付キ一用紙ヲ備フ

第六條 登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙
ノ三區ニ分チ尙ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區
ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各船舶ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタ
ル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ第十六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及ヒ
其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記
事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ抵當權及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載
ス

第四章 登記手續

第一節 通則

第七條 登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請
スル場合及ヒ第十一條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニ登記

證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類、名稱、船質及積量

二 船籍港

三 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第九條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受付ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇泊スル場合ニ限り所有權ノ登記名義人ハ其登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ要ス

第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セスシテ登記ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタ

書ニ管海官廳ヨリ交付シタル船舶件名書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

日本又ハ支那ニ於テ製造シタル船舶ニ付キ始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其船舶ノ製造地ヲ管轄スル登記所ノ特別登記簿ノ謄本又ハ特別登記簿ニ其船舶ニ關スル登記ナキコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第十六條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類及ヒ名稱

二 船質

三 國籍取得ノ年月日但日本ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此限ニ在ラス

四 總噸數

五 純噸數

六 進水ノ年月

汽船ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 機關ノ種類及ヒ數

二 推進機ノ種類及ヒ數

帆船ニ在リテハ第一項ニ掲ケタル事項ノ外帆裝ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記官吏カ

ルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受付ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ順位番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條 特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シ之ニ本登記簿ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ第四十五條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第十四條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動産登記法第七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

其登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ヲ作り之ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱、船質並ニ積量、船籍港及ヒ第九條ニ掲ケタル事項ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第十八條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第十九條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ船舶法第一條ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締役、業務擔當社員若クハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記簿及ヒ此等ノ者カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ大正十四年法律第五十二號ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締役若クハ代表者ノ全員ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記簿及ヒ此等ノ者ノ二分ノ一以上カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面並ニ其法人カ日本船舶ヲ所有スルニ適スルコトノ領事官ノ認定書又ハ其謄本ヲ添

附スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ニ於テ既ニ商法第五十一條乃至第五十三條、第七條、第四百一十一號、第二百四十二條、舊商法第三百十八條又ハ民法第四十六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前各項ニ定メタル登記ノ謄本、抄本又ハ登記簿證ヲ添付スル事ヲ要セス

第二十條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及ヒ船舶管理人ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶所有者カ其所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第十六條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船舶籍港ヲ變更シタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同一ノ船舶ノ登記用紙ニ抵當權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十三條 第十六條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ變更後ノ事項ヲ記載シ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第二十三條 削除

第二十四條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於ケル船舶籍變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船舶籍港ノ登記簿ニ舊船舶籍港ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ舊船舶籍港ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ何船舶籍港ノ登記簿ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十五條 船舶所有者カ船舶籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船舶籍港ノ登記簿及ヒ其附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

船舶籍港ヲ臺灣ヨリ移シタルトキ亦同シ

前條第二項、第三項及ヒ不動産登記法第九條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第四十三條及ヒ第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十九條 未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一 船舶カ滅失又ハ沈没シタルトキ

二 船舶カ解撤セラレタルトキ

三 船舶ノ在否カ六箇月間分明ナラサルトキ

四 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

五 船舶カ船舶法第二十條ニ掲ケル船舶トナリタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十一條 抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

第三十二條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ノ管轄スル登記所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類及船質

二 龍骨ノ長サ若シ船舶カ龍骨ヲ備ヘサルモノナルトキハ船ノ長サ

三 計畫ノ幅及深サ

四 計畫ノ積量

五 製造地

六 造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

七 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第三十四條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ證スル造船者ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十五條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ特別登記簿ニ之

ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ、表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移ストキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十八條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セサルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス製造中ニ臺灣ニ於テ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ストキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條 船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本又ハ支那ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス

第四十條 船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條 第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱並ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スルコトヲ要ス

第四十四條 第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス船籍港ヲ管轄スル登記

所カ臺灣ニ在ルトキ亦同シ

第四十五條 特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス臺灣ニ於ケル登記所ヨリ特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキ亦同シ

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 登記官吏カ賃借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動産登記法第二百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第三百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

第四十八條 此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 不動産登記法第六十二條ノ規定ハ明治十年第二十八號布告ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條 不動産登記法第六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非シテ此規則施行前ニ登記セザリシ船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リテ其積量ノ測定ヲ受クルマテハ舊法ノ規定ニ依リテノミ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ登記ニ付テハ舊登記用紙ニ丁區事項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル質入又ハ書入ノ登記アル場合ニ限り此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則 (大正二年勅令第九三號)

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トアルハ

「丙區」ヲ謂フ

附 則 (大正三年勅令第二〇四號)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタル船舶ニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項第二號ノ事項ヲ除クノ外同條ニ掲ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記ヲ受ケサル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本例ニ依ル表示ニ

當然變更セラレタルモノト看做ス

附 則 (大正十一年十二月勅令第五二〇號)

本法ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和七年六月勅令第七十九號)

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ昭和六年法律第六號ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルモノニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項(第二號及第六號ヲ除ク)ニ掲ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記ヲ受ケサルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ昭和六年法律第六號ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケ登記スヘキモノト爲リタルモノニ付始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且第十四條及第十五條ノ規定スル書面ニ代ヘ船艦札臺帳ノ謄本及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶

件名書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ昭和六年法律第六號施行ノ結果登記スヘキ船舶ト爲リタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示欄ノ記載中「登簿噸數」又ハ「汽機ノ種類及ヒ數」トアルハ夫「純噸數」又ハ「機關ノ種類及ヒ數」ニ當然變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ變更スルヲ妨ケス

附 則 (昭和八年五月勅令第四百十二號)

本令ハ昭和八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶登記取扱手續 (明治三十二年六月)

(司法省令第三十五號)

改正 (明治三十五年第一五號、同三十六年第二六號、同四十四年第一二〇號、大正二年第一八號、同三年第九號、同五年第一二八號、同一年第四七號、昭和二年第一一號、同四年第一五號、同八年第二一號)

第一條 船舶登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 船舶共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 船舶特別登記簿ハ附錄第一號雛形ニ準シ船舶特別共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

船舶登記取扱手續

第九條 印鑑ハ附錄第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 第八條ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セス

第十一條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受付帳

第四條 船舶登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 船舶登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其ノ船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ名稱、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第六條 受付帳ハ附錄第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第七條 登記證書ハ附錄第五號雛形ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

第八條 船舶所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長

市、區、町村長ナキ地方ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄

スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但不動

産ノ登記ニ關シ其ノ登記所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此ノ限

ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提

出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登

記所ニ提出スヘシ但法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登

記所ト船籍港ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在

ラス

ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 印鑑簿
 - 二 共同擔保目録綴込帳
 - 三 信託原簿綴込帳
 - 四 申請書類綴込帳
 - 五 決定原本綴込帳
 - 六 抗告書類綴込帳
 - 七 評價事件簿
 - 八 評價書類綴込帳
 - 九 印鑑證明書綴帳
 - 十 登記證明書交付帳
 - 十一 本登記濟證交付帳
 - 十二 船舶登記濟通知簿
 - 十三 謄本抄本交付帳
 - 十四 各種通知簿
 - 十五 受領證原符元帳
 - 十六 還納受領證綴込帳
- 第十一條ノ二 前條第二號乃至第十六號ノ帳簿ハ一箇年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス
- 第十一條ノ三 評價事件簿ハ附録第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第十一條ノ四 共同擔保目録ハ附録第八號雛形ニ依リ美濃紙

ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

- 第十一條ノ五 申請人共同擔保目録ノ表紙ニ船舶共同擔保目録ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ
- 共同擔保目録ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル
- 第十一條ノ六 信託原簿ハ附録第九號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ
- 第十一條ノ七 第十一條ノ五ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス
- 第十二條 登記簿謄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ
- 一 船舶ノ種類及ヒ名稱
 - 二 船籍港
 - 三 手數料ノ金額
 - 四 登記所ノ表示
 - 五 年月日
- 第十三條 登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分

ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

- 第十四條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ
- 此謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス
- 前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙罫紙ヲ用ユヘシ
- 第十四條ノ二 印鑑簿及ヒ信託原簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ
- 受付帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ
- 決定原簿綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及ヒ印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ
- 登記證書交付簿、本登記濟證交付帳、船舶登記濟通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領書原符元帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ
- 前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス
- 第十四條ノ三 共同擔保目録ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ
- 第十五條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但登録稅法第三條第一項第一號乃至十二號、第三條ノ二、第三條ノ三但書、

第三條ノ四及第十六條ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

- 登録稅法第十九條ノ八ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ
- 第十六條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登録稅法第三條第一項第九號乃至第十二號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ全額ヲ納付スヘシ
- 前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
- 申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領書ヲ添付スヘシ
- 第十六條ノ二 數箇ノ船舶ニ關シ登録稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登記官吏ハ後ニ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
- 船舶及ヒ他ノ權利ニ關シ登録稅法施行規則第四條及ヒ第四條ノ二ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收スル場合亦前項ニ同シ前

附錄第二號以下省略

船籍港力數箇登記所ノ管轄地ニ跨ル場合

登記取扱方 (明治三十二年七月)

(司法省令第三十九號)

船籍港力數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨ルトキハ其ノ船舶登記ノ事務ハ商業登記ニ付委任シタル登記所ニ於テ之ヲ取扱フ

造船事業法

(昭和十四年四月 改正 昭和十五年三月 法律第七十號 法律第五十九號)

第一條 本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業ノ一部ト看做ス

第二條 造船事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ社員ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又

借ヒ權抵 權賃及當	丙	番號	順位	事項欄	番號	順位	事項欄
		番號	順位	事項欄	番號	順位	事項欄
		番號	順位	事項欄	番號	順位	事項欄
		番號	順位	事項欄	番號	順位	事項欄
		丁					

ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス
前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(以下造船會社ト稱ス)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

造船會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第七條 造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲メ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎決算期ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ

第八條 株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ商法ニ規定スル制限ヲ超ユテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

造船事業法

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條 政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 政府ハ船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分

品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶用材料ニ付亦同ジ
造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得ズ
第十三條 政府ハ造船會社ニ對シ其ノ製造セントスル船舶ニ付命令ノ定ムル推進性能試驗ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ

對シ船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第十五條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得
一 設備ノ新設、増設又ハ改良
二 政府ノ指定スル船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕
三 船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設
前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十六條 政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ
造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得
造船組合ハ法人トス
第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得
一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給並ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ
第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過意金ヲ課スルコトヲ得
第二十條 造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ

二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ
組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得
造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成立ス
第二十一條 造船組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 役員ニ關スル規定
- 八 事業ノ執行ニ關スル規定
- 九 會議ニ關スル規定
- 十 組合員ノ出資及責任ニ關スル規定
- 十一 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定
- 十二 會計及財産ニ關スル規定
- 十三 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由
- 第二十二條 造船組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十六條 政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ
造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得
造船組合ハ法人トス
第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得
一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給並ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ
第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過意金ヲ課スルコトヲ得
第二十條 造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス
理事ト監事トハ相兼スルコトヲ得ズ
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ
理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
第二十三條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 定款ノ變更
 - 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
 - 三 業務報告及收支決算ノ承認
 - 四 第二十八條第一項ノ規程ノ制定及變更
 - 五 造船組合聯合會ノ設立、加入及脱退
 - 六 役員ノ選任及解任
 - 七 合併及解散
- 前項第一號、第四號、第六號及第七號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第二十四條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシ

ムルコトヲ得

第二十五條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第二十三條第一項第一號、第二號、第四號、第五號及第七號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十七條 組合員ノ責任ハ第十九條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ノ限度トス
造船組合ハ定款ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第二十八條 造船組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ
政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認

ムルトキハ政府ハ造船組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ造船組合ノ組合員ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジ又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第三十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 造船組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ノ取消
 - 二 役員ノ解任
 - 三 事業ノ停止
 - 四 解散
- 第三十三條** 造船組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二 總會ノ決議
 - 三 合併

四 破産

五 政府ノ解散命令

第三十四條 造船組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ他ノ造船組合聯合會又ハ造船組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ法人トス

第三十五條 造船組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十六條 第十八條、第十九條、第二十條第三項、第二十一條乃至第三十三條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 造船組合及造船組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第三十九條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號、第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十條 本法ニ規定スルモノノ外造船組合及造船組合聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ヲシテ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶、船舶用機關又ハ艀裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ造船事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五條第一項ノ規定ニ違反シ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタルトキ
- 二 第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ本邦ニ於テ製造セラレタルニ非ザル物ヲ使用シタルトキ

- 三 第十二條第二項ノ規定ニ違反シ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ船舶ニ使用シタルトキ
- 四 第十四條又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ
- 五 第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ統制ニ從ハザルトキ
- 第四十五條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 四十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ
 - 二 第四十一條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ
- 第四十六條 造船事業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十三條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第四十七條 第四十三條乃至第四十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四十八條 造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事、監事又ハ

- 清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
- 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ
- 第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 第五十條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス
 - 一 第七條ノ規定ニ違反シ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ同條ニ規定スル以外ノ目的ニ使用シタルトキ
 - 二 第八條ノ規定ニ違反シ社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ
- 第五十一條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス
 - 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 - 二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ本法ニ依ル

政府ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ

- 三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
- 四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第五十二條 第三十七條及第四十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第五十條乃至前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第三條中有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(勅令第七九九號昭和一一、一、一ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタルモノノ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

造船事業法施行令

(昭和十四年十一月 勅令第八〇〇號)
(改正 昭和十六年四月勅令第五二三號)

第一條 造船事業法第一條第一項ノ設備ハ長サ五十米以上ノ

造船事業法施行令

船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架トス

第二條 造船事業法第二條ノ許可ハ船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ事業別ニ之ヲ爲ス

第三條 造船事業法第七條ノ規定ニ依リ造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テアル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ガ當該設備ノ取得價額ノ六割ニ達スル迄毎決算期ノ利益金額ノ百分ノ十二以上ヲ積立ツベシ當該決算期ニ於テ設備ノ償却ニ充ツル爲經費ニ計上シタル金額ハ前項ノ利益金額計算上支出ニハ之ヲ算入セズ且前項ノ規定ニ依リ當該決算期ニ於テ積立ツベキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第四條 造船會社特別ノ事情ニ基キ前條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケ前條ノ積立ツベキ金額ヲ減額スルコトヲ得

第五條 造船事業法第十五條第二項ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

損失ノ補償ヲ請求セントスル會社ハ其ノ損失ガ造船事業法第十五條第一項第一號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該設備ノ使用ヲ廢止シタル後又同條第一項第二號又ハ第三號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該命令事項ノ履行ヲ終リタル後之ヲ請求スベシ但シ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度ノ終リタル後又ハ損失ノ生ジタル都度、

之ヲ請求スルコトヲ得

第六條 削除

第七條 造船組合ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人又ハ設立同意者タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第八條 造船組合ノ理事及監事ハ組合員タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ適任スルコトヲ得

第九條 造船組合ノ理事正當ノ理由ナクシテ造船事業法第三十九條ニ於テ準用スル民法第六十一條第二項ノ規定ニ依リ請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十條 造船組合ノ組合員ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス
前項ノ代理人ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人

又ハ組合員タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ提出スベシ

第十一條 造船組合ノ總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ヲ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
商法第六十三條第二項、第三項及第六十三條ノ四ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 造船組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第十三條 第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十條第二項(同法第四十二條、第五十八條第三項及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 造船組合ノ清算人ハ民法第七十九條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 造船組合聯合會ノ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第七條第二項乃至第四項ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス
第十六條 造船組合聯合會ノ理事及監事ハ所屬ノ組合又ハ聯

合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ其ノ聯合會ニ屬スベキ組合又ハ聯合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ
特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 本令ニ依リ登記スベキ事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ之ヲ登記スルコトヲ要ス

本令ニ依リ登記スベキ事項ニシテ逓信大臣又ハ逓信大臣及商工大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十八條 造船組合ハ組合員ノ出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
一 造船事業法第二十一條第一號乃至第三號及第十三號ニ掲グル事項

二 事務所

三 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

四 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

五 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ各組合員ノ名稱及本店並ニ各組合員ガ其ノ出資ノ外

造船事業法施行令

組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔スル金額(保證金額)

六 成立ノ年月日

七 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ前項第四號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ四週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ五週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條 造船組合ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス
主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十條 造船組合ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所所在地ニ於テハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ主タル事務所又ハ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十一條 造船組合及造船組合聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス各登記所ニ

第二十二條 造船組合ノ設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ定款、創立總會又ハ總會ノ決議錄、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十三條 造船組合ノ事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面及申請人中ニ理事ノ職務ヲ行フ監事又ハ假理事アル場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 造船組合ガ造船事業法第三十三條第一號又ハ第二號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リ、同條第三號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及前項前段ノ場合ニ於テ理事ガ清算人タラザルトキハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス第二十一條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 造船組合ノ清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十六條 第九條乃至第十二條、第十四條、第十八條乃至第二十條及第二十二條乃至前條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第六十七條、第七十三條、第七十六條及第七十八條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條乃至第三十七條ノ二及第二百二十五條第一項(第四百一一條及第四百七十七條ヲ準用スル部分ヲ除ク)ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付適用アルモノトシ民法第七十條第一項、第七十二條、第七十四條及第七十五條、非訟事件手續法第三百五十五條ノ二、第四百一一條及第四百九十五條ノ二並ニ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條ノ二、第四十條乃至第四十二條、第四十四條第一項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十三條第一項、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項及第七十四條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 造船事業法第九條乃至第四十一條、第四十四條第二號乃至第五號、第四十五條乃至第四十九條及第五十一條乃至第五十三條並ニ本令第五條乃至第十六條、第十八條乃至第二十條、第二十一條第一項、第二十二條乃至前條、第三十二條及第三十三條ノ規定ハ長サ十五米以上ノ船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架ヲ備フル者ノ營業船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業及其ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ノ事業ニシテ造船事業法第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第二十九條 造船事業法第九條、第十條、第十四條乃至第四十條、第四十一條第一項、第四十四條第二號乃至第五號、第六條、第二十條、第二十二條、第二十三條、第二十八條乃至第三十三條、第三十五條、第四十一條及第五十一條中政府トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ逓信大臣及商工大臣

トシ同法第十二條及第十三條(第二十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)中政府トアルハ漁船、漁船用機關若ハ艀裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付テハ逓信大臣及農林大臣トス

第五條、第九條及第二十四條中逓信大臣トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ逓信大臣及商工大臣トス

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本令ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 本令ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ若ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

三 主務官廳ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ

四 本令ニ違反シ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

五 本令ニ違反シ組合又ハ聯合會ガ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

六 本令ニ違反シ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、

第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合若ハ聯合會ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

七 本令ニ違反シ剩餘金ヲ處分シタルトキ

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會

ノ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 裁判所又ハ其ノ選任シタル者ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ

三 本令ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

四 本令ニ違反シ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

五 本令ニ定ムル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

六 前條第一號及第四號乃至第六號ノ一ニ該當スルトキ

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法施行規則

(昭和十四年十一月 改正 昭和十七年一月 信省令第六十二號 逓信省令第八號)

第一條 造船事業法第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

一 工場ノ名稱及位置

二 造船事業法施行令第二條ノ規定ニ依ル事業ノ區別(造

造船事業法第一條第二項ノ事業ヲ營マントスルトキハ其ノ旨ヲ附スベシ)

三 設備ノ概要(圖面ヲ添附スベシ)

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 工事ノ著手及完成ノ豫定期間並ニ事業開始ノ豫定期期ヲ記載シタル書面

二 工事費豫算書

三 事業資金ノ總額及其ノ調達方法ヲ記載シタル書面

四 事業收支目論見書

五 技術者及職工ノ雇傭及養成ノ計畫ヲ記載シタル書面

六 會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、造船事業經營ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、

損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿

七 造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

八 造船事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載シタル書面

第二條 造船事業法第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者其ノ設備ノ工事ニ著手シタルトキ及其ノ設備ヲ完成シタルトキハ逓信大臣ニ届出ツベシ其ノ事業ヲ開始シタル

造船事業法施行規則

五三七

トキ亦同ジ

第三條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業讓渡ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

一 讓渡スベキ事業ノ範圍

二 讓渡ノ價格及時期

三 讓渡ヲ必要トスル事由

四 讓受ケントスル者ガ造船會社ニ非ザル者ナルトキハ讓受後ニ於ケル第一條第一項各號ニ掲グル事項

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 讓渡契約書ノ謄本

二 讓渡價格算出ノ基礎ヲ明ニスル書面

三 讓渡ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ決議録ノ謄本又ハ之ニ代リ得ベキ書面

四 讓受ニ要スル資金ノ調達方法ヲ記載シタル書面及讓受後ニ於ケル事業收支目論見書

五 讓受ケントスル者會社發起人ナルトキハ定款、造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿並ニ造船事業法

第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

造船事業法施行規則

五三七

第四條 造船事業ノ讓渡終了シタルトキハ當事者連署ノ上遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第五條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ廢止又ハ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、廢止又ハ休止スベキ事業ノ範圍、廢止又ハ休止ノ時期及休止ノ場合ニ在リテハ其ノ期間ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ但シ一月未滿ノ事業ノ休止ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヅルヲ以テ足ル

第六條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ

- 一 合併ノ方法及條件
 - 二 合併ノ時期
 - 三 合併ヲ必要トスル事由
 - 四 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一項各號ニ掲グル事項
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 合併契約書ノ謄本
 - 二 合併條件決定ノ基礎ヲ明ニスル書面

三 合併ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本

四 合併後ニ存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款及合併後ニ於ケル事業收支目論見書

五 合併ノ當事者タル會社ノ商法第七十八條第一項又ハ有限會社法第六十三條ニ於テ準用スル昭和十三年法律第七十二號、商法第九十九條ノ規定ニ依リ作成シタル財産目録及貸借對照表

六 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ其ノ定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿並ニ造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面

第七條 造船會社ノ合併終了シタルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第八條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ

第九條 造船事業法施行令第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及減額セントスル額ヲ記載シタル申

請書ニ次ノ決算期以後ニ於ケル償却目論見書ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第十條 造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 社債ノ總額
- 二 社債募集ノ時期及條件
- 三 商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債募集ヲ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行セントスルモノナルトキハ申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
- 二 社債ノ利率ノ最高限度
- 前二項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書面(工事費計算書ヲ添附スベシ)
- 二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
- 三 會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
- 四 最終ノ貸借對照表
- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本

六 信託證書案

七 工場抵當法ニ依リ抵當ト爲スベキ物件ノ目録

八 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目録ノ科目別ニ表示シタル書面第一項ノ場合ニ於テ造船事業法第八條第四項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ申請書ニ第一項各號ノ事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記シ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類及社債募集ノ方法ニ關スル説明書ヲ添附スベシ

第十一條 造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

第十二條 逓信大臣ハ造船事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ヲ交付セントスルトキハ獎勵スベキ物ノ名稱、獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格、獎勵金額其ノ他必要ナル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 製造セントスル工場ノ名稱
- 二 製造セントスル物ノ名稱、種類、型式、性能及數量(設計圖又ハ仕様書ヲ添附スベシ)

- 三 設計者又ハ考案者及製造擔當者ノ氏名
 - 四 製造ノ目的及研究ノ沿革
 - 五 製造ノ開始及終了見込年月日
 - 六 製造費豫算
 - 七 製造ノ爲ニ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ概要及工事費豫算
- 前項ノ申請書(設計圖又ハ仕様書ヲ含ム)ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ逓信大臣ノ承認ヲ受クベシ
- 第十四條** 前條ノ獎勵金ハ當該製造ノ完了シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十五條** 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者當該物品ノ製造ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ逓信大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルヘシ
- 一 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 二 逓信大臣ノ承認ヲ受ケズシテ設計又ハ仕様ヲ變更シタルトキ
 - 三 製造ヲ中止シタルトキ
 - 四 製造費ノ支出額ガ豫算額ニ比シ著シク寡少ナルトキ
 - 五 不正ノ行爲アリタルトキ
- 第十六條** 造船會社船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部

- 分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ此等ノ物ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 外國ニ於テ新規ニ發明若ハ考案セラレタル物又ハ本邦ニ於テ製造困難ナル特殊ノ物ヲ使用セントスル場合
 - 二 其ノ他特別ノ事由アル場合
- 前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ
- 第十七條** 逓信大臣ハ造船事業法第十一條ノ規定ニ依リ助成金ヲ交付セントスルトキハ助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格、助成金額其他助成金交付ニ關スル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ
- 第十八條** 逓信大臣ハ造船事業法第十二條第一項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス告示シタル規格ヲ變更シタルトキ亦同ジ
- 第十九條** 造船會社ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ前條ノ規格ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得
- 一 船舶用トシテ適否ヲ實地ニ試験スル目的ヲ以テ製造シ又ハ船舶ニ使用スル場合
 - 二 規格ニ適合スル物ノ取得困難ニシテ船舶ノ製造又ハ修

繕ニ支障ヲ生ズル虞アル場合

三 新規ニ發明若ハ考案セラレタルモノヲ製造シ又ハ之ヲ船舶ニ使用スル場合

四 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十條 造船會社長サ八十米以上ノ船舶ニシテ推進機關ヲ備フルモノヲ製造セントスルトキハ製造著手前其ノ船型及推進器ノ選定ニ付昭和二年逓信省令第五十六號船型試驗規則ニ依リ水槽試驗ヲ受クベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 船舶試驗所以外ノ試驗水槽ニ依リ水槽試驗ヲ受ケントスル場合
- 二 既ニ水槽試驗ヲ受ケタル船舶ト同形ノ船舶ヲ製造セントスル場合
- 三 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十一條 漁船、漁船用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ規格及漁船ノ推進性能試験ニ關シテハ前三條ノ規定ニ拘ラズ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十二條 造船會社ハ毎年二月末日迄ニ前年ノ營業ノ概況

及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ記載シタル報告書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十三條 造船會社ハ營業年度毎ニ株主總會又ハ社員總會終結後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類、株主名簿又ハ社員名簿及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 當該營業年度ニ於テ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テタル金額又ハ經費ニ計上シタル金額
- 二 其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テタル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ト前號ノ金額トノ合計額並ニ其ノ合計額ト當該設備ノ取得額トノ比率

第二十四條 造船會社ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヅベシ

- 一 定款ヲ變更シタルトキ
- 二 取締役又ハ監査役ニ變更アリタルトキ
- 三 株金又ハ出資金ノ拂込アリタルトキ
- 四 社債ヲ發行シ又ハ長期借入金ヲ爲シタルトキ
- 五 社債又ハ長期借入金ヲ償還シタルトキ
- 六 會社ノ資本系統ニ著シキ變更アリタルトキ
- 七 兼營事業ヲ開始シ縮小シ又ハ廢止シタルトキ

第二十五條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ逓信大臣ニ

提出スベシ

- 一 工場ノ名稱及位置
 - 二 船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ區別
 - 三 設備ノ概要(圖面ヲ添付スベシ)
 - 四 事業開始ノ豫定期
 - 五 事業資金ノ總額及其ノ調達方法
 - 六 事業收支目論見書
 - 七 常時使用スベキ職工數
- 前項ノ屆書ニハ會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益金ノ處分ニ關スル書類ヲ添付スベシ
- 第二十六條** 前條ノ屆書ヲ提出シタル者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ
- 第二十七條** 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者第二十五條第一號第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ
- 第二十八條** 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ該事業ヲ營ム會社解散シタルトキ亦同ジ
- 第二十九條** 第四條、第七條第一項、第十二條乃至第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十四條及第三十條乃至第五十四條ノ規定ハ造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ニ付之ヲ準用ス

業ニ付之ヲ準用ス

- 第三十條** 造船組合(以下組合ト稱ス)ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ會社發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル會社ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ
- 一 目的
 - 二 地區
 - 三 組合員タル資格
 - 四 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
 - 五 造船事業法第二十七條第二項ノ組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法
 - 六 經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法
 - 七 事業計畫概要
- 設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ
- 發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ
- 第三十一條** 造船事業法第二十條第二項ノ規定ニ依ル創立總會開催ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ組合員タル資格ヲ有スル會社及設立同意者タル會社ノ數ヲ證スル書面ヲ添付シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第三十二條

造船事業法第二十條第一項ノ規定ニ依ル三分ノ二以上ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三十三條

組合ノ發起人創立總會ヲ招集スルニハ設立同意者タル會社ニ對シ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ通知スベシ

第三十四條

組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第三十五條

創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク組合ノ設立認可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歴書並ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

- 一 事業計畫
- 二 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 引受アリタル出資ノ總口數
- 四 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額
- 五 理事及監事ノ氏名及住所
- 六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ分賦收入方法

第三十六條

組合ノ役員選任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書(造船事業法施行令第八條第二項ノ規定ニ依ル理事又ハ監事選任ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載スベシ)ニ役員ノ履歴書及總會ノ決議録ノ謄本ヲ添付シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第三十七條

組合ノ役員解任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添付シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第三十八條

組合ノ定款變更ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添付シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

定款ノ變更ガ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少又ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲グル書面ノ外財産目錄及貸借對照表ヲ添付スベシ

第三十九條

定款ノ變更ガ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條第二項又ハ第六十八條第一項ノ場合ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ第一項ニ掲グル書面ノ外總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スベシ

經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ準用ス

議録ノ謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第四十條 組合ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十六條ノ規定ニ依ル準備金ノ積立ヲ爲シ尙剩餘金アルトキハ之ヲ資産又ハ翌事業年度收入ニ繰入ルベシ

第四十一條 組合ハ業務報告(財産目録及貸借對照表ヲ含ム)及收支決算ニ付總會ノ承認アリタルトキハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第四十二條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徴收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スベキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同ジ

第四十三條 組合員組合ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メントスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫告ヲ爲スベシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條 組合ノ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、殘餘財産アル場合ニ於ケル處分方法ヲ記載シタル書面並ニ財産目録及貸借對照表ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十五條 組合ノ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ

其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、財産目録、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十六條 造船事業法第二十八條第一項ノ規程ノ制定又ハ變更(廢止ヲ含ム)ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十七條 造船事業法第三十條ノ規定ニ依ル處分ハ遞信大臣造船會社ヲシテ組合ノ組合員ヲラシムル旨ヲ當該造船會社ニ告知シ又ハ組合、組合員タルベキ會社ノ資格及組合ノ組合員ヲラシムル旨ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第四十八條 組合造船事業法第十八條第一項第四號ニ掲グル事業ヲ行ハントスルトキハ豫メ之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

- 一 遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外定款ノ施行ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキ
- 二 造船事業法第二十八條第一項ノ規定ニ基キ製造又ハ販賣ノ數量又ハ價格其ノ他ノ事項ニ付決定ヲ爲シタルトキ
- 三 事務所、理事、監事、清算人又ハ定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散ノ登記ヲ爲シタルトキ

第四 加入金又ハ増口金ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキ
第五十條 造船組合聯合會(以下聯合會ト稱ス)ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ各組合及聯合會ハ其ノ理事及監事中ヨリ創立委員二名ヲ選任スベシ

第五十一條 聯合會ノ會員タルベキ各組合及聯合會ニ於テ前條ノ創立委員ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第五十二條 創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク聯合會ノ設立認可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ
前項ノ申請書ニハ定款、創立委員會ノ決議録ノ謄本、聯合會設立ニ關スル會員タルベキ各組合及聯合會ノ總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書並ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

- 一 事業計畫
- 二 聯合會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 引受アリタル出資ノ總口數
- 四 造船事業法第三十六條ニ於テ準用スル同法第二十七條第二項ニ依ル聯合會ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額

五 理事及監事ノ氏名及住所

六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ所屬ノ組合及聯合會ニ分賦スル聯合會ニ在リテハ分賦收入方法

造船事業法施行規則

第五十三條 聯合會ニ加入シ又ハ脱退シタルモノアリタルトキハ聯合會ハ遲滞ナク其ノ名稱及主タル事務所ノ所在地ヲ遞信大臣ニ届出ヅベシ

第五十四條 第三十四條及第三十六條乃至第四十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 本令ノ規定ニ依リ遞信大臣ニ提出スベキ書類ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外所轄海務局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者ハ第一條第一項ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル届書ヲ、造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者ハ第二十五條第一號乃至第三號ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル届書ヲ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ遞信大臣ニ提出スベシ但シ第一條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附 則 (昭和十七年一月二十日 遞信省令第八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附

錄

海務院關係船舶造修用資材並船用品
需給要領 (其ノ一) (昭和十七年四月)

目次

- 一 壓延鋼材需給要領
- 二 銑鐵需給要領
- 三 外註銑鐵鑄物需給要領
- 四 鑄鐵管需給要領
- 五 鍛鋼品需給要領
- 六 鑄鋼需給要領
- 七 特殊鋼需給要領
- 八 生産擴充外註機器需給要領
- 九 非鐵金屬需給要領
- 一〇 船用鎖需給要領
- 一一 鋼索需給要領
- 一二 國產材需給要領
- 一三 外材需給要領
- 一四 「セメント」需給要領
- 一五 「カーバイド」需給要領
- 一六 石綿需給要領
- 一七 壓延鋼材需給事務過渡的處理要領

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

一 海務院關係壓延鋼材需給要領

第一章 總則

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル普通鋼壓延鋼材(以下鋼材ト稱ス)ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 海務院ニ於テ需給事務ヲ管掌スル鋼材ハ左ノ用途ニ使用スルモノトス
 - 一 乙造船計畫ニ依ル船體、機關、補機、艤裝品等ノ新造用
 - 二 乙造船計畫ニ關係アル造船所(船舶用機關補機又ハ艤裝品ノ製造所ニシテ造船統制會所屬ノモノ及海務院ノ指定セルモノヲ含ム以下同ジ)ニ於ケル一般修理用及工場施設用
- 三 鋼材ハ其ノ用途ニ依リ左ノ三種ニ區分ス
 - 一 新造用 船舶(機關、補機、艤裝品等ヲ含ム以下同ジ)ノ建造ニ用フルモノ
 - 二 一般修理用 船舶ノ修理ニ用フルモノ
 - 三 工場施設用 工場施設ノ擴充及補修ニ用フルモノ
- 四 鋼材ハ其ノ注文種別ニ依リ左ノ二種ニ區分ス
 - 一 指定製作品 海軍艦政本部ヨリ鐵鋼統制會ニ豫メ所要量ヲ提示シ製造セシムルモノ
 - 二 新作品 指定製作品トシテ豫メ提示セザリシモノ

第二章 鋼材ノ種別

第三章 鋼材ノ提示

- 五 海務院ハ每四半期開始五ヶ月前ニ指定製作品トナスベキ鋼材ヲ新造用、一般修理用及工場施設用ニ分チ品種寸法別ニ取纏メタル要求明細書ヲ調製シ海軍艦政本部會計部ニ送付スルモノトス
- 海軍艦政本部ハ之ニ綜合提示明細書ヲ添附ノ上鐵鋼統制會ニ通知スルト共ニ其ノ寫ヲ海務院ニ送付スルモノトス海務院ハ綜合提示明細書寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ製鐵所所在地管轄管海官廳ニ通知スルモノトス
- 六 海務院ハ商工省ヨリ船舶用鋼材ノ推定制當通知(當該四半期開始四ヶ月前ニ通知ヲ受ケタルモノトス)ヲ受ケタルトキハ前號資料ニ基キ海軍艦政本部ト協議ノ上用途別割當ヲ決定スモノルトス
- 七 提示後寸法別數量ノ増減ハ極力之ヲ爲サザルモノトシ、已ムヲ得ザル場合ハ海務院ハ海軍艦政本部會計部ト連絡協議スルモノトス
- 第四章 鋼材ノ註文
- 八 鋼材ノ註文ハ鐵鋼販賣統制會社ノ指定製作品註文トシ新製品註文ハ已ムヲ得ザル場合ニ限ルモノトス
- 九 海務院ハ第六號ノ割當決定シタルトキハ新造用、一般修理用及工場施設用ニ必要ナル指定製作品ノ引當表ヲ作製シ之ヲ左ニ通知スルモノトス

管海官廳又ハ需要者團體經由造船所

製鐵所所在地管轄管海官廳
艦政本部經由製鐵所所在地海軍監督長(首席監督官)
鐵鋼販賣統制會社及製鐵所

- 一〇 指定製作品ニ對スル前號ノ引當表調製期間ハ鐵鋼統制會ニ對スル翌四半期ノ提示時期迄トス
- 一一 造船所ハ指定製作品ノ引當表受領後速ニ鋼材ノ販賣業者又ハ問屋團體ニ註文中込ヲナシ、販賣業者又ハ問屋團體ハ之ニ依リ鐵鋼販賣統制會社ニ對シ註文ノ契約手續ヲ行フモノトス
- 一二 造船所第九號ノ引當表以外ノ鋼材ヲ必要トスル場合ハ速ニ之ヲ海務院ニ申請スルモノトス海務院ハ之ヲ審査ノ上追加引當ヲ行フモノトス

第五章 鋼材ノ配給

- 一三 海務院ハ第一〇號及前號ノ引當數量ニ基キ每四半期鋼材消費割當量ヲ管海官廳及需要者團體別ニ區分シ商工省ニ通知スルモノトス
- 一四 海務院ハ鐵鋼統制會ヨリ管海官廳ニ於テ配給スベキ鋼材消費割當量ノ通知アリタル時ハ管海官廳ニ之ヲ割當ヲ行ヒ、管海官廳ハ之ニ依リ鐵鋼割當證明書ヲ發行スルモノトス
- 需要者團體ハ鐵鋼統制會ヨリ鋼材消費割當通知ヲ受ケタル

時ハ海務院ノ指示ニ基キ鐵鋼割當證明書ヲ發行スルモノトス

造船所ハ第一項又ハ第二項ノ鐵鋼割當證明書ヲ發シ註文中込ヲ爲シタル鋼材ノ販賣業者又ハ問屋團體ニ提示シ現品ヲ購入スルモノトス

海軍艦政本部ノ指定セル造船所ニ對スル鐵鋼割當證明書ノ取扱ニ關シテハ海軍艦政本部ノ定ムル所ニ依ルモノトス

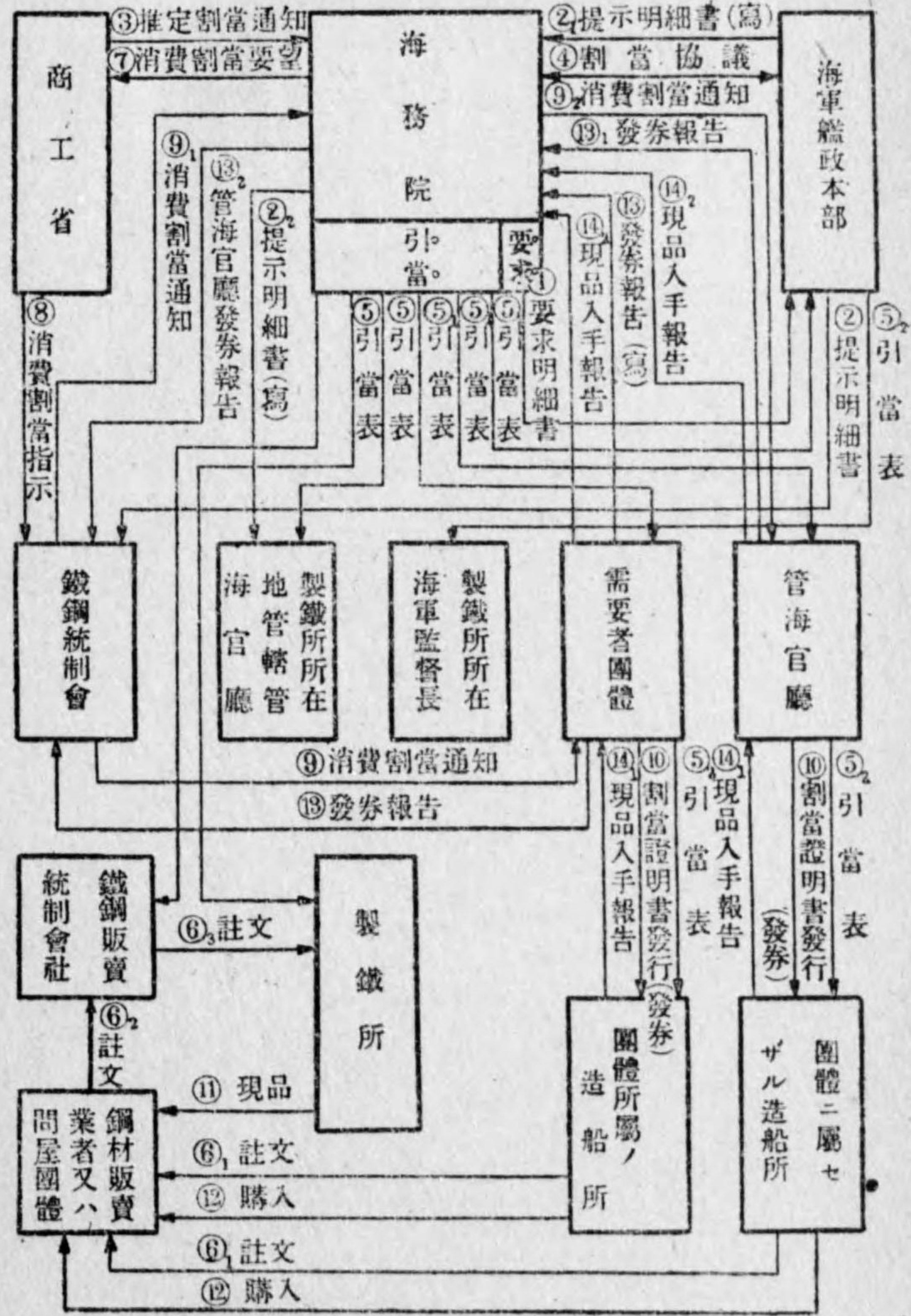
第六章 雜 則

- 一五 契約決定後ノ註文鋼材ニ關スル應答文書ニハ必ず約定番號ヲ明記スルモノトス
- 一六 鋼材註文決定後ニ於ケル製鐵所宛ノ應答ハ必ず所在海軍監督官經由トシ二通ヲ送付スルモノトス
- 一七 鋼材納入後六ヶ月未滿ニ不良材ヲ發見シタル時ハ製鐵所ハ直ニ之ヲ代品ノ製造ニ着手シ引換ヲナスモノトス
- 一八 不良材ヲ引換ヘントスル時ハ造船所ハ所在海軍監督長(首席監督官)經由製鐵所宛引換請求書及不良箇所見取圖(約定番號、規格、寸法、送狀番號、検査番號及製鋼番號等明記)各三通ヲ送付スルモノトス
- 一九 製鐵所ハ前號ノ不良鋼材ノ引換ヲ決定シタル時ハ所在海軍監督官經由造船所ニ通知スルモノトス
- 二〇 管海官廳及需要者團體ハ毎月十五日迄ニ前月中ニ發行シタル鐵鋼割當證明書ニ定ムル鐵鋼ノ種類別數量ヲ記載シ

タル報告書ヲ鐵鋼統制會ニ送付シ其ノ寫一通ヲ海務院ニ提出スルモノトス但シ管海官廳ヨリ鐵鋼統制會ニ送付スル報告書ハ海務院ヲ經由スルモノトス

二一 造船所ハ毎月引取タル鋼材ニ付用途別(新造用ニ在リテハ各船別)品種寸法別ニ調書ヲ作製シ翌月十五日迄ニ管海官廳又ハ需要者團體經由海務院ニ提出スルモノトス

壓延鋼材需給要領圖解



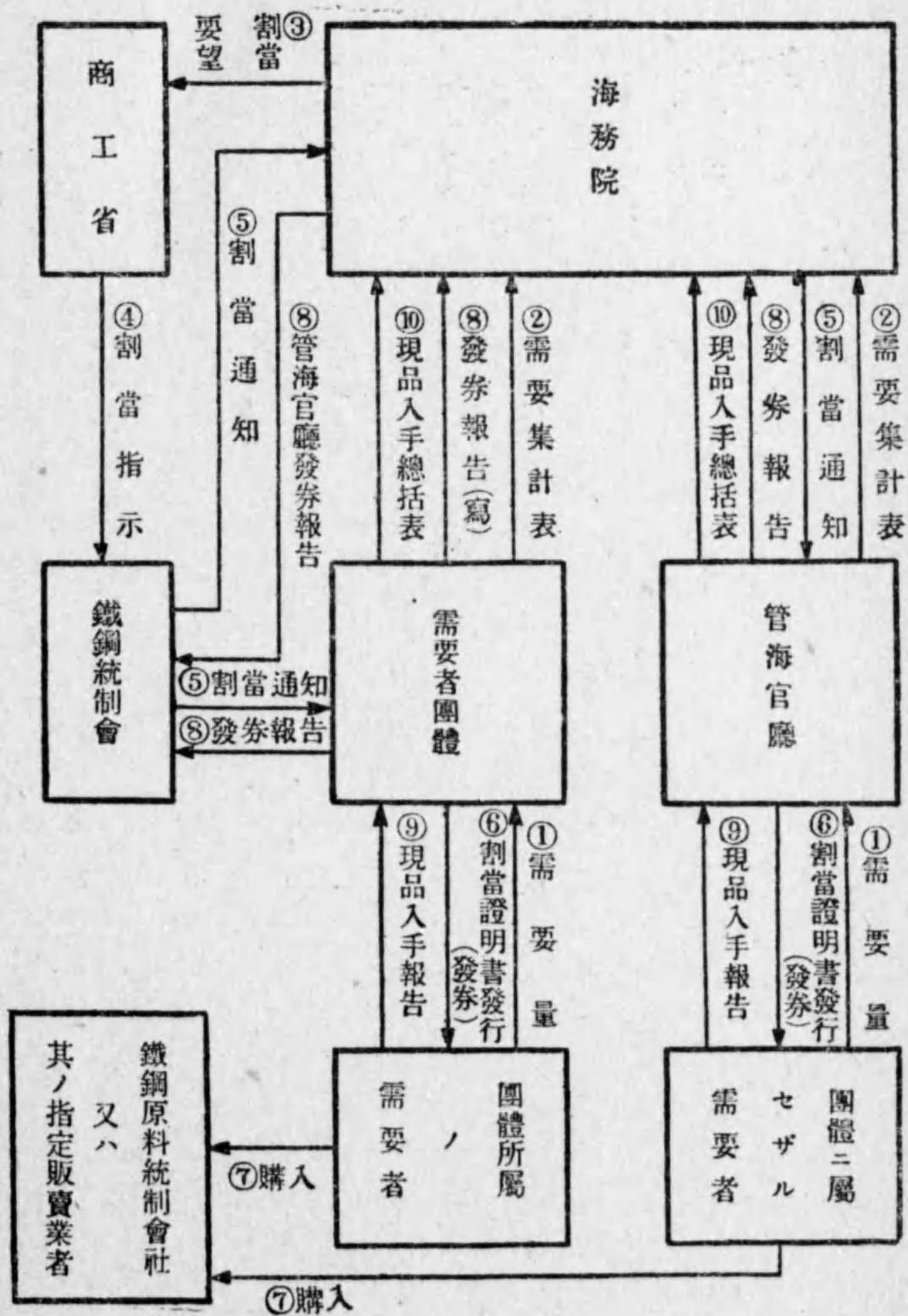
二 海務院關係鉄鐵需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル鉄鐵ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 管海官廳及需要者團體ハ每四半期鉄鐵需要量ヲ用途別需要者別ニ調査シ當該四半期開始四ヶ月前迄ニ之ヲ海務院ニ報告スルモノトス
- 三 海務院ハ前號資料ニ基キ每四半期鉄鐵消費割當量ヲ管海官廳及需要者團體別ニ區分シ商工省ニ通知スルモノトス
- 四 海務院ハ鐵鋼統制會ヨリ管海官廳ニ於テ配給スベキ鉄鐵消費割當量ノ通知アリタル時ハ管海官廳ニ之ガ割當ヲ行ヒ管海官廳ハ之ニ依リ鉄鋼割當證明書ヲ發行スルモノトス
- 五 需要者團體ハ鐵鋼統制會ヨリ鉄鐵消費割當量ノ通知アリタル時ハ海務院ノ指示ニ基キ需要者ニ對シ之ガ割當ヲ行ヒ鉄鋼割當證明書ヲ發行スルモノトス
- 六 需要者ハ第四號又ハ前號ノ鉄鋼割當證明書ニ依リ鉄鋼原料統制會社又ハ其ノ指定販賣業者ヨリ鉄鐵ヲ購入スルモノトス
- 七 管海官廳及需要者團體ハ毎月十五日迄ニ前月中ニ鉄鋼割當證明書ヲ發行シタル鉄鐵數量ヲ記載シタル報告書ヲ鐵鋼統制會ニ送付シ其寫一通ヲ海務院ニ提出スルモノトス但シ管海官廳ヨリ鉄鋼統制會ニ送付スル報告書ハ海務院ヲ經由スルモノトス

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

- 八 管海官廳及需要者團體ハ需要者ヨリ每四半期ノ現品取得報告書ヲ徵シ之ガ總括表ヲ調製シ翌四半期初十日迄ニ海務院ニ提出スルモノトス

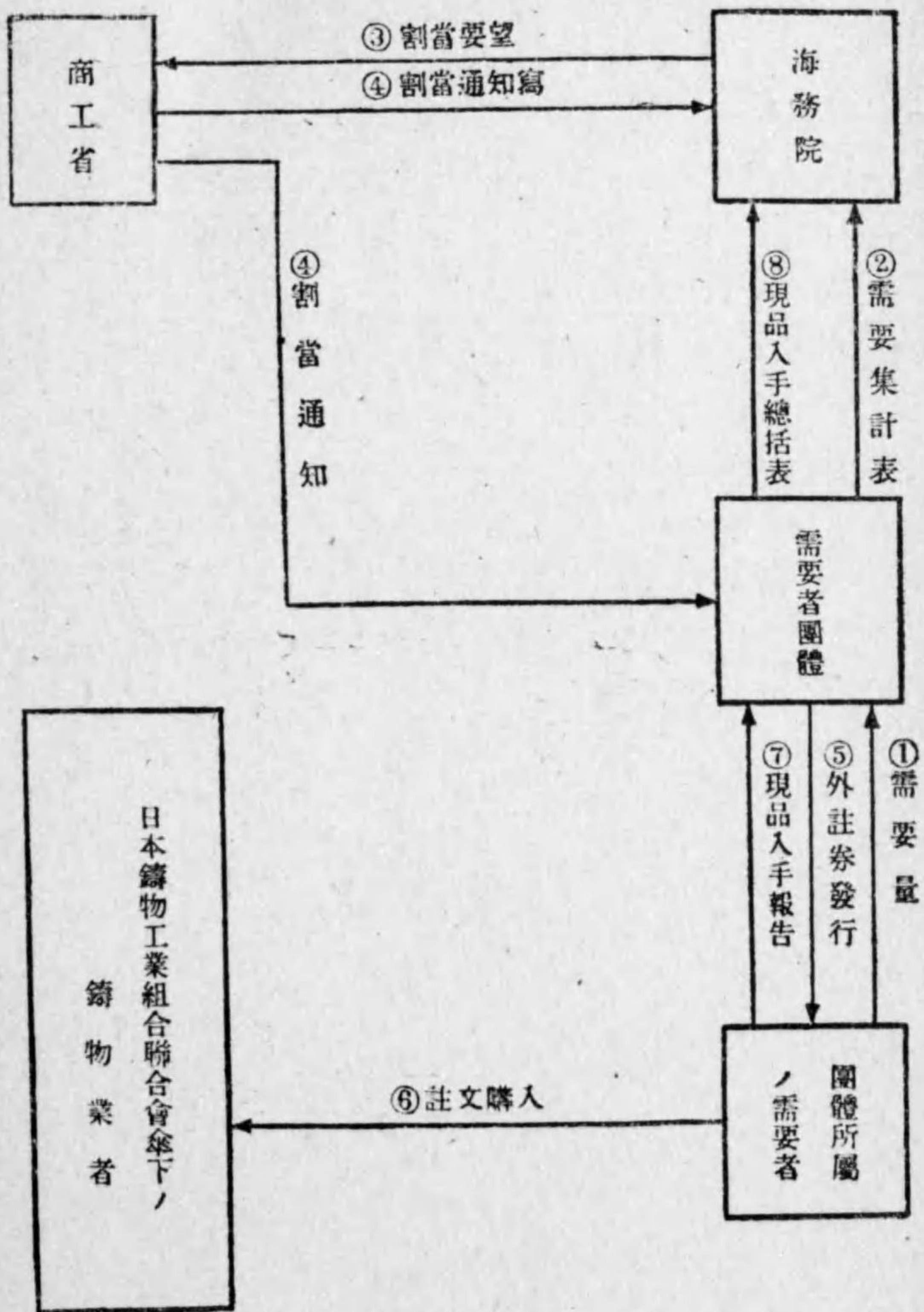
銑鐵需給要領圖解



三 海務院關係外註銑鐵鑄物需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル銑鐵鑄物ニシテ日本鑄物工業組合聯合會傘下ノ鑄物業者ニ外註スルモノ(以下外註鑄物ト稱ス)ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 需要者團體ハ每四半期外註鑄物ノ銑鐵需要量ヲ用途別需者別ニ調査シ當該四半期開始四ヶ月前迄ニ之ヲ海務院ニ報告スルモノトス
- 三 海務院ハ前號資料ニ基キ每四半期外註鑄物量ヲ需要者團體別ニ區分シ商工省ニ通知スルモノトス
- 四 需要者團體ハ商工省ヨリ外註鑄物量ノ割當通知ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示ニ基キ需要者ニ對シ之ガ割當ヲ行ヒ外註鑄物注文券(以下外註券ト稱ス)ヲ發行スルモノトス
- 五 需要者ハ前號ノ外註券ニ依リ其ノ有効期間内ニ於テ日本鑄物工業組合聯合會傘下ノ鑄物業者ニ鑄物ノ注文ヲナシ現品ヲ入手スルモノトス
- 六 需要者團體ハ需要者ヨリ每四半期ノ現品取得報告書ヲ徵シ之ガ總括表ヲ調製シ翌四半期初月十日迄ニ海務院ニ提出スルモノトス

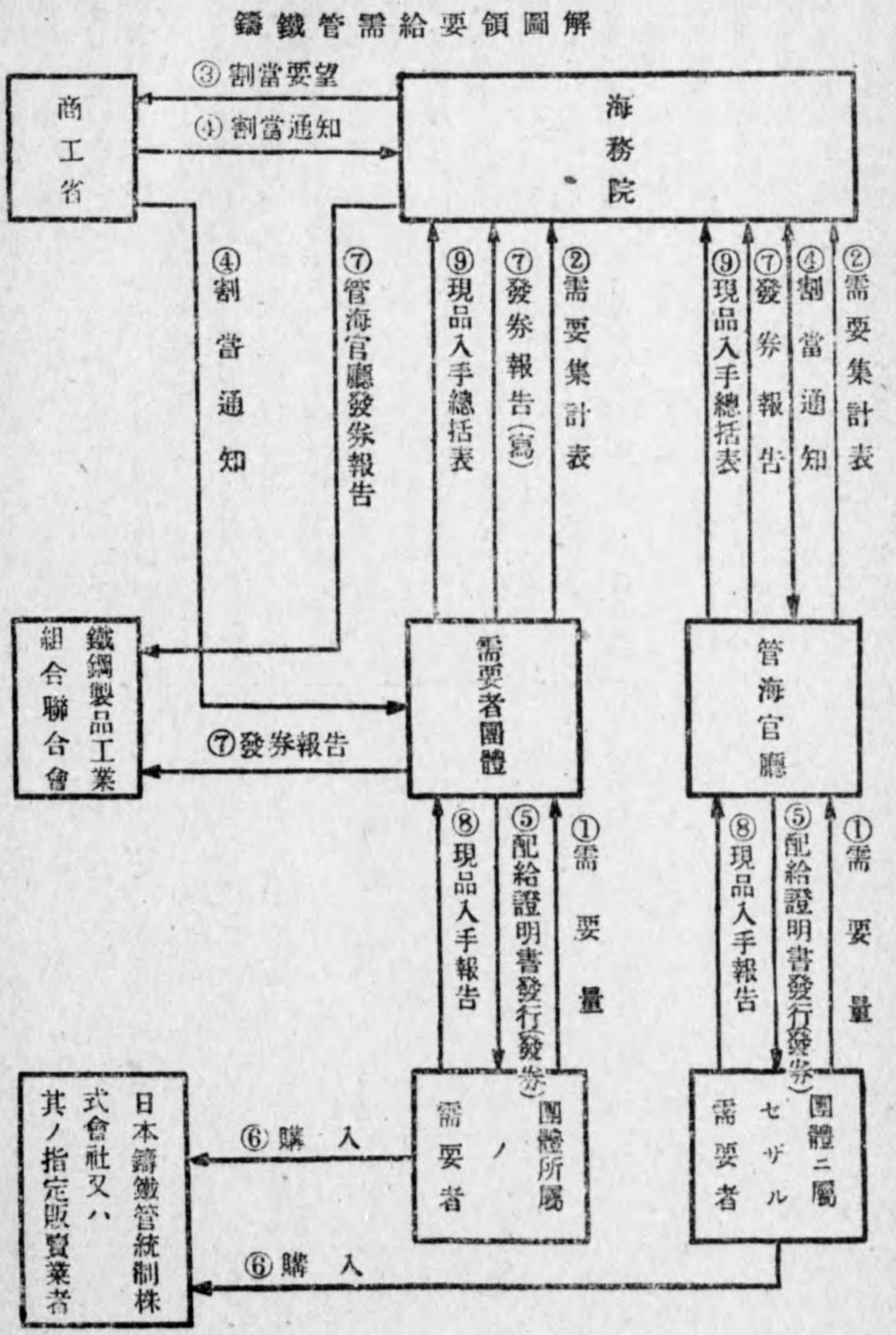
外註鉄鐵鑄物需給要領圖解



四 海務院關係鑄鐵管需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル鑄鐵管ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 管海官廳及需要者團體ハ毎四半期鑄鐵管ノ寸法別需要量ヲ用途別需要者別ニ調査シ當該四半期開始四ヶ月前迄ニ之ヲ海務院ニ報告スルモノトス
- 三 海務院ハ前號資料ニ基キ毎四半期鑄鐵管消費割當量ヲ管海官廳及需要者團體別ニ區分シ商工省ニ通知スルモノトス
- 四 海務院ハ商工省ヨリ管海官廳ニ於テ配給スベキ鑄鐵管消費割當量ノ通知アリタル時ハ管海官廳ニ之ガ割當ヲ行ヒ、管海官廳ハ之ニ依リ鑄鐵管配給證明書ヲ發行スルモノトス
- 五 需要者團體ハ商工省ヨリ鑄鐵管消費割當量ノ通知アリタル時ハ海務院ノ指示ニ基キ需要者ニ對シ之ガ割當ヲ行ヒ鑄鐵管配給證明書ヲ發行スルモノトス
- 六 需要者ハ第四號又ハ前號ノ鑄鐵管配給證明書ニ依リ日本鑄鐵管統制株式會社又ハ其ノ指定販賣業者ニ對シ配給申込ヲ爲シ現品ノ配給ヲ受クルモノトス
- 七 管海官廳及需要者團體ハ毎月二十日迄ニ前月中ニ於ケル鑄鐵管配給證明書發行數量ヲ記載シタル報告書ヲ鐵鋼製品工業組合聯合會ニ送付シ其ノ寫一通ヲ海務院ニ提出スルモノトス但シ管海官廳ヨリ鐵鋼製品工業組合聯合會ニ送付スル報告書ハ海務院ヲ經由スルモノトス

- 八 管海官廳及需要者團體ハ需要者ヨリ毎四半期ノ現品取得報告書ヲ徵シ之ガ總括表ヲ調製シ翌四半期初月二十日迄ニ海務院ニ提出スルモノトス



五、海務院關係鐵鋼品需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル鐵鋼品ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 鐵鋼品需要者(以下需要者ト稱ス)ハ四半期毎ニ鐵鋼品ノ製品別及用途別打放重量ヲ記載シタル發註豫定量調書(様式一)ヲ需要統制團體ニ送付シ需要統制團體ハ本調書及集計表(様式二)各二通ヲ當該四半期開始二ヶ月半前迄ニ海務院ニ提出スルモノトス
- 三 海務院ハ商工省ヨリ當該期ニ於ケル鐵鋼品ノ基準割當アリタルトキハ直チニ需要統制團體ヲシテ各需要者ニ割當セシムルモノトス
- 四 基準割當ヲ受ケタル需要者鐵鋼品ノ發註ヲ爲サントスル時ハ其都度鐵鋼品製造者(以下製造者ト稱ス)ト連名ニテ生産配給承認申請書正副二通ヲ作成シ需要統制團體ニ送付スルモノトス
- 五 需要統制團體ハ前號申請書ノ提出アリタルトキハ基準割當量ノ範圍内ニ於テ製造セラルベキ鐵鋼品ノ重要順位ヲ記入シ基準割當後四十五日内ニ其正本ヲ取纏メ鐵鋼品需給統制委員會(以下統制委員會ト稱ス)ニ送付シ副本ヲ需要者經由製造者ニ交付スルモノトス
- 六 需要者鐵鋼品ノ發註ヲ爲サントシ各製造者ニ引合ヒタルモ引受ナキトキハ鐵鋼品發註明細書ニ必要事項及希望スル

製造者名ヲ記載シ需要統制團體經由統制委員會ニ申請スルコトヲ得ルモノトス

- 七 統制委員會ニ於テハ第四號乃至第六號ニ依ル申請ニ對シテ之ガ生産承認ヲナスモノトス
- 八 統制委員會ハ生産承認ヲ爲シタルモノニ付テハ生産承認書ヲ所屬生産統制團體ヲ經由シ製造者ニ、配給證明書ヲ需要統制團體ヲ經由シ需要者ニ交付スルモノトス
- 九 需要者ハ配給證明書ニ必要事項ヲ記入シ製品ト引換ニ之ヲ製造者ニ交付スルモノトス
- 一〇 海難等ノ爲緊急需要ヲ生ジタル場合ニハ第二號及第三號ノ規定ニ拘ラズ海難報告書寫又ハ損傷ノ現狀等ヲ詳記シタル書面ニ受檢管海官廳ノ證明ヲ受ケ生産配給承認申請書又ハ鐵鋼品發註明細書ヲ添附ノ上直チニ第四號又ハ第六號ノ手續ヲ採ルモノトス
- 尙火急ノ際ニハ製造者ハ其契約成立ト共ニ第八號ノ生産承認書ノ交付ニ先チ鍛造ニ着手シ更ニ止ムヲ得ザル場合ニアリテハ配給證明書受領前ト雖モ製品ノ引渡ヲ爲シ得ルモノトス
- 一一 需要統制團體ハ各需要者ヨリ毎四半期毎ニ當該期ノ取得報告書ヲ徴シ之ヲ集計シ當該期翌月十五日迄ニ海務院並ニ統制委員會ニ提出スルモノトス

六 海務院關係鑄鋼品需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル鑄鋼ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 需要統制團體ハ每期ノ鑄鋼需要量ヲ當該期ノ一ヶ月前迄ニ海務院ニ提出スルモノトス
- 三 海務院ハ商工省ヨリ每期割當量ノ通知ヲ受ケタルトキハ次ノモノニ對シ割當ヲ爲スモノトス
 - (イ) 需要統制團體
 - (ロ) 其ノ他統制團體ニ屬セザルモノニシテ船舶用鑄鋼ヲ必要トスルモノ
- 四 需要統制團體ハ前號ノ割當ニ基キ海務院指示ノ下ニ需要者別割當ヲ行フモノトス
- 五 需要者ハ割當數量ノ範圍内ニ於テ鑄鋼配給承認書ヲ需要統制團體ニ提出シ之ガ證明ヲ受クルモノトス
- 六 統制團體ニ屬セザル船舶用鑄鋼需要者鑄鋼ノ配給ヲ受ケントスルトキハ所轄管海官廳ニ鑄鋼配給承認書(正一副)ヲ提出シ管海官廳ハ副本ヲ海務院ニ送付ノ上其ノ指示ヲ俟ツテ正本ニ證明ノ上交付スルモノトス
- 七 鑄鋼需要者ハ第五號及第六號ニ依リ配給承認書ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ正本ヲ製造業者ニ送付シ製造業者ハ之ニ依リ契約ノ納期迄ニ現品ヲ納入スルモノトス
- 八 需要統制團體ハ各需要者ヨリ毎四半期毎ニ當該期ノ取得報告書ヲ徴シ之ヲ集計シテ翌月十五日迄ニ海務院並ニ日本

鑄鋼協議會ニ送付スルモノトス

七 海務院關係特殊鋼需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル特殊鋼ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 前號ノ特殊鋼ノ生産確保ニ對シテハ海軍艦政本部之ニ當リ海務院ハ其配給ニ任ズルモノトス
- 三 需要統制團體ハ每四半期開始三ヶ月前迄ニ當該期各需要者別需要量調査書並ニ集計表ヲ海務院ニ提出スルモノトス
- 四 海務院ハ商工省ヨリ每期割當量ノ通知ヲ受ケタルトキハ需要統制團體ヲ指導シ需要者別割當量ヲ決定ノ上之ヲ海軍艦政本部ニ通知スルモノトス
- 五 海軍艦政本部ヨリ特殊鋼協議會ハ製作ノ提示アリタルトキハ海務院ニ需要者統制團體ヲシテ特殊鋼ノ引當表ヲ調製セシムルモノトス
- 六 需要者ハ需要統制團體ヨリ引當表ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ基キ直チニ購買契約ヲナシ需要統制團體ノ發行セル特殊鋼割當證明書ト引換ニ販賣業者ヨリ現品ヲ入手スルモノトス
- 八 海務院關係生産擴充外註機器需給要領
 - 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル造船所及製作所ニシテ總噸數五〇〇噸以上又ハ標準船F型以上ノ船舶ノ修理用及施設用機器並ニ船主ヨリ直接造船統制會々員以外ノ製作所ニ發註

スル修理用機器需給ニ關スルコトヲ定ム

- 二 設備用機器ハ臨時資金調整法及造船事業法ニ依リ許可ヲ受ケタル工場設備ニ使用スルモノニ限ルモノトス
- 金屬工作機械ハ其ノ設備ニ付豫メ當院ノ承認ヲ得タルモノナルコトヲ要シ精密機械統制會ニ屬スル製造者ニ發註スルモノニ限ルモノトス
- 三 發註者ハ機器製作所ト共ニ發註承認書下付ニ要スル發註承認書下付申請書及發註承認書正副捺作成ノ上社外註文機器資材調査表(別紙様式)ヲ添附シ所屬統制團體ヲ經テ造船統制會ニ提出スルモノトス
- 四 船主ヨリ製作所ニ直接發註ヲ爲スモノニ付テハ資材調査表餘白ニ所轄管海官廳ノ證明ヲ受ケ之ヲ前號ノ申請書類ニ添附シ當該期ノ五ヶ月前迄ニ直接海務院ニ提出スルモノトス
- 五 造船統制會ニ於テハ各統制團體ヨリ提出ノ發註承認申請書類ヲ取纏メ資材調査集計表添附ノ上當該期ノ五ヶ月前迄ニ海務院ニ提出スルモノトス
- 資材調査表及資材調査集計表ハ一般機器ト金屬工作機械トニ區別シテ作成スルモノトス
- 六 海務院ハ商工省ヨリ當該期ノ發註承認量ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ六〇%ヲ第一順位二〇%ヲ第二順位殘餘ヲ第三順位トシテ發註承認書ニ順位ヲ附シテ商工省宛送付シ正

本ニ捺印ヲ受ケ正本及副本ヲ造船統制會經由(第四號ノ場合ニハ直接)發註者ニ下付スルモノトス

七 發註者ハ副本ヲ控トシテ保有シ正本ヲ機器製作所ニ送付スルモノトス

八 發註承認書ノ發行量ハ當該期ノ鐵鋼推定割當量ノ概ネ二〇%増トナレル關係上當該期ニ於テ割當ニ至ラザリシ機器

ハ次期ニ於テ優先的ニ割當ヲ受クルモノトス

九 海務院關係非鐵金屬需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル電氣銅、錫、鉛、亞鉛、アンチモン、水銀及「カドミウム」ノ需要ニ關スルコトヲ定ム
- 二 需要者ハ夫々所屬需要統制團體ニ毎月ノ需要量ヲ申請シ需要者團體ハ之ニ對シ充分審査ヲ行ヒタル上綜合需要量調査ヲ作成シ當該月ノ二ヶ月前迄ニ日本金屬配給株式會社經由鑛山統制會配給部ニ送付スルモノトス
- 同部ハ之ニ基キ需要量一覽表ヲ作成シ海務院ニ提出スルモノトス
- 三 海務院ハ毎月物資動員計畫ニ依リ割當量決定シタルトキハ前號ノ各需要部門ニ對シ割當ヲナスモノトス
- 四 海務院ハ前號ノ割當表ヲ鑛山統制會配給部ニ送付シ其割當ニ從ヒ所定ノ手續ヲ經テ日本金屬配給株式會社及ビ其ノ

海務院關係船造修用資材並船用品需給要領

- 指定販賣業者ヲシテ現品ノ配給ヲナシムルモノトス
- 需要統制團體ハ各需要者ヨリ毎月ノ取得報告書ヲ徴シ之ヲ集計シテ翌月十五日迄ニ海務院並ニ日本金屬配給株式會社ニ提出スルモノトス

一〇 海務院關係船用鎖需給要領

- 一 本要領ニ於テ船用鎖トハ海務院ニ於テ管掌スル船舶ノ造修用並ニ内地ニ於テ需要スルモノニシテ船舶安全法ノ適用ヲ受クル既成船舶(官廳船、外地置籍船ヲ含ム)ニ使用スルモノヲ謂フ
- 二 海務院ニ於テハ前號ニ對スル割當額ヲ每四半期毎ニ左ノ二部ニ分チ割當ヲ行フモノトス
 - (イ) 各海務局及同支局 (以下單ニ管海官廳ト稱ス)
 - (ロ) 海務院船舶部留保品 (内外船應急用)
- 三 需要者ハ船用鎖ノ配給ヲ受ケントスル船舶毎ニ船用鎖配給申込書三通(正、副、控)ヲ作成シ當該船舶ノ主タル發着港又ハ當該船舶ヲ建造又ハ修理スル造船所ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スルモノトス
- 但シ己ムヲ得ザル事由アルトキハ他ノ管海官廳ニ提出スルコトヲ得ルモノトス
- 四 管海官廳ニ於テハ前號ニ依ル船用鎖配給申込書ヲ審査シ第二號(イ)ノ割當額ノ範圍内ニ於テ査定ノ上割當ヲナシ、之ニ證明ノ上正副二通ヲ需要者ニ交付シ需要者ハ之ヲ日本

徑(耗) 一 鏈ノ長サ (米) 本數 要急ノ事由
 昭和 年 月 日 住所
 申請者 氏名
 海務局(支局)御中
 右證明ス

一一 海務院關係鋼索需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並工場施設ニ使用スル鋼索ノ需給ニ關スルコトヲ定ム但シ造船業者ニ於テ裝備スベキ新造漁船以外ノ漁船用ヲ除クモノトス
- 二 海務院前號ノ割當ヲ受ケタルトキハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ四半期毎ニ左ノ四部ニ割當ヲナスモノトス
 - (イ) 海運組合法ニ依ル組合及之ニ準ズル團體
 - (ロ) 造船統制會
 - (ハ) 港灣運送業中央協議會
 - (ニ) 日本船用品統制株式會社(内外船應急用)
- 三 前號各團體ハ需要者ヨリ提出シタル要望書ニ基キ分割割當ヲナシ、是ニ相當スル要望書ヲ作成シ、規格別總括表ヲ添附シ海務院ノ證明ヲ得テ鋼索配給統制協議會(以下單ニ協議會ト稱ス)ニ一括送付スルモノトス
- 但シ前號(ニ)ニ掲記ノ日本船用品統制株式會社ハ割當ノ範圍内ニ於テ特定地區ノ船用品配給會社ニ割當ヲ爲シ、以下

海務院關係船造修用資材並船用品需給要領

五六〇

- 船用鎖工業組合ニ提出スルモノトス
- 五 日本船用鎖工業組合ハ每四半期終了後一ヶ月以内ニ當該期ニ於ケル管海官廳別配給實績ヲ海務院ニ報告スルモノトス
- 六 第二號(ロ)ノ海務院留保品ハ日本船用品統制株式會社ニ於テ、船用鎖配給申込書ニ依リ日本船用鎖工業組合ニ發註シ其ノ製品ヲ特定ノ配給會社ニ保管シ是ガ取扱ハ左ノ通りトス
 - (イ) 需要者ハ現品ヲ購入セントスル地區ノ配給會社ト連絡ノ上別添様式ノ船用鎖配給證明願ニ最寄管海官廳ノ證明ヲ受ケ之ヲ前記地區ノ配給會社ニ提出シ現品ヲ購入スルコト
 - (ロ) 地區配給會社ハ各月末現在ニテ當月中ノ配給數量、在庫數量(各徑別)ヲ翌月五日迄ニ最寄管海官廳及日本船用品統制株式會社ニ報告シ同會社ハ同月十日迄ニ海務院ニ之ヲ一括報告スルコト
 - (ハ) 地區配給會社ハ(イ)ニ依ルニ非ザレバ船用鎖ヲ販賣スルコトヲ得ザルコト

船用鎖配給證明願

左記ノ船用鎖 船 丸 運航上要急ノモノニ
 ツキ 船用品配給會社ノ保管品ヨリ配給相受度特ニ緊急裝備ノ要アルコトヲ御證明被下度及御願候

- 前號ノ手續ヲ準用シテ處理スルモノトス
- 前記ノ要望書ハ其都度直チニ海務院ニ提出スルモノトス
- 四 鋼索配給統制要綱ノ六ニ依リ承認書ノ交付ヲ受ケタル需要者ハ承認書發行ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ承認書指定ノ鋼索製造業者又ハ配給業者ヲ經テ鋼索製造業者ニ提出シ鋼索ノ配給ヲ受クルモノトス
- 五 需要者、承認書ニ依リ鋼索ヲ購入シタルトキハ遲滞ナク所屬團體ニ其ノ規格別數量ヲ報告スルモノトス
- 六 各團體ハ前號ニ依ル報告ヲ各四半期毎ニ取纏メ次期第一月ノ末日迄ニ海務院ニ報告スルモノトス
- 七 第一號(ニ)ノ日本船用品統制株式會社割當ノ分ハ特定ノ船用品配給會社ニ於テ保管シ是ガ取扱ハ左ノ通りトス
 - (イ) 需要者ハ現品ヲ購入セントスル地區配給會社ト連絡ノ上、別添様式ノ鋼索配給證明願ニ最寄管海官廳ノ證明ヲ受ケ是ヲ前記地區配給會社ニ提出シ現品ヲ購入スルコト
 - (ロ) 地區配給會社ハ各月末現在ニテ當月中ノ配給數量、在庫數量(各規格別)ヲ日本船用品統制株式會社ニ報告シ同會社ハ翌月十日迄ニ海務院ニ是ヲ報告スルコト
 - (ハ) 地區配給會社ハ(イ)ニ依ルニ非ザレバ鋼索ヲ販賣スルコトヲ得ザルコト

保管鋼索配給證明願

左記ノ鋼索 船

丸運航上又ハ荷役上要急ノモノニツキ

船用品配給會社ノ保管品ヨリ配給相受度特ニ緊急裝備

ノ要アルコトヲ御證明相成度候

構造 徑(耗) 丸數

製品重量(斤) 用途

昭和 年 月 日

住所

申請者 氏名

海務局(支局)御中

右證明ス

昭和 年 月 日

海務局(支局)印

一二 海務院關係國產材需給要領

一 本要領ハ海務院ニ於テ掌管スル船舶ノ造修用並ニ工場施設用ニ要スル國產材(差當リ北海道材、内地材トス)ノ需給ニ關スルコトヲ定ム

但シ海務院必要アリト認ムルトキハ船舶用外註品(船内調度品、艤裝品等)ノ製作ニ必要ナル國產材ノ需給ニ付本要領ヲ適用ス

二 海務院ハ各年度造船計畫ニ即應スル國產材ノ樹種別所要量ヲ農林省ニ通知スルモノトス

三 海務院、農林省ヨリ各年度ノ造船用材配給計畫數量ノ割當通知ヲ受ケタルトキハ是ヲ需要者統制團體(以下統制團

體ト稱ス)ニ一括割當ヲナスモノトス

統制團體ハ各需要者ニ分割割當ヲナス是ヲ需要者ニ通知ス

ルト共ニ、需要者別割當明細表(二通)ヲ前項ノ通知ヲ受ケタル後一月以内ニ海務院ニ提出スルモノトス

但シ所屬ノ統制團體ナキ需要者ニ對シテハ直接海務院ニ於テ是ガ配分ヲ定ムルモノトス

四 海務院必要アリト認ムルトキハ第三號ノ各年度割當數量ノ配分ニツキ統制團體ヲシテ之ガ變更ヲナサシメ又ハ割當數量ノ一部ノ配分ヲ後期ニ延期セシメテ需給ノ調製ヲ圖ルモノトス

統制團體、割當配分決定シタルトキハ直ニ前號ニ準ズル處理ヲナスモノトス

五 海務院ハ需要者別割當明細表(一通)ヲ農林省ニ送付シ日本木材株式會社ハ同割當明細表ニ基ク農林省ヨリノ生産並ニ配給指令ニ依リ造船用材ノ優先的配給ヲ行フモノトス

六 需要者ハ割當數量ニ從ツテ日本木材株式會社ニ對シ材質規格、納期、納入場所ヲ指定シテ發註ヲナスモノトス

備考

本要領ハ農林省ニ於テ定ムル軍需特殊材並ニ造船車輛用材集荷配給要領ニ基キ設定シタルモノニシテ本要領ニ定メナキ事項ハ同要領ニ依ルモノトス

參照 (農林省制定)

昭和十七年度

軍需特殊材並ニ造船、車輛用材集荷配給要綱

第一方 針

軍需特殊材並ニ造船、車輛用材ノ供出ヲ確保シ價格ノ公正ヲ圖ル爲差當リ(地方木材株式會社ノ機構ヲ實ヲ見ル迄)日本木材株式會社及地方木材株式會社又ハ府縣一圓ヲ區域トスル府縣木材株式會社(府縣一圓ヲ區域トスル木材株式會社ノ結成ヲ見ザル府縣ニ在リテハ府縣木材會社聯合會)ヲ以テ集荷配給機構ヲ樹立セントス

第二要 領

本方針實施ノ機構大要左ノ通トス

一 地方木材株式會社又ハ府縣一圓ヲ區域トスル府縣木材株式會社(以下道府縣本社ト稱ス)ノ設立ヲ了シタル道府縣ニ在リテハ、軍需特殊材並ニ造船、車輛用材配給組合ハ速カニ之ヲ解消シテ、道府縣本社ノ特殊材部ヲ構成シ、府縣一圓ヲ區域トスル府縣本社ノ設立ヲ見ザル府縣ニ在リテハ府縣木材會社聯合會(以下府縣本社ト稱ス)ノ特殊材部ナルモノトス

二 政府ハ道府縣ニ對シ軍需特殊材並ニ造船、車輛用材ノ生産割當ヲ行フモノトス

右ノ生産割當ハ道府縣ヲ通ジ道府縣本社又ハ府縣本社ニ之ヲ行ヒ各需要者軍ノ指定シタル民間受註工場ヲ含ム(以下同斷)ノ配分ヲ指示シテ日本木材株式會社 以下日本本社ト稱ス)及需要者ニ對シ通知ヲ爲スモノトス

三 軍需用資材及一般船舶車輛用材ニ付テハ左ノ通トス

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

(一) 需要者ハ二ノ割當數量ニ從ツテ日本本社ニ對シ材質、規格、納期及納入箇所ヲ指定シテ發註ヲ爲スモノトシ右ノ發註ニ先ダテ豫メ需要見込量ノ概數ヲ日本本社ニ通知シ置クモノトス

(二) 日本本社ハ各需要者ヨリノ發註ヲ受ケ二ノ割當數量ノ範圍内ニ於テ國有林、御料林及道府縣本社(府縣本社ト稱ス)以下同斷)ヨリ集荷ヲ爲スモノトシ豫メ(一)ノ需要見込ニ基キ常ニ用途適材ノ相當量ヲ貯藏シ置クモノトス

(三) 日本本社ハ國有林、御料林及道府縣本社ヨリ集荷シタル材ヲ夫々生産地發驛ホーム渡價格ヲ以テ買取ルモノトス

(四) 日本本社ハ其ノ買取リタル材ヲ自ら需要者ノ指定シタル箇所ニ納入スルモノトシ發驛ヨリ指定箇所ヘノ納入ハ需要地所屬ノ道府縣本社ニ委託スルモノトス

(五) 日本本社ハ需要地道府縣本社ノ受領通知ニ基キ出材地ノ道府縣本社ニ對シ當該代金ノ支拂ヲ爲スト共ニ引渡箇所所屬地區ノ最終販賣價格又ハ右ノ生産地發驛ヨリ納入指定箇所ニ至ル輸送費及納入諸經費並ニ左ノ手数料ヲ加算シタル額ヲ以テ需要者トノ間ニ代金ノ精算ヲ行フモノトス

日 本 本 社 三%以内

需要地道府縣本社 5%以内

(六) 需要地道府縣本社ハ(四)ニ依リ日本本社ヨリ委託セラレタル事業ヲ實行スルト共ニ生産地發驛ヨリ納入指定箇所ニ至ル輸送費及納入諸經費(手数料5%以内ヲ含ム)ニ付日本本社トノ間ニ於テ精算ヲ行フモノトス

様式(一)

昭和 年度第 四半期外材需要量總括表		統制團體名	
希 揚 地 別	需 要 量 (立方米)	南 洋 材	「チー ク」材
京 阪 神 濱			
名 古 屋			
計			

様式(三)

材割當證明書

使用者名
有効期間
數量
右
ナルコトヲ證明ス

自昭和 年 月 日
至昭和 年 月 日
立方米

材ハ昭和 年度第 四半期割當數量ノ範圍内ノモノ
シテ

一四 海務院關係「セメント」需給要領

統制團體

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並工場施設ニ使用スル「セメント」ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 海務院ハ毎四半期需要量(月別並ニ地區別ニ分ツ以下同ジ)ヲ當該四半期ノ一ヶ月前迄ニ需要統制團體ヲ經テ調査スルモノトス
- 三 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタルトキハ需要統制團體ヲ指導シテ需要者別割當量ヲ決定スルモノトス
- 四 海務院ハ前號ニ依リ決定シタル割當表ヲ需要統制團體及「セメント」共販株式會社ニ送付シ需要統制團體ハ夫々各需要者ニ其割當量ヲ通知スルモノトス
- 五 前項ノ通知ヲ受ケタル需要者ハ指定ノ「セメント」共販株式會社支店又ハ出張所ニ於テ「セメント」割當證明書ヲ交付ヲ受ケ指定「セメント」販賣業者ヨリ現品ノ配給ヲ受ケタルモノトス
- 五 需要統制團體ハ各需要者ヨリ前月ノ取得報告書ヲ徴シ之ヲ集計シテ毎月十日迄ニ海務院並ニ「セメント」共販株式會社ニ送付スルモノトス
- 一五 海務院關係「カーバイド」需給要領
- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並工場施設ニ使用スル「カーバイド」ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其

ノ數量ノ範圍内ニ於テ左ニ割當ヲナスモノトス

- (イ) 造船統制會
- (ロ) 造船統制會々員以外ノモノニシテ「カーバイド」ヲ必要トスルモノ
- 三 前號(イ)ノ割當ハ左ニ依ルモノトス
- (イ) 造船統制會ハ其ノ割當數量ノ範圍内ニ於テ其ノ需要者ニ對シ割當ヲ行ヒ海務院ノ審査ヲ受ケタル上割當證明書ヲ發行スルコト
- (ロ) 造船統制會ハ前項ノ割當ヲナシタル時ハ「カーバイド」共販株式會社ニ對シ府縣別割當表ヲ送付スルコト
- (ハ) 需要者ハ割當證明書ノ交付ヲ受ケタル時ハ所定ノ販賣業者ニ之ヲ提出シ現品ヲ購入スルコト
- 四 第二號(ロ)ノ割當ハ左ニ依ルモノトス
- (イ) 海務院(支局ヲ含ム以下同ジ)ハ毎四半期ノ前月十日迄ニ其ノ期ニ於ケル「カーバイド」ノ月別府縣別需要量ヲ調査シ之ヲ所定ノ様式ニ依リ海務院ニ報告スルコト
- (ロ) 海務院ハ前號ノ報告ニ基キ海務院ニ對シ府縣別割當ヲナスト共ニ之ヲ「カーバイド」共販株式會社ニ通知スルコト
- (ハ) 海務院ハ前號ニヨル割當ヲ受ケタル時ハ遲滞ナク需要者ニ對シ之ガ割當ヲ爲スト共ニ割當先別割當數量報告書(正副二通)及總括表ヲ作成シ海務院ニ報告スルコト

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

- 前項ノ報告書ニハ「カーバイド」割當證明書ノ發行記號番號ヲ記入スルコト
- (ニ) 海務院ハ前號ニ依ル報告書ノ副ヲ造船統制會ニ送付スルコト
 - (ホ) 造船統制會ハ報告書ノ送付ヲ受ケタル時ハ遲滞ナク「カーバイド」割當證明書ヲ作成シ之ヲ直接海務院ニ送付スルコト
 - (ハ) 海務院ハ「カーバイド」割當證明書ニ發行記號番號等ヲ記入シ之ヲ需要者ニ交付スルコト
 - (ト) 需要者ハ「カーバイド」割當證明書ノ交付ヲ受ケタル時ハ所定ノ販賣業者ニ之ヲ提出シ現品ヲ購入スルコト
 - 五 造船統制會ハ使用済ノ「カーバイド」割當證明書ト割當先別割當數量報告書トヲ對照シ之ヲ整理保管スルモノトス
 - 一六 海務院關係石綿需給要領
 - 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修及工場施設ニ使用スル石綿並ニ船主ニ於テ運航船ノ補修用トシテ必要ナル石綿ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
 - 二 前號ノ石綿ノ需要者ハ、四半期毎ニ、各四半期ノ前月末日迄ニ石綿製品需要書(正副二通)ニ別紙様式(一)ノ石綿製品需要量一覽表(以下單ニ一覽表ト稱ス)ニ通テ添へ需要者統制團體(以下單ニ統制團體ト稱ス)ニ提出スルモノトス
 - 三 統制團體ハ前號ノ石綿製品需要書ニ基キ別紙(二)ノ石綿

- 製品需要量總括表(以下單ニ總括表ト稱ス)ヲ作成シ、各四半期ノ前月十五日迄ニ海務院ニ提出スルモノトス
- 四 海務院ハ商工省ヨリ各四半期原料(高級石綿、普通石綿)割當ヲ受ケタルトキハ前號總括表ヲ審査ノ上統制團體ニ分割割當ヲナスモノトス
- 五 統制團體ハ前號ノ團體宛割當額ノ範圍内ニ於テ需要書別ニ査定割當ヲナシタル上割當ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ需要書各三通(正一副一)ニ別紙様式(三)ノ原料割當明細表ニ通ヲ作成シ之ト共ニ海務院ニ提出スルモノトス
- 尙統制團體ハ同時ニ需要者別ニ割當量ヲ一覽表ニ記入ノ上需要者ニ之ヲ返戻スルモノトス
- 六 海務院ハ需要書、原料割當明細表ヲ受ケタルトキハ審査ノ上商工省ニ送付スルモノトス
- 七 日本石綿製品工業組合ハ商工省ヨリノ配給指令ニ依リ前號ノ石綿製品需要書ニ付キ所要原料石綿ノ品種別數量ヲ算定シ製造業者ニ對シ原料ノ配給ヲ行フモノトス
- 八 需要者ハ統制團體ヨリ送付アリタル査定濟一覽表ニ依リ日本石綿製品工業組合ニ屬スル製造業者(受註者)ヨリ現品ヲ入手スルモノトス

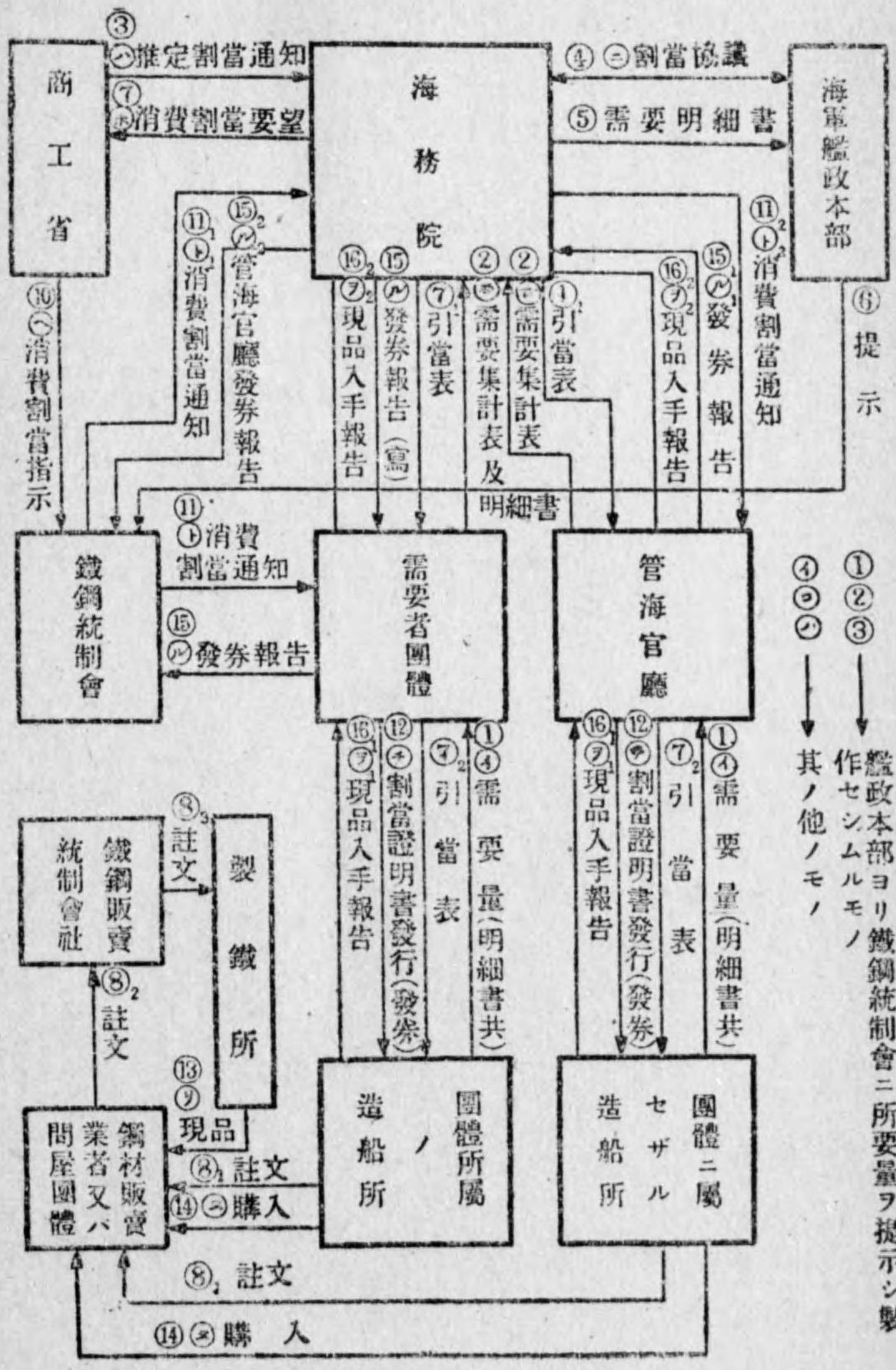
一七 海務院關係壓延鋼材需給事務過渡的處理要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並ニ工場施設ニ使用スル普通鋼壓延鋼材(以下鋼材ト稱ス)ノ需給ニ關シ正規ノ手續ヲ實施スル迄ノ過渡的處理ヲ定ム
- 二 鋼材ハ之ヲ海軍艦政本部ヨリ鐵鋼統制會ニ所要量ヲ提示シ製作セシムルモノト其ノ他ノモノトニ區分シ其ノ他ノモノハ鐵鋼需給計畫化實施要領ニ依ル一般需要トシテ處理スルモノトス
- 三 管海官廳及需要者團體ハ每四半期鋼材需要量ヲ需要者別用途別(鋼船ノ新造用ニ付テハ各船別)ニ調査シ當該四半期開始五ヶ月前迄ニ海務院ニ報告スルモノトス
- 前項ノ鋼材中豫メ品種寸法別需要量ヲ調査シ得ルモノニシテ海軍艦政本部ヨリ鐵鋼統制會ニ其ノ數量ヲ提示シ製作セシムベキモノニ付テハ其ノ品種寸法別明細書四通ヲ添付スルモノトス
- 四 海務院ハ每四半期鋼材ノ推定割當量決定シタル時ハ前號ノ需要量ヲ査定シ割當ヲ決定スルモノトス
- 海軍艦政本部ヨリ所要量ヲ提示シ製作セシムベキ鋼材ニ付テハ品種寸法別明細書二通ヲ海軍艦政本部ニ送付スルト共ニ其ノ引當表ヲ製作シ管海官廳又ハ需要者團體ヲ經由造船所(船舶用機關、補機又ハ艤裝品ノ製造所ニシテ造船統制會所屬ノモノ及海務院ノ指定セルモノヲ含ム以下同ジ)ニ通知スルモノトス

- 造船所ハ前項ノ引當表ニ依リ鋼材ノ販賣業者又ハ問屋團體ヲ通ジ鐵鋼販賣統制會社ニ注文申込ヲナスモノトス
- 五 海務院ハ每四半期鋼材ノ消費割當量決定シタル時ハ之ヲ管海官廳及需要者團體別ニ區分シ商工省ニ通知スルモノトス
- 六 海務院ハ鐵鋼統制會ヨリ管海官廳ニ於テ配給スベキ鋼材消費割當量ノ通知アリタル時ハ管海官廳ニ之ガ割當ヲ行ヒ管海官廳ハ之ニ依リ鐵鋼割當證明書ヲ發行シ、需要者團體ハ鐵鋼統制會ヨリ鋼材消費割當通知ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示ニ基キ鐵鋼割當證明書ヲ發行スルモノトス
- 鐵鋼割當證明書ノ交付ヲ受ケタル造船所ハ左ノ各號ニ依リ鋼材ヲ入手スルモノトス
- (イ) 海軍艦政本部ヨリ鐵鋼統制會ニ所要量ヲ提示シ製作セシムル鋼材ニ付テハ曩ニ注文申込ヲナシタル鋼材販賣業者又ハ問屋團體ニ鐵鋼割當證明書ヲ提示シ現品ヲ購入スルコト
- (ロ) 其ノ他ノ鋼材ニ付テハ鋼材販賣業者ニ鐵鋼割當證明書ヲ提示シ所謂店賣品ヲ購入スルコト
- 海軍艦政本部ノ指定セル造船所ニ對スル鐵鋼割當證明書ノ取扱ニ關シテハ海軍艦政本部ノ定ムル所ニ依ルモノトス
- 七 管海官廳及需要者團體ハ毎月十五日迄ニ前月中ニ發行シタル鐵鋼割當證明書ニ定ムル鐵鋼ノ種類別數量ヲ記載シタ

- ル報告書ヲ鐵鋼統制會ニ送付シ其ノ寫一通ヲ海務院ニ提出スルモノトス但シ管海官廳ヨリ鐵鋼統制會ニ送付スル報告書ハ海務院ヲ經由スルモノトス
- 八 造船所ハ毎月引取タル鋼材ニ付用途別(新造用ニ在リテハ各船別)品種寸法別ニ調書ヲ製作シ翌月十五日迄ニ管海官廳又ハ需要者團體經由海務院ニ提出スルモノトス

壓延鋼材需給事務過渡的處理要領圖解



海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領 (其ノ二) (昭和十七年四月)

目次

- 一、マニラ索需給要領
 - 二、綿帆布需給要領
 - 三、布ホース需給要領
 - 四、故織維需給要領
 - 五、綿索需給要領
 - 六、旗需給要領
 - 七、屑綿絲製品需給要領
 - 八、毛布需給要領
 - 九、船内裝備用織維製品需給要領
 - 一〇、救命器具需給要領
 - 一一、發火信號器需給要領
 - 一二、スコップ需給要領
 - 一三、携帶電燈並同乾電池需給要領
 - 一四、鐵鋼雜品類需給要領
 - 一五、船舶用特殊林産製品需給要領
 - 一六、船舶用雜品類需給要領
- 一 海務院關係マニラ索需給要領
- 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修用工場用並荷役用ニ
- 海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

使用スルマニラ索ノ需給ニ關スルコトヲ定ム但シ官廳所有船及漁船ノ補修用ヲ除クモノトス

二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ品種、數量及地區別配給數量ヲ決定シ日本船用品統制株式會社(以下船用品會社ト稱ス)及日本マニラ麻網株式會社ニ對シ通知スルモノトス

三 船用品會社ハ前號ノ通知ヲ受ケタル時ハ日本マニラ麻網株式會社ヨリ該製品ヲ一括購入ノ上地方船用品配給會社ヲシテ之ガ保管ヲ爲サシムルモノトス

四 マニラ索ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行シタル船舶用マニラ索手帳(以下手帳ト稱ス)ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス

五 地方船用品配給會社ハ手帳ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示シタル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス

六 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル品種、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附則

一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶造修用工場用並荷役用」トハ甲造船計畫ニ屬スル船舶用並海軍管理工場(海軍管理工場以外ノ工場中海軍ヨリ直接軍需品ノ造修ヲ命ジツツアル重要工場ヲ含ム)ニ於ケル船舶ノ造修用以外ノ船舶造修用工場用並荷役用ヲ指スモノトス

- 二 要領第四號ニ依ル手帳ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
- (イ) 日本海運協會、近海汽船協會及全國機帆船海運組合聯合會所屬船舶並ニ全國沿岸タンク船海運組合所屬機帆船ニ對スル手帳ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
- (ロ) 日本港運業會及全國沿岸タンク船海運組合所屬會員ニ對スル手帳ハ會員毎ニ當該協議會ニ於テ發給スルコト
- (ハ) 造船統制會所屬會員ニ對スル手帳ハ造船所ノ設備用マニラ索ノ購入手帖トシ當該團體ニ於テ工場毎ニ發給スルコト
- (ニ) 前項ノ造船所ニ於テ建造スル船舶(漁船ヲ除ク)ニ對スル手帖ハ各船毎ニ造船統制會ニ於テ當該造船所ニ發給スルコト
- 前項新造船ノ手帖ハ竣工後ト雖モ其ノ儘該船ノ手帖トシテ使用スルコト但シ竣工後ハ遲滯ナク海運團體ニ加入ノ上該組合ノ捺印ヲ受クルコト
- 海運團體ハ前項但書ニ依リ新造船手帖ニ捺印シタル時ハ遲滯ナク手帖番號、船舶所有者名、船種、船名、總噸數及前手帖番號、造船所名、造船番號ヲ海務院ニ通知スルコト
- 三 前號手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
- (イ) 團體ハ其ノ加盟者ニ對シ手帖ヲ交付セントスルトキハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受クルコト
- (ロ) 團體ハ前項ノ手續ヲ取りタル時ハ手帖番號、船舶所

- 有者名、船種、船名、總噸數、造船所名又ハ荷役業者名ヲ記入シタル名簿ヲ海務院ニ提出スルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻スルモノトス
- 前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メノ上海務院ニ報告スルモノトス
- 五 本要領ハ即日之ヲ實施ス
- 六 緊急處置ニ依ル船舶用マニラ索配給要領(昭和十六年七月十四日附資第九六三號通牒)並同一部改正要領(昭和十六年十月二十四日附資第一七四四號通牒)ハ之ヲ廢止ス但シ同要領ニ依ル手帖ハ新造船及使用濟トナリタルモノノ他之ヲ繼續使用スルモノトス
- 七 船舶用マニラ索用途制限ニ關スル件(昭和十六年七月十一日附資第九五九號通牒)ハ之ヲ繼續實施ス
- 八 海運組合法ニ依ル組合ニ加入スル資格ナキ船舶ニ對スルマニラ索配給ニ關スル件(昭和十六年九月十二日附資第一四四六號通牒)ハ別紙ノ通り字句訂正ノ上之ヲ繼續實施ス
- 九 船舶用マニラ索手帖交付ニ關スル件(新造船船用マニラ索配給ニ關スル件)(昭和十六年十月七日附資第一六五四號通牒)ハ別紙ノ通り字句訂正ノ上之ヲ繼續實施ス
- 一〇 船舶用マニラ索ノ故索取扱ニ關スル件(昭和十六年十一月二十七日附資第一九六二號通牒)ハ別紙ノ通り字句訂

正ノ上之ヲ繼續實施ス
資第九五九號

昭和十六年七月十一日(昭和十七年七月二十日改正)

海務院

船舶用マニラ索用途制限ニ關スル件

現下ノ複雜機微ナル國際情勢下ニ於ケル船舶用マニラ索ノ供給ニ鑑ミ使用ヲ極力節約シ以テ利用ノ適切有效ナル措置ヲ爲スコトハ喫緊事ナルニ付今般用途ヲ別表ノ通制限シ船舶ノ圓滑ナル運航ヲ期スルコトト相成候條左記事項留意ノ上之ガ實施ニ付テハ貴會々員ニ對シ周知ノ上萬遺漏ナキ措置相煩度候

記

- 一、用途表中一等品マニラ索ヲ使用シ得ル品目ト雖モ二等品以下ノマニラ索又ハ他ノ索類ニテ賄ヒ得ル場所ニ付テハ極力一等品マニラ索ノ使用ヲ避クルコト
- 二等品以下ノマニラ索ニ付テモ前項ト同一趣旨ニテ取扱フコト
- 二、本用途制限ハ新規使用ノモノニ付適用シ昭和十六年七月九日ヨリ之ヲ實施ス
- 船舶用マニラ索用途表

(海務院船舶部)

一等品マニラ索

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

- 總噸數八〇噸以上船舶用繫船索
- 曳 索
- 端艇揚卸索
- 舷梯揚卸索
- 大 錨 索
- 足場板吊索
- 入渠船捲込索
- 貨物及重量物揚卸索
- 荷役用番吊手用索
- デリックブーム支索
- 總噸數一五〇噸以上船舶用艙口覆布抑索
- 總噸數一〇〇噸以上純帆船張帆用索
- 二等品マニラ索
- 甲板積貨物緊縛用
- 總噸數一五〇噸以下船舶用艙口覆布抑索
- 總噸數八〇噸以下船舶用繫船索
- 投 網
- 網 梯 子
- 碇泊燈揚卸索
- 三等品マニラ索
- 端艇緊縛用索
- ウインドセル揚卸索

救命索

入渠船支木釣網

總噸數一〇〇噸以下純帆船張帆用索

三等品マニラ索又ハ代用品

オーニング用索

甲板置箱物緊縛用索

フエンダー

荷役用舂中編用索

資第一四四六號

昭和十六年九月十六日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院船舶部

海運組合法ニ依ル組合ニ加入スル資格ナキ

船舶ニ對スルマニラ索配給ニ關スル件

頭書ニ該當スル船舶中日本海運協會近海汽船協會所屬船會社

所有ニ係ル曳船足船等ニシテ營利ヲ目的トセザル船舶ニ對シ

左記ニヨリマニラ索ヲ配給致スコトト相成候條可然處理相成

度

追テ造船所所有ニ係ル曳船足船等ニ付テハ該造船所ノ設備

用トシテ處理相成度

記

一、管海管廳ニ於テ表記該當船舶ヨリマニラ索配給ノ申出

アリタル時ハ其ノ船主名、船名、總噸數及船舶ノ用途ヲ

海務院ニ通報スルコト

二、船務院ハ前號ノ通報ヲ受ケタル時ハ手帖表面ニ船名及

所有者名ヲ記入シ該管海官廳ニ送付ス

三、前號ノ送付ヲ受ケタル管海官廳ハ手帖表面所屬團體名

印欄ニ官廳名ヲ記入シ手帖番號ハ當該官廳ニ於テ發行セ

ル番號ヲ記入捺印ノ上船舶所有者ニ交付スルコト

四、手帖ヲ交付セル時ハ遲滞ナク需給要領附則第三號(ロ)

ニ準シ海務院ニ報告スルコト

資第一六五四號

昭和十六年十月十日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院

船舶用マニラ索手帖交付ニ關スル件

造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ建造スル新造漁船ノ運航用マ

ニラ索ニシテ從來ノ慣例ニ依リ造船所ニテ裝備ヲ引受ケタル

マニラ索ノ配給ニ關シテハ今般左記ニ依リ處理スルコトト相

成候條了知相成度

追テ日本船用品統制株式會社ニ對シテハ別紙寫ノ通牒致

置候條爲念

記

一、造船統制會ハ其ノ所屬ノ造船所ヨリ新造漁船用マニラ

索ノ配給申出アリタル時ハ第二號ニ依リマニラ索手帖作

成ノ上之ヲ當該造船所ニ交付スルコト

本新造漁船用手帖ハ造船所備付トスルコト

二、前號ニ依リ手帖ヲ交付セントスルトキハ手帖表面ニ新

造漁船用ト朱書シ海務院ノ證印ヲ受クルコト

三、手帖ヲ交付シタルトキハ遲滞ナク需給要領附則第三號

(ロ)ニ準シ海務院ニ報告スルコト

四、第一號ノ手帖ニ依リ配給スベキマニラ索ハ擔當検査官

ノ證明ヲ付與シタルモノナルコト

右證明ハ、手帖ニ検査官ノ證印ヲ捺捺ノ方法ニ依ルコト

資第一六五四號

昭和十六年十月十日 (昭和十七年七月二十日改正)

日本船用品統制株式會社

海務院

船舶用マニラ索手帖交付ニ關スル件

造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ新造漁船ノ運航用マニラ索ニ

シテ從來ノ慣例ニヨリ造船所ニテ裝備ヲ引受ケタルマニラ索

配給ニ關シテハ今般左記ニ依リ措置スルコトト相成候條地方

配給會社ニ周知ノ上之ヲ取扱ニ付テハ遺憾ナキ様配意相成度

記

一、造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ漁船ニ裝備スベキマニ

ラ索配給ノ申出アリタルトキハ造船統制會ヨリ交付ノ新

造漁船用ト朱書セルマニラ索手帖ニ依ルコト

二、前號ノ手帖ニ依リマニラ索ヲ販賣セントスルトキハ新

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

造船船ノ擔當検査官ノ證明(證印)ヲ要スルモノナルコト

資第一九六二號

昭和十六年十一月二十七日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院

船舶用マニラ索ノ故索取扱ニ關スル件

頭書ノ件ニ關シ今般別紙船舶用故マニラ索取扱要領ニヨリ來

ル十一月二十五日ヨリ實施致スコトト相成候條了知相成度

船舶用故マニラ索取扱要領

一、日本船用品統制株式會社所屬ノ地方船用品配給會社ハ

當該船舶ニ於テ使用シタル故マニラ索ノ引換讓渡ヲ受ク

ルニ非ザレバマニラ索ヲ販賣スルコトヲ得ザルモノトス

但シ新造船用及止ムヲ得ザルモノニ付テハ此ノ限りニ非

ザルモノトス

二、日本船用品統制株式會社ハ前號ニヨリ引換讓渡ヲ受ケ

タル故マニラ索ヲ取纏メ日本故マニラ麻統制株式會社ニ

對シ一括讓渡スルト共ニ該會社ト協議ノ上再生數量ヲ決

定シ海務院ニ通知スルモノトス

三、海務院ハ前號ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ再生數量内ニ

於テ再生マニラ索銘柄及數量ヲ決定シ之ヲ希望再生マニ

ラ索製造業者ト共ニ纖維局ニ通知スルモノトス

四、再生マニラ索製造業者ハ纖維局ノ指示ニ依リ日本故マ

ニラ麻統制株式會社ヨリ第二號ニヨリ再生用故マニラ索

救命索

- 入渠船支木釣綱
- 總噸數一〇〇噸以下純帆船張帆用索
- 三等品マニラ索又ハ代用品
- オーニング用索
- 甲板置箱物緊縛用索
- フエングデー
- 荷役用舂中編用索

資第一四四六號

昭和十六年九月十六日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院船舶部

海運組合法ニ依ル組合ニ加入スル資格ナキ

船舶ニ對スルマニラ索配給ニ關スル件

頭書ニ該當スル船舶中日本海運協會近海汽船協會所屬船會社所有ニ係ル曳船足船等ニシテ營利ヲ目的トセザル船舶ニ對シ左記ニヨリマニラ索ヲ配給致スコトト相成候條可然處理相成度

追テ造船所所有ニ係ル曳船足船等ニ付テハ該造船所ノ設備用トシテ處理相成度

記

一、管海管廳ニ於テ表記該當船舶ヨリマニラ索配給ノ申出アリタル時ハ其ノ船主名、船名、總噸數及船舶ノ用途ヲ

海務院ニ通報スルコト

- 二、船務院ハ前號ノ通報ヲ受ケタル時ハ手帖表面ニ船名及所有者名ヲ記入シ該管海官廳ニ送付ス
- 三、前號ノ送付ヲ受ケタル管海官廳ハ手帖表面所屬團體名印欄ニ官廳名ヲ記入シ手帖番號ハ當該官廳ニ於テ發行セラル番號ヲ記入捺印ノ上船舶所有者ニ交付スルコト
- 四、手帖ヲ交付セル時ハ遲滞ナク需給要領附則第三號(ロ)ニ準ジ海務院ニ報告スルコト

資第一六五四號

昭和十六年十月十日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院

船舶用マニラ索手帖交付ニ關スル件

造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ建造スル新造漁船ノ運航用マニラ索ニシテ從來ノ慣例ニ依リ造船所ニテ裝備ヲ引受ケタルマニラ索ノ配給ニ關シテハ今般左記ニ依リ處理スルコトト相成候條了知相成度

追テ日本船用品統制株式會社ニ對シテハ別紙寫ノ通牒豫置候條爲念

記

一、造船統制會ハ其ノ所屬ノ造船所ヨリ新造漁船用マニラ索ノ配給申出アリタル時ハ第二號ニ依リマニラ索手帖作成ノ上之ヲ當該造船所ニ交付スルコト

本新造漁船用手帖ハ造船所備付トスルコト

二、前號ニ依リ手帖ヲ交付セントスルトキハ手帖表面ニ新造漁船用ト朱書シ海務院ノ證印ヲ受クルコト

三、手帖ヲ交付シタルトキハ遲滞ナク需給要領附則第三號

(ロ)ニ準ジ海務院ニ報告スルコト

四、第一號ノ手帖ニ依リ配給スベキマニラ索ハ擔當検査官

ノ證明ヲ付與シタルモノナルコト

右證明ハ、手帖ニ検査官ノ證印ヲ押捺ノ方法ニ依ルコト

資第一六五四號

昭和十六年十月十日 (昭和十七年七月二十日改正)

日本船用品統制株式會社

海務院

船舶用マニラ索手帖交付ニ關スル件

造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ新造漁船ノ運航用マニラ索ニシテ從來ノ慣例ニヨリ造船所ニテ裝備ヲ引受ケタルマニラ索配給ニ關シテハ今般左記ニ依リ措置スルコトト相成候條地方配給會社ニ周知ノ上之ガ取扱ニ付テハ遺憾ナキ様配意相成度

記

- 一、造船統制會所屬ノ造船所ニ於テ漁船ニ裝備スベキマニラ索配給ノ申出アリタルトキハ造船統制會ヨリ交付ノ新造漁船用ト朱書セルマニラ索手帖ニ依ルコト
- 二、前號ノ手帖ニ依リマニラ索ヲ販賣セントスルトキハ新

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

造船船ノ擔當検査官ノ證明(證印)ヲ要スルモノナルコト

資第一九六二號

昭和十六年十一月二十七日 (昭和十七年七月二十日改正)

海務院

船舶用マニラ索ノ故索取扱ニ關スル件

頭書ノ件ニ關シ今般別紙船舶用故マニラ索取扱要領ニヨリ來ル十一月二十五日ヨリ實施致スコトト相成候條了知相成度

船舶用故マニラ索取扱要領

- 一、日本船用品統制株式會社所屬ノ地方船用品配給會社ハ當該船舶ニ於テ使用シタル故マニラ索ノ引換讓渡ヲ受クルニ非ザレバマニラ索ヲ販賣スルコトヲ得ザルモノトス但シ新造船用及止ムヲ得ザルモノニ付テハ此ノ限りニ非ザルモノトス
- 二、日本船用品統制株式會社ハ前號ニヨリ引換讓渡ヲ受ケタル故マニラ索ヲ取纏メ日本故マニラ統制株式會社ニ對シ一括讓渡スルト共ニ該會社ト協議ノ上再生數量ヲ決定シ海務院ニ通知スルモノトス
- 三、海務院ハ前號ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ再生數量内ニ於テ再生マニラ索銘柄及數量ヲ決定シ之ガ希望再生マニラ索製造業者ト共ニ纖維局ニ通知スルモノトス
- 四、再生マニラ索製造業者ハ纖維局ノ指示ニ依リ日本故マニラ統制株式會社ヨリ第二號ニヨリ再生用故マニラ索

ヲ受取り第三號ニヨル製品ヲ製造ノ上日本船用品統制株式會社ニ一括讓渡スルモノトス

五、前號ニヨル再生マニラ索ノ配給ニ付テハ海務院關係マニラ索需給要領ニ依リ處理スルモノトス

二 海務院關係綿帆布需給要領

一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修用工場並ニ荷役用ニ使用スル綿帆布ノ需給ニ關スルコトヲ定ム但シ官廳所有船及漁船ノ補修用ヲ除クモノトス

二 海務院ハ商工省ト協議ノ上毎四半期ニ於ケル號數別所要反數ヲ決定シ日本船用品統制株式會社（以下船用品會社ト稱ス）ニ通知スルモノトス

三 船用品會社ハ前號ノ通知ヲ受ケタルトキハ日本綿ス・フ織物製造株式會社ヨリ現品ヲ一括購入ノ上海務院ノ指示ニ從ヒ地方船用品配給會社ヲシテ現品ノ保管ニ任ゼシムルモノトス

四 船舶用綿帆布ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行シタル船舶用綿帆布手帖（以下手帖ト稱ス）ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス

五 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示シタル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス

六 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル號數別反數及

五日附資第一五四三號通牒及同年十月七日附資第一六一四號改正通牒）ハ之ヲ繼續實施ス

八 新造漁船ニ對スル綿帆布ノ配給ニ關シテハマニラ索需給要領附則第九號ニ準ジ取扱フモノトス

九 本要領ニ依ル綿帆布ノ配給ハ製品ヲ以テスルヲ原則トシ消費者ニ於テ加工又ハ修理スル生地ノ配給量ハ各銘柄毎ニ一反以內トス但シ縫加工設備ヲ有スル造船所ニ對スル配給量ハ此ノ限りニ非ズ

資第一五四三號

昭和十六年九月二十五日（昭和十七年七月二十日改正）

海務院 船舶部

船舶用綿帆布用途制限ニ關スル件

現下ノ船舶用綿帆布ノ需給狀況ニ鑑ミ之ガ使用ヲ極力節約シ以テ利用ノ適切有效ナル措置ヲ講ズルコトハ喫緊ノ要務ナルニ付今般用途ヲ別表ノ通り制限シ以テ船舶ノ圓滑ナル運航ヲ期スルコトト相成候條左記事項留意ノ上之ガ實施ニ付萬遺漏ナキ様貴會會員ニ周知方可能措置相煩度候

記

- 一、別表以外ノ用途ニシテ絕對ニ綿帆布ヲ要スルモノニ付テハ其ノ都度當局ノ承認ヲ受クルコト
- 二、本用途制限ハ新規使用ノモノニ付適用シ昭和十六年九月二十日ヨリ之ヲ實施ス但シ實施日以前ノ割當ニ係ル綿

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附則

一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶造修用工場並荷役用」トハ甲造船計畫ニ屬スル船舶用並海軍管理工場（海軍管理工場以外ノ工場中海軍ヨリ直接軍需品ノ造修ヲ命ジツツアル重要工場ヲ含ム）ニ於ケル船舶ノ造修用以外ノ船舶造修用工場用並荷役用ヲ指スモノトス

二 要領第四號ニ依ル手帖ノ發給方法ハ船舶用マニラ索需給要領附則第一號ニ準ジ取扱フモノトス

三 手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
（イ） 本手帖番號ハ船舶用マニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト

（ロ） 團體ニ於テ其ノ需要者ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受クルコト
四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻スルモノトス

前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メ海務院ニ報告スルモノトス

五 本要領ハ即日之ヲ實施ス

六 船舶用綿帆布配給要領、同要綱取扱手續（昭和十六年六月十八日附資第八四二號通牒）ハ之ヲ廢止ス

七 船舶用綿帆布用途制限ニ關スル件（昭和十六年九月二十

帆布ニ付テハ割當銘柄ノ都合ニ依リ上位ノ規格番號ノモノヲ使用スルモ差支ナキコト

船舶用綿帆布用途表

海務院

船口覆布

近海區域以上ノ區域ヲ航行スル船舶

三號以下

沿海區域ヲ航行スル船舶

六號以下

平水區域ヲ航行スル船舶

九號以下

天幕

船舶設備規程第七十九條第一項各號ノ場合

九號以下

船舶修理作業用

六號以下

端艇用帆

十一號

海錨

四號以下

ウインドセール

四號以下

通風筒覆及スカイライト覆

三號以下

パイプラツキング

三號以下

蒸氣管用

十號以下

テレモーターパイプ

〃

帆

純帆船用

總噸數一〇〇以上

三號以下

機帆船用

總噸數一〇〇以下

五號以下

三號以下

五七七

- 船用品
- 航海用器具類
- セメント等袋物荷眷用
- パツキンダ
- マスト、コート、カバー
- 機械類カバー
- 救命器具製作用
- ブリツヂオーニング及スクリーン

- 六號以下
- 四號以下
- 三號以下
- 六號以下
- 九號以下
- 三號以下
- 三號以下
- 以上

三 海務院關係布ホース需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修並工場施設ニ使用スル布ホースノ需給ニ關スルコトヲ定ム但シ官廳所有船及漁船ノ補修用ヲ除クモノトス
- 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ日本船用品統制株式會社(以下船用品會社ト稱ス)ヲシテ該品ヲ一括購入セシムルモノトス
- 三 布ホースヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行シタル船舶用布ホース手帖(以下手帖ト稱ス)ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス

新し手帖番號、船舶所有者名、船種、船名、總噸數及前手帖番號、造船所名、造船番號ヲ海務院ニ通知スルコト

- 三 手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
- (イ) 手帖番號ハマニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト
- (ロ) 團體ニ於テ其ノ加盟者ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受クルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻スルモノトス

前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メ海務院ニ報告スルモノトス

五 本要領ハ即日之ヲ實施ス

- 六 船舶用布ホース配給要領(昭和十六年十一月二十五日附資第一九四八號通牒)ハ之ヲ廢止ス

四、海務院關係故纖維需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修用及工場用ニ使用スル故纖維ノ需給ニ關スルコトヲ定ム但シ官廳所有船用及漁船用ヲ除クモノトス
- 二 海務院ハ商工省ヨリ毎月割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ割當數量ノ範圍内ニ於テ左ノ割當ヲ爲スモノトス
- (イ) 造船統制會
- (ロ) 海運關係

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

四 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ買入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示シタル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス

五 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル種類、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附 則

- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶造修用並工場施設用」トハ甲造船計畫ニ屬スル船舶用並海軍管理工場(海軍管理工場以外ノ工場中海軍ヨリ直接軍需品ノ造修ヲ命ジツツアル重要工場ヲ含ム)ニ於ケル船舶造修用以外ノ船舶造修用並工場用ヲ指スモノトス
 - 二 要領第三號ニ依ル手帖ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
 - (イ) 日本海運協會及近海汽船協會ノ所屬船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
 - (ロ) 造船所ノ設備用トシテ布ホースヲ必要トスルモノニ對スル手帖ハ造船統制會ニ於テ發給スルコト
 - (ハ) 建造中ノ船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ造船統制會ニ於テ當該造船所ニ對シ發給スルコト
- 前項新造船ノ手帖ハ竣工後ト雖モ其ノ儘該船ノ手帖トシテ使用スルコト但シ竣工後ハ遲滯ナク海運組合ニ加入シ該組合ノ捺印ヲ受クルコトヲ要ス
- 海運組合ハ前項但書ニ依リ手帖ニ捺印シタル時ハ遲滯ナク

三 海務院ハ前號ノ割當ヲ爲シタル時ハ之ヲ日本故纖維統制株式會社(以下故纖維會社ト稱ス)ニ通知スルモノトス

四 第二號(イ)ノ配給ハ左ニ依ルモノトス

- (イ) 造船統制會ハ其ノ割當範圍内ニ於テ其ノ需要者ニ對シ割當ヲ行ヒ海務院ニ報告スルコト
- (ロ) 造船統制會ハ前項ノ割當ヲ爲シタル時ハ遲滯ナク發送先別數量表ヲ作成シ故纖維會社ニ送付ノ上現品ノ配給ヲ受クルコト

五 第二號(ロ)ノ配給ハ左ニ依ルモノトス

- (イ) 海務院ハ第二號(ロ)關係部門ノ割當數量ヲ決定シタル時ハ日本船用品統制株式會社(以下船用品會社ト稱ス)ヲシテ該品ヲ一括購入セシムルコト
- 船用品會社ハ一括購入シタル製品ヲ海務院ノ指定セル地區ニ配分シ地方船用品配給會社ヲシテ保管セシムルコト
- (ロ) 故纖維ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行セル船舶用故纖維手帖(以下手帖ト稱ス)ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルコト
- (ハ) 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ買入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示セル手續ニ依リ之ガ販賣ヲ爲スコト
- (ニ) 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル種類、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルコト

附 則

- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶造修用及工場用」トハ甲造船計畫ニ屬スル船舶用並海軍管理工場（海軍管理工場以外ノ工場中海軍ヨリ直接軍需品ノ造修ヲ命ジツアル重要工場ヲ含ム）ニ於ケル船舶ノ造修用以外ノ船舶造修用工場用ヲ指スモノトス
- 二 要領第五號（ロ）ニ依ル手帖ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
 - （イ） 日本海運協會、近海汽船協會及全國機帆船海運組合聯合會所屬船舶並ニ全國沿岸タンク船海運組合所屬機帆船ニ對スル手帖ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
 - （ロ） 日本港運業會及全國沿岸タンク船海運組合所屬會員ニ對スル手帖ハ會員毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
- 三 前項ノ手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
 - （イ） 本手帖番號ハマニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト
 - （ロ） 團體ニ於テ其ノ加盟者ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受クルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滞ナク發行團體ニ返戻スルモノトス
- 前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月取纏メノ上海務院ニ報告コスルト
- 五 本要領ハ即日之ヲ實施ス

六 船舶用故織維配給要項（昭和十五年十二月十日附資第一一九六號通牒）ハ之ヲ廢止ス

五、海務院關係綿索需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修用ニ使用スル綿索ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
 - 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ銘柄數量ヲ決定シ日本船用品統制株式會社（以下船用品會社ト稱ス）及型式承認ヲ受有スル綿索製造人（以下綿索製造人ト稱ス）ニ對シ通知スルモノトス
 - 三 船用品會社ハ前號ノ通知ヲ受ケタル時ハ綿索製造人ヨリ該製品ヲ一括購入ノ上地方船用品配給會社ヲシテ之ガ保管ヲ爲サシムルモノトス
 - 四 綿索ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行シタル船舶用綿索手帖（以下手帖ト稱ス）ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス
 - 五 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示シタル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス
 - 六 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル品種、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス
- 附 則
- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶用綿索」トハ該品ヲ

必要トスル船舶向綿索ヲ指スモノトス

二 手帖ノ取扱ニ關シテハ海務院關係綿帆布需給要領附則ニ準ズルモノトス

三 本要領ハ即日之ヲ實施ス

六 海務院關係旗需給要領

- 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶ノ造修用ニ使用スル船舶用旗ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
- 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ船舶用旗ノ製作品種數量ヲ決定シ日本船舶信號旗製作所及日本船用品統制株式會社（以下船用品會社ト稱ス）ニ通知スルモノトス
- 三 日本船舶信號旗製作所ハ前號ノ通知ヲ受ケタル時ハ船舶用旗布製織業者ヨリ布地ヲ一括購入シ指示セラレタル船舶用旗ヲ製作ノ上船用品會社ニ一括納入スルモノトス
- 四 船用品會社ハ前號ニヨリ一括購入シタル製品ヲ海務院ノ指示ニ從ヒ各地区ニ配分ノ上地方船用品配給會社ヲシテ保管セシムルモノトス
- 五 船舶用旗ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行セル船舶用旗手帖（以下手帖ト稱ス）ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス
- 六 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示セル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス

ス

七 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル品種、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附 則

- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶ノ造修用ニ使用スル船舶用旗」トハ船舶備附ノ國旗、國際信號旗、郵便旗、萬國旗、信號手旗及社旗ヲ指スモノトス
- 二 要領第五號ニ依ル手帖ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
 - （イ） 日本海運協會、近海汽船協會其他海務院ニ於テ指定セル團體ノ所屬船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
 - （ロ） 建造中ノ船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ造船統制會ニ於テ當該造船所ニ對シ發給スルコト
- 前項新造船ノ手帖ハ竣工後ト雖モ其ノ儘該船ノ手帖トシテ使用スルコト但シ竣工後ハ遲滞ナク海運團體ニ加入ノ上該組合ノ捺印ヲ受クルコト
- 海運組合ハ前項但書ニ依リ手帖ニ捺印シタル時ハ遲滞ナク新手帖番號、船舶所有者名、船種、船名、總噸數及前手帖番號、造船所名、造船番號ヲ海務院ニ通知スルコト
- 三 手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
 - （イ） 手帖番號ハマニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト
 - （ロ） 團體ニ於テ其ノ會員ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時

- ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受ケルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻スルモノトス
- 前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メ海務院ニ報告スルモノトス
- 五 本要領ハ即日之ヲ實施ス
- 六 船舶用旗配給要綱(昭和十六年十二月十八日附資第二一三號通牒)ハ之ヲ廢止ス但シ右要綱ニ依ル手帖ハ其ノ儘繼續使用スルモノトス
- 七 海務院關係屑綿絲製品需給要領
 - 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶造修ニ使用スル綿絲バツキング及船舶ニ於テ使用スル綿絲バンド・スワツプノ需給ニ關スルコトヲ定ム
 - 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期屑綿絲ノ割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ品種、數量ヲ決定シ日本屑綿絲工業組合聯合會ヲシテ之ガ加工ヲ爲サシメタル上該製品ヲ日本船用品統制株式會社(以下船用品會社ト稱ス)ニ一括納入セシムルモノトス
 - 三 船用品會社ハ前號ニヨル製品ヲ海務院ノ指示ニ從ヒ各地區ニ配分ノ上地方船用品配給會社ヲシテ之ガ保管ヲ爲サシムルモノトス
 - 四 第一號ノ製品ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發

行セル船舶用屑綿絲製品手帖(以下手帖ト稱ス)ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス

- 五 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示セル手續ニ依リ之ガ販賣ヲ爲スモノトス
- 六 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル品種、數量及販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附 則

- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶造修用ニ使用スル綿絲バツキング及船舶ニ於テ使用スル綿絲バンド・スワツプ」トハ該品ヲ必要トスル船舶向並工場向バツキング、バンド・スワツプヲ指スモノトス
- 二 要領第四號ニ依ル手帖ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
 - (イ) 日本海運協會、近海汽船協會及全國機械航海運組合聯合會ノ所屬船舶並ニ全國沿岸タンク船海運組合所屬機帆船ニ對スル手帖ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スル事
 - (ロ) 造船統制會々員ニ對スル手帖ハ會員毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
- 三 手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
 - (イ) 手帖番號ハマニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト
 - (ロ) 團體ニ於テ其ノ加盟者ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受ケルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻ス

販賣先ヲ船用品會社ヲ經テ海務院ニ報告スルモノトス

附 則

- ルモノトス
- 前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メ海務院ニ報告スルモノトス
- 五 本要領ハ即日之ヲ實施ス
- 六 船舶用屑綿絲製品配給要領(昭和十六年十二月十一日附資第二〇二六號通牒)ハ之ヲ廢止ス但シ右要領ニヨル手帖ハ其儘繼續使用スルモノトス
- 八 海務院關係毛布需給要領
 - 一 本要領ハ海務院ノ管掌スル船舶ノ備附毛布ノ需給ニ關スルコトヲ定ム
 - 二 海務院ハ商工省ヨリ毎期割當量ノ通知ヲ受ケタル時ハ日本船用品統制株式會社(以下船用品會社ト稱ス)ヲシテ該品ヲ一括購入セシムルモノトス
 - 船用品會社ハ一括購入シタル現品ヲ海務院ノ指示セル地區ニ配分ノ上地方船用品配給會社ヲシテ保管セシムルモノトス
 - 三 船舶用毛布ヲ必要トスルモノハ其ノ所屬スル團體ノ發行セル船舶用毛布手帖(以下手帖ト稱ス)ニ依ルニ非ザレバ之ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス
 - 四 地方船用品配給會社ハ手帖ヲ以テ購入ノ申込ヲ受ケタル時ハ海務院ノ指示セル手續ニ依リ之ガ販賣ヲナスモノトス
 - 五 地方船用品配給會社ハ毎月其ノ販賣シタル品種、數量及

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領

- 一 本要領ニ於テ「海務院ノ管掌スル船舶ノ備附毛布」トハ該品ヲ必要トスル船舶向毛布ヲ指スモノトス
- 二 要領第三號ニ依ル手帖ノ發給方法ハ左ニ依ルモノトス
 - (イ) 日本海運協會及近海汽船協會所屬船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ當該團體ニ於テ發給スルコト
 - (ロ) 建造中ノ船舶ニ對スル手帖ハ各船毎ニ造船統制會ニ於テ當該造船所ニ對シ發給スルコト
- 前項新造船ノ手帖ハ竣工後ト雖モ其儘該船ノ手帖トシテ使用スルコト但シ竣工後ハ遲滯ナク海運組合ニ加入シ該組合ノ捺印ヲ受ケルコトヲ要ス
- 海運組合ハ前項但書ニ依リ手帖ニ捺印シタル時ハ遲滯ナク新造手帖番號、船舶所有者、船種、船名、總噸數及前手帖番號、造船所名、造船番號ヲ海務院ニ通知スルコト
- 三 手帖ノ交付手續ハ左ニ依ルモノトス
 - (イ) 手帖番號ハマニラ索手帖ト同一番號ヲ附スルコト
 - (ロ) 團體ニ於テ其ノ加盟者ニ對シ手帖ヲ交付セントスル時ハ該手帖ニ海務院ノ證印ヲ受ケルコト
- 四 手帖ノ不要トナリタルモノハ遲滯ナク發行團體ニ返戻スルモノトス
- 前項ノ返戻ヲ受ケタル團體ハ毎月之ヲ取纏メ海務院ニ報告